

CELSIUS J365

製品ガイド

本書をお読みになる前に

1 各部名称

2 取り扱い

3 周辺機器の設置／
設定／増設

4 セキュリティ

5 ソフトウェア

6 BIOS

7 お手入れ

8 トラブル
シーティング

9 仕様一覧／技術情報

目次

本書をお読みになる前に	7
本書の表記	7
商標および著作権について	10
第 1 章 各部名称	
1 各部の名称と働き	12
ワークステーション本体前面	12
ワークステーション本体背面	15
ワークステーション本体内部	18
メインボード	19
第 2 章 取り扱い	
1 マウス	22
マウスの使い方	22
マウスの設定を変更する	24
USB マウス（光学式）／USB マウス（レーザー式）	25
2 キーボード	26
3 CD/DVD	29
取り扱い上の注意	29
使用できるディスク	32
推奨ディスク	34
DVD-RAM をフォーマットする（Windows Vista の場合）	35
DVD-RAM をフォーマットする（Windows XP の場合）	36
ディスクをセットする／取り出す	38
ディスクが取り出せなくなったら	40
4 フロッピーディスク	41
取り扱い上の注意	41
フロッピーディスクをセットする／取り出す	42
5 ディスプレイ	44
解像度や発色数を変更する	44
6 2 台目のディスプレイ	47
マルチディスプレイ機能	47
2 台目のディスプレイを接続する	48
マルチディスプレイ機能を設定する	
(ATI Radeon HD 2400 PRO の場合)	52
マルチディスプレイ機能を設定する	
(カスタムメイドで Quadro FX シリーズを選択した場合)	54

7 音量 (Windows Vista の場合)	57
画面上の音量つまみで設定する	57
ご購入時に音量を調節できる項目	59
8 音量 (Windows XP の場合)	60
画面上の音量つまみで設定する	60
再生時／録音時の音量設定	61
ご購入時に音量を調節できる項目	62
9 通信	63
LAN (有線 LAN)	63
10 スリープ／休止状態 (Windows Vista の場合)	65
スリープ／休止状態とは	65
注意事項	67
スリープ／休止状態の使い方	69
スリープ／休止状態の設定を変更する	72
11 スタンバイ／休止状態 (Windows XP の場合)	74
スタンバイ／休止状態とは	74
注意事項	75
スタンバイ／休止状態の使い方	77
スタンバイ／休止状態の設定を変更する	80

第3章 周辺機器の設置／設定／増設

1 周辺機器を取り付ける前に	84
取り扱い上の注意	84
2 本体カバーを取り外す	86
本体カバーの取り外し方	86
3 メモリ	88
メモリの取り付け場所	88
取り扱い上の注意	88
取り付けられるメモリ	89
メモリを取り付ける	90
メモリ容量を確認する	92
4 拡張カード	94
拡張カードの取り付け場所	95
取り付けられる拡張カード	95
拡張カードを取り付ける	96

第4章 セキュリティ

1 セキュリティの重要性	102
2 コンピュータウイルス	103
コンピュータウイルスとは	103
コンピュータウイルス対策	103
コンピュータウイルスを発見したときは	106

3 Windows やソフトウェアを最新の状態にする	107
Windows Update	107
セキュリティセンター	108
UpdateAdvisor（本体装置）	109
4 ネットワーク接続時のセキュリティ	110
不正アクセスによる被害の例	110
ファイアウォール	110
ネットワーク使用時のデータの暗号化	111
フィッシング詐欺対策	111
5 不正使用からのセキュリティ	112
BIOS のパスワード	112
Windows の管理者権限とユーザー アカウント	112
Windows のパスワード	113
アクセス権と暗号化	113
スマートカードリーダ／ライタ	114
セキュリティチップ	114
Portshutter	114
エグゼキュート・ディスエーブル・ビット機能	115
6 ワークステーションの盗難防止	116
盗難防止用ロック取り付け穴の使用方法	116
ワークステーション本体前面の施錠方法	116
セキュリティ施錠金具の使用方法	117
7 ワークステーション本体の廃棄・譲渡時のご注意	118
ワークステーションの廃棄・譲渡時のハードディスク上のデータ消去に 関するご注意	118
ハードディスクデータ消去	119
ハードディスクのデータ消去サービス	121
8 データのバックアップ	122
バックアップの必要性	122
バックアップ方法	122

第5章 ソフトウェア

1 ソフトウェアの紹介	124
セキュリティ関連のソフトウェア	125
サポート関連のソフトウェア	126
ユーティリティ	127
ビューア	128
CD/DVD 関連のソフトウェア	128
Office 製品	130
2 インストール	131
「ドライバーズディスク検索ツール」からのインストール	131
「i- フィルター」のインストール	133
「SMARTACCESS/Basic」のインストール	133
Office 製品のインストール	133

3 アンインストール	134
注意事項	134
アンインストール方法	134

第 6 章 BIOS

1 BIOS セットアップ	136
2 BIOS セットアップの操作のしかた	137
BIOS セットアップを起動する	137
BIOS セットアップ画面	137
各キーの役割	138
設定値を変更する	139
BIOS セットアップを終了する	140
起動メニューを使用する	140
3 メニュー詳細	141
情報メニュー	141
システムメニュー	143
詳細メニュー	145
セキュリティメニュー	151
PC Health メニュー	154
終了メニュー	156
4 BIOS のパスワード機能を使う	157
パスワードの種類	157
パスワードを忘れてしまったら	157
パスワードを設定する	158
パスワードを使う	159
パスワードを変更／削除する	159
5 認証デバイスのセキュリティ機能を使う	161
6 BIOS イベントログに記録されるエラーメッセージ一覧	162
エラーメッセージが記録されたときは	162
エラーメッセージ一覧	162

第 7 章 お手入れ

1 ワークステーション本体のお手入れ	166
ワークステーション本体	166
ヒートシンク	169
フロッピーディスクドライブ	176
2 周辺機器のお手入れ	178
キーボード	178
マウス	178

第8章 ブラウジング

1 トラブル発生時の基本操作	182
落ち着いて状況を確認する	182
トラブルシューティングで調べる	183
インターネットで調べる	184
診断プログラムを使用する	184
サポートの窓口に相談する	185
2 よくあるトラブルと解決方法	186
トラブル一覧	186
起動・終了時のトラブル	188
Windows・ソフトウェア関連のトラブル	191
ハードウェア関連のトラブル	194
3 それでも解決できないときは	211
お問い合わせ先	211

第9章 仕様一覧／技術情報

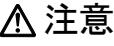
1 本体仕様	214
2 その他の仕様	217
LAN 機能	217
表示機能	217
コネクタのピン配列と信号名	218
CPU	224
ドライブ構成	225
CD/DVD ドライブ仕様	228
索引	229

本書をお読みになる前に

本書の表記

■ 警告表示

本書では、いろいろな絵表示を使っています。これは本製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々に加えられるおそれのある危害や損害を、未然に防止するための目印となるものです。その表示と意味は次のようにになっています。内容をよくご理解のうえ、お読みください。

	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡する可能性または重傷を負う可能性があることを示しています。
	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性があること、物的損害が発生する可能性があることを示しています。

また、危害や損害の内容がどのようなものかを示すために、上記の絵表示と同時に次の記号を使っています。

	△で示した記号は、警告・注意を促す内容であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な警告内容が示されています。
	○で示した記号は、してはいけない行為（禁止行為）であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な禁止内容が示されています。
	●で示した記号は、必ず従っていただく内容であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な指示内容が示されています。

■ 本文中の記号

本文中に記載されている記号には、次のような意味があります。

記号	意味
	お使いになるときの注意点や、してはいけないことを記述しています。必ずお読みください。
	操作に関連することを記述しています。必要に応じてお読みください。
→	参照ページを示しています。

■ キーの表記と操作方法

本文中のキーの表記は、キーボードに書かれているすべての文字を記述するのではなく、説明に必要な文字を次のように記述しています。

例：【Ctrl】キー、【Enter】キー、【→】キーなど

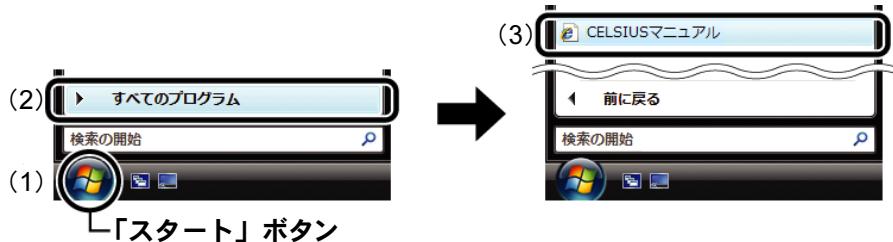
また、複数のキーを同時に押す場合には、次のように「+」でつないで表記しています。

例：【Ctrl】+【F3】キー、【Shift】+【↑】キーなど

■ 連続する操作の表記

本文中の操作手順において、連続する操作手順を、「→」でつなげて記述しています。

例：「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「CELSIUS マニュアル」の順にクリックします。



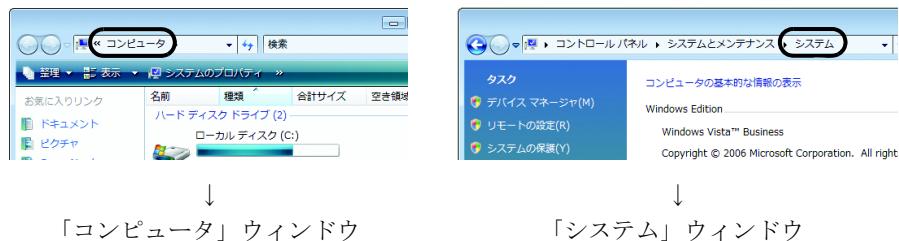
(画面は Windows Vista の例です)

(1)「スタート」ボタンをクリックし、(2)「すべてのプログラム」をポイントし、(3)「CELSIUS マニュアル」をクリックする操作を表しています。

■ ウィンドウ名の表記について

Windows Vista の場合、本文中のウィンドウ名は、アドレスバーの最後に表示されている名称を表記しています。

例：



■ 画面例およびイラストについて

画面およびイラストは一例です。お使いの機種やモデルによって、実際に表示される画面やイラスト、およびファイル名などが異なることがあります。また、イラストは説明の都合上、本来接続されているケーブル類を省略していることがあります。

■ CD や DVD の使用について

本文中の操作手順において、CD や DVD を使用することができます。

操作に必要なドライブが搭載されていないモデルをお使いの場合は、必要に応じて別売の周辺機器を用意してください。使用できる周辺機器については、富士通製品情報ページ内にある CELSIUS Workstation Series の「システム構成図」(<http://www.fmworld.net/biz/celsius/price/>) をご覧ください。

また、周辺機器の使用方法については、周辺機器のマニュアルをご覧ください。

■ 本書に記載している仕様とお使いの機種との相違について

本文中の説明は、標準仕様に基づいて記載しています。

ご購入時にカスタムメイドで仕様を変更した機種の場合は、本文中の説明がお使いの機種の仕様と異なる場合があります。あらかじめご了承ください。

なお、本文内において、機種やOS別の書き分けがある箇所については、お使いの機種の情報を読みください。

■ 製品名の表記

本文中では、製品名称を次のように略して表記します。

製品名称	本文中の表記		
CELSIUS J365	J365	本ワークステーション ワークステーション本体	
Windows Vista® Business with Service Pack 1	Windows Vista Business	Windows Vista Windows	
Windows Vista® Enterprise with Service Pack 1	Windows Vista Enterprise		
Microsoft® Windows® XP Professional	Windows XP Professional	Windows XP	
Microsoft® Windows® XP 日本語版 Service Pack	SP		
Windows® Internet Explorer® 7	Internet Explorer 7		
Microsoft® Office Personal 2007	Office Personal 2007		
Microsoft® Office Personal 2007 with Microsoft® Office PowerPoint® 2007	Office Personal 2007 with PowerPoint 2007		
Norton AntiVirus™ 2009	Norton AntiVirus		
Roxio Creator LJ	Roxio Creator		
InterVideo WinDVD® for FUJITSU	WinDVD		
Adobe® Reader® 9.0.1	Adobe Reader		
ATI Radeon™ HD 2400 PRO	ATI Radeon HD 2400 PRO		
NVIDIA Quadro® FX 580	Quadro FX 580	Quadro FX シリーズ	
NVIDIA Quadro® FX 1800	Quadro FX 1800		
2ボタンスクロール付マウス (USB／光学式)	USB マウス (光学式)	2ボタンマウス	
3ボタンマウス (USB／光学式)	USB3 ボタン マウス (光学式)	USB マウス (光学式)	3ボタンマウス
2ボタンスクロール付マウス (USB／レーザー式)	USB マウス (レーザー式)	2ボタンマウス	

■ モデルの表記

本文中では、モデル名を次のように表記します。

モデル	本文中の表記
Windows Vista® Business 正規版 &ダウングレードサービス	ダウングレードサービスモデル

■ お問い合わせ先／URL

本文中に記載されているお問い合わせ先や URL は 2009 年 6 月現在のものです。変更されている場合は、「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」へお問い合わせください。詳しくは『取扱説明書』をご覧ください。

商標および著作権について

Microsoft、Windows、Windows Vista、Internet Explorer は、米国 Microsoft Corporation の、米国およびその他の国における登録商標または商標です。

インテル、Intel、および Intel Core は、アメリカ合衆国およびその他の国における Intel Corporation またはその子会社の商標または登録商標です。

ATI、ATI Radeon、ATI HyperMemory、ATI Catalyst は、Advanced Micro Devices, Inc. の商標です。

NVIDIA、NVIDIA Quadro は、NVIDIA Corporation の登録商標です。

Adobe、Reader は、合衆国およびその他の国における Adobe Systems Incorporated の商標または登録商標です。

その他の各製品名は、各社の商標、または登録商標です。

その他の各製品は、各社の著作物です。

Copyright FUJITSU LIMITED 2009

第1章

各部名称

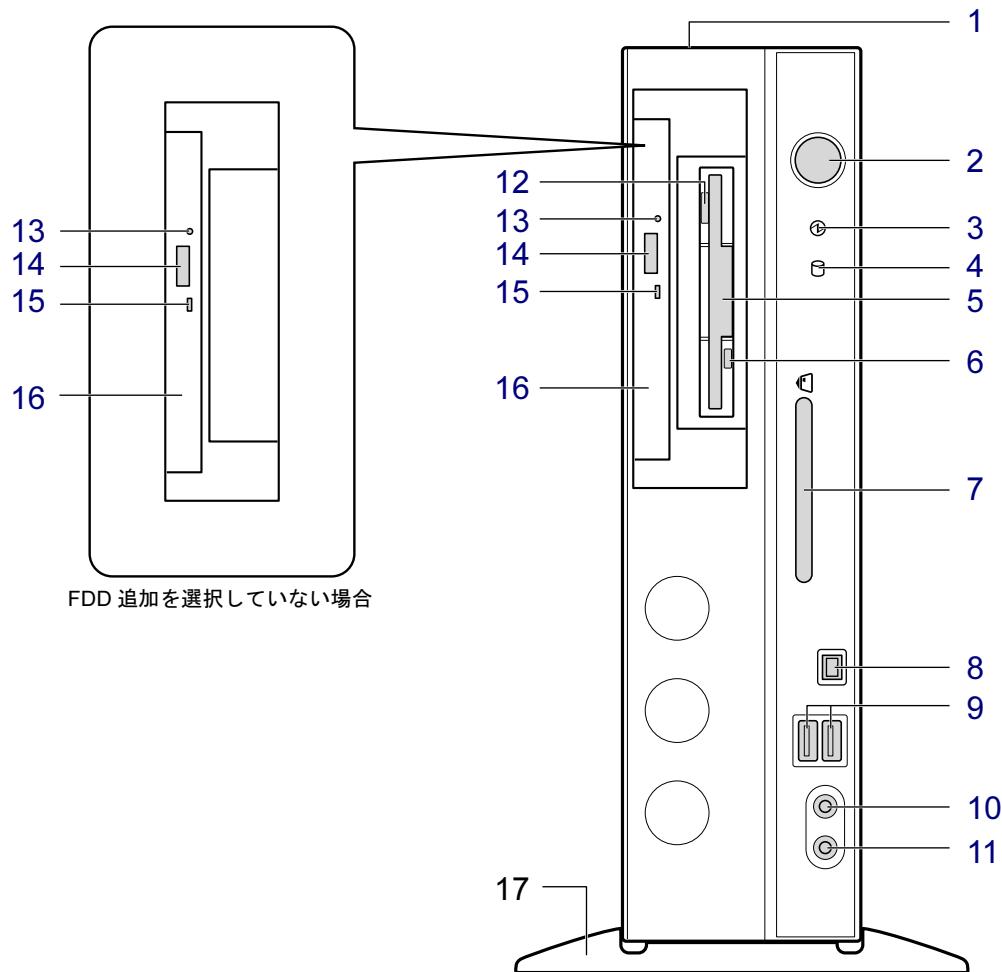
各部の名称と働きについて説明しています。

1 各部の名称と働き 12

1 各部の名称と働き

ここでは、ワークステーション本体、メインボードの各部の名称と働きを説明しています。

ワークステーション本体前面



1 通風孔

ワークステーション本体内部に空気を取り込むことで、ワークステーション本体内部の熱を逃がすための開口部です。物を載せるなどしてふさがないようにご注意ください。
横置きにする場合は、通風孔のある面を、壁などから 10cm 以上離して設置してください。

2 電源ボタン (○)

次の場合に押します。

- ・ワークステーション本体の電源を入れるとき
- ・省電力状態（スリープまたはスタンバイ）に移行したり、省電力状態から復帰（リジューム）したりするとき

ご購入時の状態では、スリープやスタンバイには移行できません。必要に応じて「電源オプション」ウィンドウまたは「電源オプションのプロパティ」ウィンドウで設定を変更してください。

「取り扱い」—「スリープ／休止状態（Windows Vista の場合）」（→ P.65）

「取り扱い」—「スタンバイ／休止状態（Windows XP の場合）」（→ P.74）

3 電源ランプ (①)

本ワークステーションの電源が入っているときに緑色に点灯します。省電力状態（スリープまたはスタンバイ）に移行しているときはオレンジ色に点灯します。

4 ディスクアクセスランプ (□)

ハードディスクにデータを書き込んだり、ハードディスクからデータを読み出したりしているときに点滅します。また、CD/DVD ドライブによっては、CD や DVD にアクセスしているときに点滅する場合があります。

5 フロッピーディスクドライブ

カスタムメイドで内蔵FDD 追加を選択した場合、フロッピーディスクをセットします。

「取り扱い」—「フロッピーディスク」（→ P.41）

6 フロッピーディスクアクセスランプ

カスタムメイドで内蔵FDD 追加を選択した場合、フロッピーディスクにデータを書き込んだり、フロッピーディスクからデータを読み出したりしているときに点滅します。

7 スマートカードベイ (▲)

カスタムメイドでスマートカードリーダ／ライタを選択した場合、スマートカードをセットします。

「セキュリティ」—「スマートカードリーダ／ライタ」（→ P.114）

スマートカードをセットしたときには、アイコンが数回点滅します。

8 IEEE1394a 端子 (1394)

IEEE1394a 規格の周辺機器を接続します。

9 USB コネクタ (●□△)

USB 規格の周辺機器を接続します。USB2.0 に準拠しています。

10 マイク端子 (□)

市販のマイクを接続します（外径 3.5mm のミニプラグ）。

11 ヘッドホンアウト端子 (○)

市販のヘッドホンを接続します（外径 3.5mm のミニプラグ）。

スピーカーを直接接続する場合は、アンプ機能搭載のものをお使いください。

ヘッドホンを接続している間は、ワークステーション本体のラインアウト端子からは、音が出ません。

12 フロッピーディスク取り出しボタン

カスタムメイドで内蔵FDD 追加を選択した場合、フロッピーディスクを取り出すときに押します。

フロッピーディスクアクセスランプが点滅しているときは、押さないでください。

13 ディスク取り出し穴

カスタムメイドで CD/DVD ドライブを選択した場合、CD/DVD 取り出しボタンを押してもトレーが出ない場合に使用します。

電源を切った後、クリップなどの細いワイヤをディスク取り出し穴に挿入すると、トレーが出てきます。CD や DVD を取り出した後、トレーを静かに元の位置に戻してください。ディスク取り出し穴は、緊急の場合以外は使用しないでください。

14 CD/DVD 取り出しボタン

カスタムメイドで CD/DVD ドライブを選択した場合、CD/DVD ドライブに CD や DVD をセットするときや取り出すときに押します。ワークステーション本体の電源が入っているときに使えます。

CD/DVD アクセスランプが点滅しているときは、押さないでください。

15 CD/DVD アクセスランプ

カスタムメイドで CD/DVD ドライブを選択した場合、CD や DVD にデータを書き込んだり、CD や DVD からデータを読み出したりしているときに点滅します。

16 CD/DVD ドライブ

カスタムメイドで CD/DVD ドライブを選択した場合、CD や DVD をセットします。カスタムメイドの選択によって、次のいずれかのドライブが取り付けられています。

- ・DVD-ROM ドライブ
- ・スーパーマルチドライブ

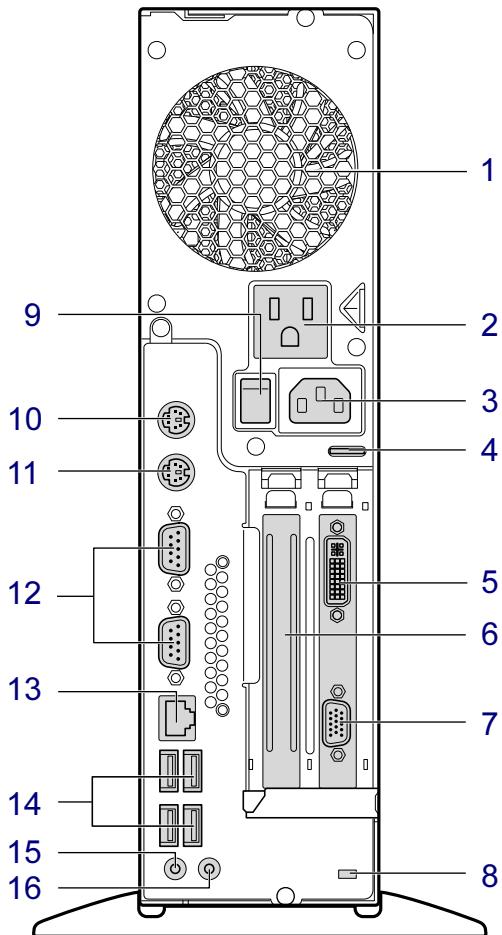
「取り扱い」 - 「CD/DVD」 (→ P.29)

17 フット

本ワークステーションをお使いになるときに取り付ける台座です。取り付け方法については、『取扱説明書』をご覧ください。

ワークステーション本体背面

1



1 通風孔

ワークステーション本体内部の熱を外部に逃がすための開孔部です。

ワークステーションを設置するときは、通風孔をふさがないように注意してください。

2 アウトレット

ディスプレイの電源ケーブルを接続します。

3 インレット

本ワークステーションに添付の電源ケーブルを接続します。

4 セキュリティ施錠金具

南京錠などの市販の鍵を取り付けます。

「セキュリティ」 - 「ワークステーションの盗難防止」 (→ P.116)

5 DVI-I コネクタ (■)

デジタルディスプレイまたはアナログディスプレイを接続します。
アナログディスプレイを接続する場合は、別売の DVI-VGA 変換アダプタを使用してください。

「取り扱い」 - 「2台目のディスプレイ」 (→ P.47)
カスタムメイドの選択によって、コネクタの数が異なります。

6 拡張カードスロット

本ワークステーションの機能を拡張する各種拡張カードを取り付けます。PCI に対応した拡張カードが使えます。

「周辺機器の設置／設定／増設」 - 「拡張カード」 (→ P.94)

7 アナログ RGB コネクタ

アナログディスプレイを接続します。
「取り扱い」 - 「2台目のディスプレイ」 (→ P.47)
カスタムメイドの選択によっては、本コネクタはありません。

8 盗難防止用ロック取り付け穴

市販の盗難防止用ケーブルを取り付けます。
「セキュリティ」 - 「ワークステーションの盗難防止」 (→ P.116)

9 メインスイッチ

ワークステーション本体の電源を完全に切る場合に「オフ」にします（「○」側に切り替えます）。通常は「オン」（「|」側に切り替えた状態）のまま本ワークステーションをお使いください。

「オフ」にすると、電源ボタンを押してもワークステーション本体の電源は入りません。
長時間お使いにならない場合は、「オフ」にしてください。

10 キーボードコネクタ (■)

PS/2 キーボードを接続します。
「取り扱い」 - 「キーボード」 (→ P.26)

11 マウスコネクタ (白)

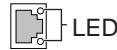
PS/2 マウスを接続します。
「取り扱い」 - 「マウス」 (→ P.22)

12シリアルコネクタ (□)

RS-232C 準拠の機器を接続します。

13 LAN コネクタ (緑)

非シールド・ツイストペア (UTP) ケーブルを接続することができます。
1000Mbps でお使いになる場合、エンハンスドカテゴリ 5 のケーブルが必要です。
100Mbps でお使いになる場合、カテゴリ 5 のケーブルが必要です。



LED の意味は、次のとおりです。

	上部 LED (Speed)	下部 LED (Link/Act)
1000Mbps で Link を確立	オレンジ点灯	緑色点灯 ^注
100Mbps で Link を確立	緑色点灯	緑色点灯 ^注
10Mbps で Link を確立	消灯	緑色点滅 ^注

注 : データ転送中は緑色点滅

14 USB コネクタ (•□□)

USB 規格の周辺機器を接続します。USB2.0 に準拠しています。

15 ラインアウト端子 (□□□)

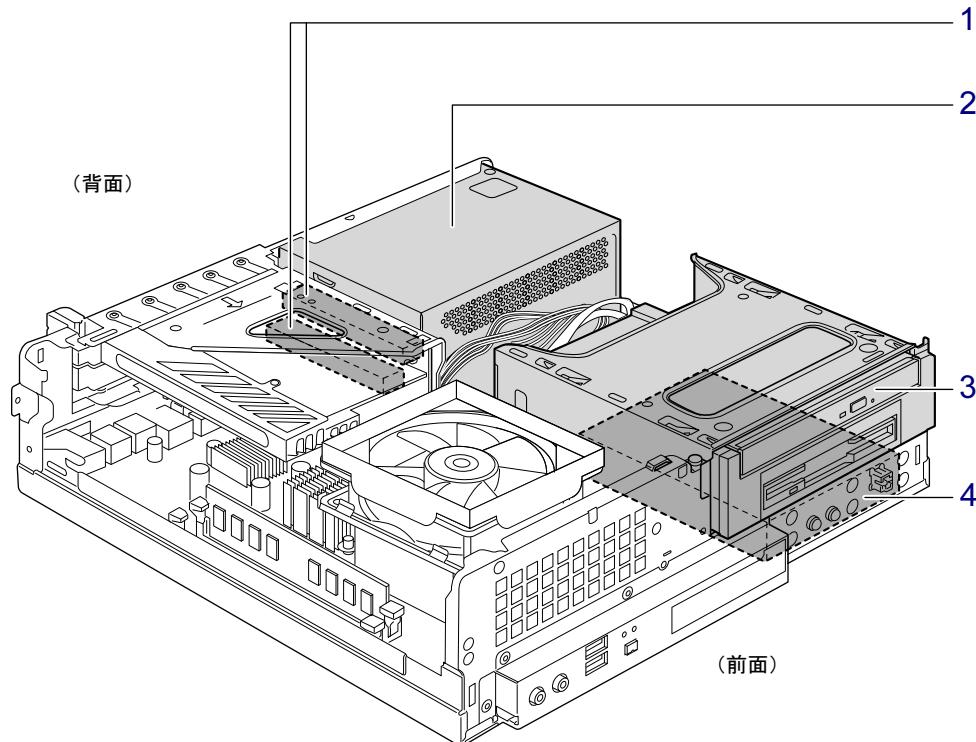
サウンド出力用端子です。オーディオ機器の入力端子と接続します。スピーカーを直接接続する場合は、アンプ機能内蔵のものをお使いください。

なお、ヘッドホンアウト端子にヘッドホンを接続している場合、ラインアウト端子からは音が出ません。

16 ラインイン端子 (□□□)

サウンド入力用端子です。オーディオ機器の出力端子と接続します。

ワークステーション本体内部



1 拡張カードスロット

本ワークステーションの機能を拡張する各種拡張カードを取り付けます。PCIに対応した拡張カードが使えます。

「周辺機器の設置／設定／増設」－「拡張カード」(→ P.94)

2 電源ユニット

3 5インチファイルベイ

カスタムメイドの選択によって、次のドライブが取り付けられています。

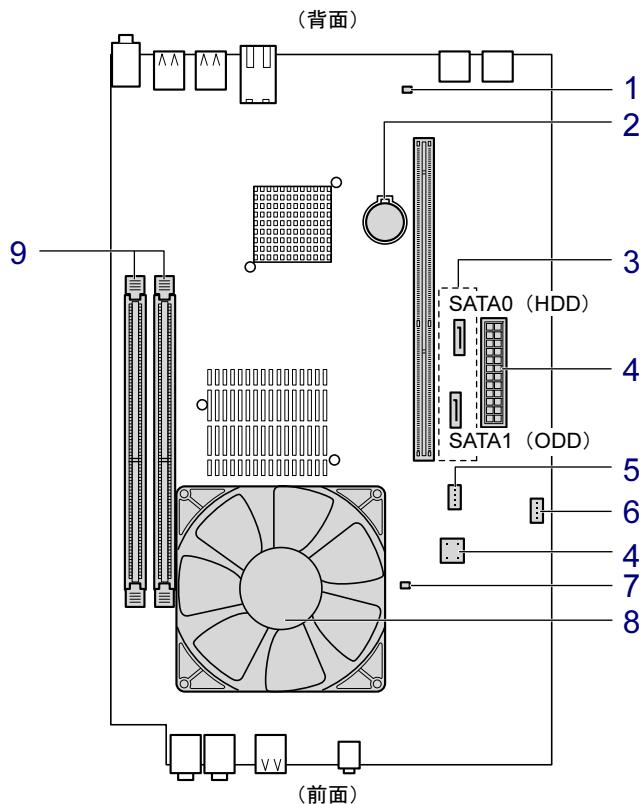
- ・DVD-ROM ドライブ
- ・スーパーマルチドライブ
- ・フロッピーディスクドライブ

4 3.5インチファイルベイ

内蔵ハードディスクが取り付けられています。

メインボード

1



1 温度センサー (REAR)

2 内蔵バッテリ

本ワークステーションの時計機能と BIOS セットアップで設定した設定値を保存するためのバッテリです。標準の使用状態（1 日約 8 時間）で約 5 年間お使いになれます。

3 シリアル ATA コネクタ

シリアル ATA コネクタ 0 に、標準のハードディスクドライブが接続されています。カスタムメイドで CD/DVD ドライブを選択した場合、シリアル ATA コネクタ 1 に CD/DVD ドライブが接続されています。

4 電源コネクタ

5 CPU FAN コネクタ

6 フロッピーコネクタ

カスタムメイドで選択したフロッピーディスクドライブが接続されています。

7 温度センサー (SYSTEM)

8 CPU / ヒートシンク (CPU ファンの下にあります)

9 DIMM スロット

メモリが取り付けられています。

図中右から、DIMM1、DIMM2 と並んでいます。

「周辺機器の設置／設定／増設」—「メモリ」(→ P.88)

Memo

第2章

取り扱い

基本的な取り扱い方法について説明しています。



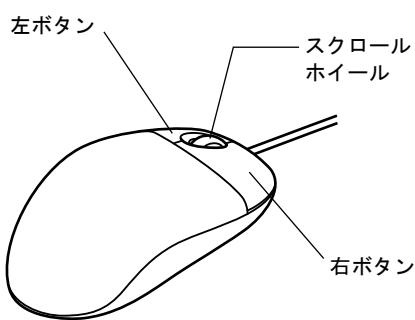
1 マウス	22
2 キーボード	26
3 CD/DVD	29
4 フロッピーディスク	41
5 ディスプレイ	44
6 2台目のディスプレイ	47
7 音量 (Windows Vista の場合)	57
8 音量 (Windows XP の場合)	60
9 通信	63
10 スリープ／休止状態 (Windows Vista の場合)	65
11 スタンバイ／休止状態 (Windows XP の場合)	74

1 マウス

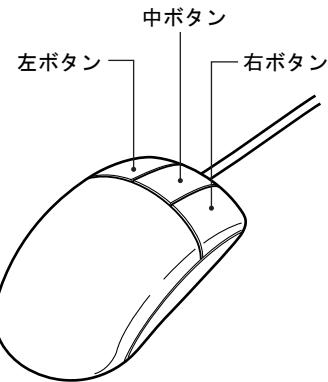
ここでは、本ワークステーションに添付のマウスについて説明しています。

マウスは、定期的にお手入れしてください。
「お手入れ」—「マウス」(→ P.178)

■ 2ボタンマウス



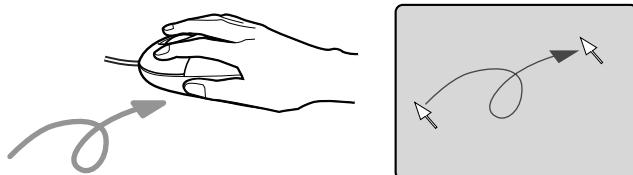
■ 3ボタンマウス



マウスの使い方

■ マウスの動かし方

マウスの左右のボタンに指がかかるように手を載せ、机の上などの平らな場所で滑らせるように動かします。マウスの動きに合わせて、画面上の矢印（これを「マウスポインタ」といいます）が同じように動きます。画面を見ながら、マウスを動かしてみてください。



■ ボタンの操作

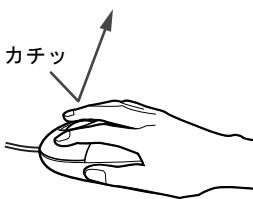
● クリック

マウスの左ボタンをカチッと1回押して、すぐに離します。



● 右クリック

マウスの右ボタンをカチッと1回押して、すぐに離します。



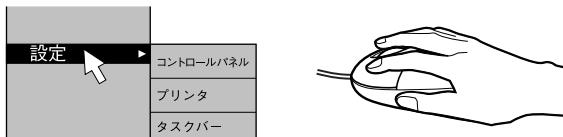
● ダブルクリック

マウスの左ボタンをカチカチッと2回素早く押して、すぐに離します。



● ポイント

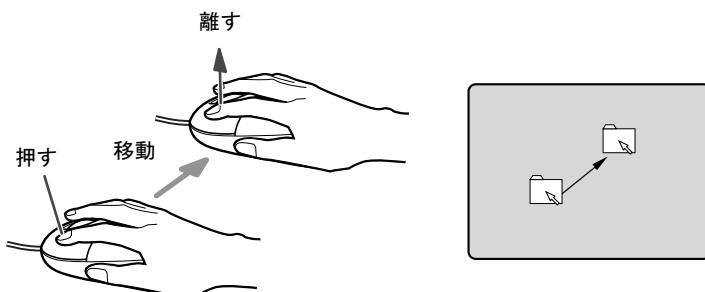
マウスポインタをメニューなどに合わせることを「ポイント」と呼びます。マウスポインタを合わせたメニューの下に階層がある場合は（メニューの右端に▶が表示されています）、メニューが表示されます。



● ドラッグ

アイコンやウィンドウを、マウスポインタで掴むようにして移動させる方法です。「ドラッグ (drag)」とは、「ひきずる」という意味です。

移動させたいアイコンやウィンドウにマウスポインタを合わせてから、マウスの左ボタンを押したままマウスを移動し、希望の位置でボタンを離します。



● スクロール（スクロールボタン付のマウスのみ）

- ・スクロールボタンを前後に操作することで、ウィンドウ内の表示をスクロールさせることができます。また、第3のボタンとして、押して使うこともできます。
- ・スクロール機能は、対応したソフトウェアで使うことができます。

 **POINT**

- ▶ 上記のボタン操作は、「マウスのプロパティ」 ウィンドウで右利き用（主な機能に左側のボタンを使用）に設定した場合の操作です。
- ▶ 3ボタンマウスの場合、中ボタンは対応するソフトウェアで使用できます。

マウスの設定を変更する

マウスのボタンの操作は、右利き用に設定した場合の操作です。左右のボタンの役割は、「マウスのプロパティ」 ウィンドウで変更できます。

また、「マウスのプロパティ」 ウィンドウでは、マウスポインタやダブルクリック、スクロールの速度なども変更できます。

「マウスのプロパティ」 ウィンドウを表示するには、次のように操作してください。

● Windows Vista の場合

「スタート」ボタン→「コントロールパネル」の順にクリックし、「ハードウェアとサウンド」の「マウス」をクリックします。

● Windows XP の場合

「スタート」ボタン→「コントロールパネル」の順にクリックし、「プリンタとその他のハードウェア」→「マウス」の順にクリックします。

USB マウス（光学式）／USB マウス（レーザー式）

カスタムメイドの選択によっては、USB マウス（光学式）または USB マウス（レーザー式）が添付されています。

USB マウス（光学式）や USB マウス（レーザー式）は、底面からの光により照らし出されている陰影をオプティカル（光学）センサーで検知し、マウスの動きを判断しています。このため、机の上だけでなく、衣類の上や紙の上でも使用することができます。

重要

▶ オプティカル（光学）センサーについて

- ・ USB マウス（光学式）は、マウス底面から赤い光を発しています。直接目に向けると、目に悪い影響を与えることがありますので避けてください。
- ・ USB マウス（レーザー式）は、マウス底面から目には見えないレーザー光を発しています。直接目に向けると、目に悪い影響を与えることがありますので避けてください。
- ・ センサー部分を汚したり、傷を付けたりしないでください。
- ・ 発光部分を他の用途に使用しないでください。

2

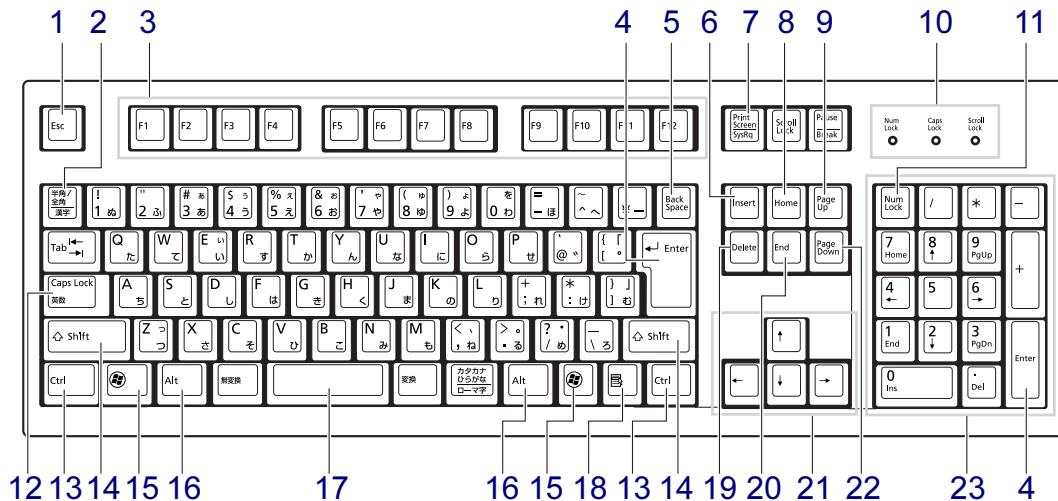
■ お使いになるうえでのご注意

- USB マウス（光学式）および USB マウス（レーザー式）は、次のような物の表面では、正しく動作しない場合があります。
 - ・ 鏡やガラスなど反射しやすいもの
 - ・ 光沢のあるもの
 - ・ 濃淡のはっきりした縞模様や柄のもの（木目調など）
 - ・ 網点の印刷物など、同じパターンが連続しているもの
- USB マウス（光学式）および USB マウス（レーザー式）は、光の陰影でマウスの動きを検知しているため、本来はマウスパッドを必要としませんが、マウス本体や傷が付きやすい机、テーブルの傷防止のために、マウスパッドをお使いになることをお勧めします。

2 キーボード

ここでは、キーボード（109A 日本語キーボード）のキーの役割を説明しています。

お使いになるソフトウェアによっては、キーの役割が変わることがあります。詳しくは、お使いのソフトウェアのマニュアルをご覧ください。



1 【Esc】キー

ソフトウェアの実行中の操作を取り消します。また、【Ctrl】 + 【Shift】キーを押しながらこのキーを押すと、「Windows タスクマネージャ」ウィンドウが表示され、ソフトウェアを強制終了できます。

2 【半角／全角】キー

文字の入力時に、半角と全角を切り替えます。

3 【F1】～【F12】キー

ソフトウェアごとにいろいろな役割が割り当てられています。

4 【Enter】キー

入力した文字を確定したり、文を改行したり、コマンドを実行したりします。
リターンキー、または改行キーとも呼ばれます。

5 【Back Space】キー

カーソルの左にある文字や選択した範囲の文字を削除します。

6 【Insert】キー

文字の入力時に、「挿入モード」と「上書きモード」を切り替えます。

7 【Print Screen】キー

画面のコピーをクリップボードに取り込みます。また、【Alt】キーを押しながらこのキーを押すと、アクティブになっているウィンドウのコピーをとることができます。

8 【Home】キー

カーソルを行の最初に移動します。

【Ctrl】キーを押しながらこのキーを押すと、文章の最初に移動します。

9 【Page Up】キー

前の画面に切り替えます。

10 インジケータ

【Num Lock】キー、【Shift】+【Caps Lock 英数】キー、【Scroll Lock】キーを押すと点灯し、各キーが機能する状態になります。再び押すと消え、各キーの機能が解除されます。

11 【Num Lock】キー

テンキーの機能を切り替えます。再度押すと、解除されます。

12 【Caps Lock 英数】キー

【Shift】キーを押しながらこのキーを押すと、アルファベットの大文字／小文字の入力モードが切り替わります。

Caps Lock を ON にすると大文字、OFF にすると小文字を入力できます。

13 【Ctrl】キー

他のキーと組み合わせて使います。

14 【Shift】キー

他のキーと組み合わせて使います。

15 【】(Windows)キー

「スタート」メニューを表示します。

16 【Alt】キー

他のキーと組み合わせて使います。

17 【Space】キー

空白を入力します。

18 【囲】(アプリケーション)キー

選択した項目のショートカットメニューを表示します。

マウスの右クリックと同じ役割をします。

19 【Delete】キー

カーソルの右にある文字や選択した範囲の文字、または選択したアイコンやファイルなどを削除します。

また、【Ctrl】+【Alt】キーを押しながらこのキーを押すと、応答しなくなったソフトウェアを終了したり、ワークステーションを強制的に終了したりできます。

20 【End】キー

カーソルを行の最後に移動します。

【Ctrl】キーを押しながらこのキーを押すと、文章の最後に移動します。

21 カーソルキー

カーソルを移動します。

22 【Page Down】キー

次の画面に切り替えます。

23 テンキー

「Num Lock」インジケータ点灯時に数字が入力できます。

「Num Lock」インジケータ消灯時にキーワードに刻印された機能が有効になります。

POINT

- キーボード底面にあるチルトフットを起こすと、キーボードに角度を付けることができます。



3 CD/DVD

ここでは、CD や DVD の取り扱いについて説明しています。

カスタムメイドで選択したドライブにより、使用できるディスクは異なります。

CD-ROM、音楽 CD、CD-R/RW ディスクをまとめて CD、DVD-ROM や DVD-Video などをまとめて DVD と呼んでいます。また、CD や DVD をまとめてディスクと呼びます。

「WinDVD」、「Roxio Creator」、「DVD-RAM ドライバーソフト」については、「ソフトウェア」－「ソフトウェアの紹介」(→ P.124) をご覧ください。

取り扱い上の注意

■ ディスクご使用時の注意事項

- ディスクは両面ともラベルを貼ったり、ボールペンや鉛筆などで字を書いたりしないでください。
- データ面をさわったり、傷を付けたりしないでください。
- 曲げたり、重い物を載せたりしないでください。
- 汚れたり、水滴が付いたりしたときは、少し湿らせた布で中央から外側へ向かって拭いた後、乾いた布で拭き取ってください。
- コーヒーなどの液体がかからないようにしてください。
- 高温や低温の場所に保管しないでください。
- 湿気やほこりの多い場所に保管しないでください。
- ワークステーション本体の CD/DVD アクセスランプが点滅中は、振動や衝撃を与えないでください。
- CD や DVD を挿入したとき、自動再生（オートラン）機能が有効に設定されていると、正しく書き込みができないライティングソフトウェアがあります。ソフトウェアの指示に従って自動再生（オートラン）機能を設定してください。
- ディスクに書き込み中は、ワークステーション本体の電源を切ったり、再起動したり、CD/DVD 取り出しボタンを押したりしないでください。また、【Ctrl】 + 【Alt】 + 【Delete】キーを押す操作もしないでください。
- 書き込み中にディスクのディスク面に傷を検出した場合、書き込みを中断することがあります。
- ディスクへの書き込みを行うときは、自動的に省電力（スリープ、スタンバイ、休止状態）状態にならないように、省電力の設定を変更してください。
- ディスクへの書き込み中は、他のソフトウェアを起動しないでください。他のソフトウェアを起動している場合は、そのソフトウェアを終了させてください。
- 不正コピー防止の仕様に準拠していないDVDやビデオCDは、正常に再生できない場合があります。
- 本ワークステーションでは DVD-Audio など「使用できるディスク」(→ P.32) に記載されていないディスクの再生および動作保証はできません。

■ DVD-Video ご使用時の注意事項

- ディスクの種類によっては、専用の再生ソフトが添付されている場合があります。ディスクに添付の再生ソフトをインストールした場合、「WinDVD」での再生は保証いたしません。また、ディスクに添付されている再生ソフトについても、弊社では保証いたしません。
- リージョン（地域）コードについて
 - ・ DVD-Video に記録されているリージョン（地域）コードに「2」が含まれているか、「ALL」と書かれているディスクがお使いになれます。
 - ・ リージョン（地域）コードの変更は4回までです。
リージョン（地域）コードを4回変更すると、最後に設定したリージョン（地域）コードに固定され、その他のリージョン（地域）コードの DVD-Video は再生できなくなります。固定されたリージョン（地域）コードを変更する方法はありませんのでご注意ください。
 - ・ 前回再生した DVD-Video と、リージョン（地域）コードが異なる DVD-Video を再生しようとすると、リージョン（地域）コード変更を確認するメッセージ画面が表示されます。このメッセージ画面で「OK」をクリックすると、リージョン（地域）コードの設定が変更されます。
 - ・ ご購入時のリージョン（地域）コードは「2」です。
- DVD のディスクの種類によっては、著作権保護のため、コピー権がかかる場合があります。「WinDVD」では、著作権保護として、デスクランブル機能および相互認証（Authentication）機能が用意されています。著作権保護のされたデータなどをコピーし、再生しても、相互認証エラー（Authentication Error）となり、再生できません（This DVD can't be played in this Region. と表示されます）。
- 著作権保護のされた映像を再生する場合は、HDCP（High-bandwidth Digital Content Protection）に対応したデジタルディスプレイまたはアナログディスプレイをお使いください。また、DVD の再生には HDCP に対応した「WinDVD」をお使いください。本ワークステーションに添付の「WinDVD」は HDCP に対応しています。
- 本ワークステーションに2台のディスプレイを接続し、同じ画面を表示（同時表示）しているときは、著作権保護のされた映像を再生することはできません。

■ 「WinDVD」 ご使用時の注意事項

- 再生する DVD-Video によっては、コマ落ちをする場合があります。
- 「WinDVD」の設定を変更した直後は、DVD-Video の再生が不安定になる場合があります。
- キャプション表示とサブタイトル表示を、同時に表示することはできません。
- MPEG1 のデータによっては再生できないものがあります。
- 市販されているウイルス対策ソフトと「WinDVD」を同時に起動することはできません。
自動検索の機能をもつウイルス対策ソフトに関しては、「WinDVD」を起動する前に一時的に起動しないようにしてください。なお、本ワークステーションに添付のアンチウイルスソフトは問題ありません。
- DVD-Video の再生中に他のソフトウェアを起動すると、コマ落ちや音飛びが発生する場合があります。コマ落ちや音飛びを防ぐために、起動しているソフトウェアはすべて終了してください。
なお、定期的に自動起動して、ウイルスチェック、ディスクメンテナンス、データベース更新およびデータ送受信処理などを行うソフトウェアについても、その頻度により音や映像の再生に影響が出ますので、必要に応じて終了してください。
- DVD およびビデオ CD によっては、再生される映像データが表示エリア全体に表示されないものがあります。この場合は、表示の一部が黒くなります。

- マウスポインタのデザインによっては、DVD 再生画面の上に移動したときにマウスポインタが点滅することがあります。このようなときは、「マウスのプロパティ」の「ポインタ」タブで、「デザイン」の設定を「なし」に変更してください。
- 縦横比が16:9で録画されているDVD-Videoを全画面表示にした場合、ズーム機能が使用できないことがあります。
- 本ワークステーションに添付されている「WinDVD」は、DisplayPortからの出力には対応しておりません。アナログ RGB コネクタまたは DVI-I コネクタを使用してください。
- 本ワークステーションに添付されている「WinDVD」は、Windows XP Professional x64 Edition には対応しておりません。

■ 「WinDVD」の更新

2009年11月下旬から FMWORLD のドライバダウンロードページ (http://www.fmworld.net/biz/fmv/index_down.html) で公開される「WinDVD」の更新プログラムをダウンロードして適用することで、DisplayPortからの出力での再生が可能となります。

■ ドライブの注意事項

- 本ワークステーションは、円形のディスクのみお使いになれます。円形以外の異形ディスクは、お使いにならないでください。故障の原因となることがあります。異形ディスクをお使いになり故障した場合は、保証の対象外となります。
- 「ディスクご使用時の注意事項」が守られていないディスク、ゆがんだディスク、割れたディスク、ヒビの入ったディスクはお使いにならないでください。故障の原因となることがあります。これらのディスクをお使いになり故障した場合は、保証の対象外となります。
- DVD 規格では媒体の厚さを 1.14mm ~ 1.5mm と規定しています。
記録面が薄い媒体など、一部でもこの範囲外の厚さになっている媒体をお使いになると故障する場合があります。
規格外の DVD 媒体をお使いになり故障した場合は保証の対象外となります。
- 市販のクリーニングディスクを使ってクリーニングを行うと、レンズにゴミなどが付着することがあります。クリーニングディスクはお使いにならないでください。

使用できるディスク

本ワークステーションで使用できるディスクは、カスタムメイドの選択によって異なります。お使いのドライブの表をご覧ください。

POINT

- ▶ 本ワークステーションでは、8cm および 12cm のディスクをお使いになれます。
- ▶ 8cm の DVD は、読み込みや書き込みが正しくできないことがあります。

■ DVD-ROM ドライブの場合

	読み込み	書き込み	書き換え
CD-ROM	○	×	×
音楽 CD	○	×	×
ビデオ CD	○	×	×
CD-R	○	×	×
CD-RW	○	×	×
DVD-ROM	○	×	×
DVD-Video	○	×	×
DVD-R (for Authoring) (3.95GB / 4.7GB)	○	×	×
DVD-R (for General) (4.7GB)	○	×	×
DVD-R DL (8.5GB)	○	×	×
DVD-RW	○	×	×
DVD+R (4.7GB)	○	×	×
DVD+R DL (8.5GB)	○	×	×
DVD+RW (4.7GB)	○	×	×
DVD-RAM ^{注1} (4.7GB / 9.4GB)	○	×	×
DVD-RAM2 ^{注2}	×	×	×

注 1 : ・ DVD-RAM は、カートリッジなしタイプまたはカートリッジからディスクが取り出せるタイプをご購入ください。
カートリッジに入れた状態で使用するタイプ (Type1) は使用できません。また、無理に取り出して使わないでください。

・ 2.6GB および 5.2GB のディスクは、使用できません。

注 2 : DVD-RAM2 は、5 倍速までの従来規格の DVD-RAM と異なり、6、8、12 倍速に対応した DVD-RAM です。

■ スーパーマルチドライブの場合

	読み込み	書き込み	書き換え
CD-ROM	○	×	×
音楽 CD	○	×	×
ビデオ CD	○	×	×
CD-R	○	○ ^{注1}	×
CD-RW	○	○ ^{注1注2}	○ ^{注2}
DVD-ROM	○	×	×
DVD-Video	○	×	×
DVD-R (for Authoring) (3.95GB / 4.7GB)	○	×	×
DVD-R (for General) (4.7GB)	○	○ ^{注1}	×
DVD-R DL (8.5GB)	○	○ ^{注3}	×
DVD-RW	○	○ ^{注1注2}	○ ^{注2}
DVD+R (4.7GB)	○	○ ^{注1}	×
DVD+R DL (8.5GB)	○	○ ^{注1}	×
DVD+RW (4.7GB)	○	○ ^{注1注2}	○ ^{注2}
DVD-RAM ^{注4} (4.7GB / 9.4GB)	○	○	○
DVD-RAM2 ^{注5}	×	×	×

注1：データの追記が可能なCDやDVDへの追記は「Roxio Creator」で行います。なお、データの追記を行うためには、「Roxio Creator」を使ってCD/DVDにデータの書き込みを行うときに、CD/DVDを追記可能の状態にしておく必要があります。

詳しくは、「Roxio Creator」のヘルプをご覧ください。

注2：CD-RW、DVD-RW、DVD+RWに書き込んだデータを削除するには、ディスクに書き込まれているデータをすべて消去する必要があります。

注3：DVD-R DLには追記できません。

注4：・DVD-RAMは、カートリッジなしタイプまたはカートリッジからディスクが取り出せるタイプをご購入ください。
カートリッジに入れた状態で使用するタイプ（Type1）は使用できません。また、無理に取り出して使わないでください。

・2.6GBおよび5.2GBのディスクは、使用できません。

注5：・DVD-RAM2は、5倍速までの従来規格のDVD-RAMと異なり、6、8、12倍速に対応したDVD-RAMです。

・DVD-RAMは、カートリッジなしタイプまたはカートリッジからディスクが取り出せるタイプをご購入ください。
カートリッジに入れた状態で使用するタイプ（Type1）は使用できません。また、無理に取り出して使わないでください。

推奨ディスク

本ワークステーションの CD/DVD ドライブで書き込み、書き換えを行う場合は、次のディスクをお使いになることをお勧めします（2009年6月現在）。なお、使用できるディスクは、カスタムメイドの選択によって異なります。

ディスク	メーカー	メーカー型名
CD-R	太陽誘電 (That's)	CDR80WTY、CDR80WPY
CD-RW	三菱化学メディア	SW74QU1、SW80QU1、SW74EU1、SW80EU1
DVD-R	太陽誘電 (That's)	DR-47WTYN、DR-47WTY20AA
DVD-R DL	三菱化学メディア	DHR85H1
DVD-RW	日本ビクター	VD-W47H
	三菱化学メディア	DHW47R1
DVD+R	太陽誘電 (That's)	DR+47WTYN
	三菱化学メディア	DTR47J10
DVD+R DL	三菱化学メディア	DTR85H1
DVD+RW	三菱化学メディア	DTW47U1
DVD-RAM	パナソニック	LM-HC47M (4.7GB、カートリッジ無)、 LM-HB47MA (4.7GB、カートリッジ有、取り出し可)、 LM-HB94M (9.4GB、カートリッジ有、取り出し可)
	日立マクセル	DRM47PWC.S1P5S A (4.7GB、カートリッジ無)
DVD-RAM2	日立マクセル	DRM47D.1P (4.7GB、カートリッジ無)

上記以外の記録型ディスクをお使いの場合は、書き込み、書き換え速度の低下や正常に書き込み、書き換えができない場合があります。

POINT

- ▶ カスタムメイドでスーパーマルチドライブを選択した場合は、次のことご注意ください。
 - ・本ワークステーションで作成した CD は、お使いになる CD プレーヤーによっては再生できない場合があります。
 - ・本ワークステーションで作成した DVD は、お使いになる DVD プレーヤーによっては、再生できない場合があります。
- また、再生に対応した DVD プレーヤーをお使いの場合でも、ディスクの記録状態によっては再生できない場合があります。
- ・ウイルス対策ソフトなどを常駐し、ファイルアクセスの監視などを行った状態でディスクに書き込むと、書き込み速度が低下する場合があります。

DVD-RAM をフォーマットする (Windows Vista の場合)

初めてお使いになる DVD-RAM は、データを読み書きできるようにするためにフォーマット（初期化）を行う必要があります。

ここでは、DVD-RAM のフォーマットの操作手順について説明します。

9.4GB の両面タイプの DVD-RAM をフォーマットする場合は、片面ごとにフォーマットしてください。

⚠ 注意



- DVD-RAM をセットするとき、および取り出すときには、CD/DVD ドライブのトレーに指などを入れないでください。
けがの原因となることがあります。

2

- 1 フォーマットする DVD-RAM を、CD/DVD ドライブにセットします。
- 2 「スタート」ボタン→「コンピュータ」の順にクリックします。
「コンピュータ」ウィンドウが表示されます。
- 3 「CD/DVD ドライブ」を右クリックし、「フォーマット」をクリックします。
- 4 「ファイルシステム」で、フォーマット種別を選択します。

POINT

- ▶ DVD-RAM のフォーマット形式
DVD-RAM のフォーマット形式には、次のものがあります。DVD-RAM 書き込みを行うソフトウェアによっては、対応するフォーマット形式が制限されていることがあります。
DVD-RAM にデータを書き込む前に、ソフトウェアのマニュアルなどをご覧になり、使用できるフォーマット形式を確認してください。
 - FAT 形式
ハードディスクやフロッピーディスクにデータを保存するときに使われているフォーマットの 1 つです。
 - FAT32
 - Windows で選択できる FAT 形式の 1 つです。
- UDF (Universal Disk Format) 形式
DVD の統一標準フォーマットです。
 - UDF1.5
 - DVD-RAM の標準フォーマットです。
 - UDF2.0
- DVD フォーラム策定の「ビデオレコーディングフォーマット規格」準拠のフォーマットです。

- 5 「ボリュームラベル」に名前を入力します。
DVD-RAM には、自由に名前を付けることができます。
- 6 「開始」をクリックします。
- 7 フォーマットを確認するメッセージが表示されるので、「OK」をクリックします。
フォーマットが始まります。

- 8 「フォーマットが完了しました」と表示されたら、「OK」をクリックします。
- 9 「閉じる」をクリックします。

DVD-RAM をフォーマットする (Windows XP の場合)

本ワークステーションのスーパーマルチドライブで DVD-RAM に書き込みや書き換えをするには、ドライブの設定を変更する必要があります。

また、初めてお使いになる DVD-RAM は、データを読み書きできるようにするためにフォーマット（初期化）を行う必要があります。

ここでは、ドライブの設定を変更する手順と、DVD-RAM のフォーマットの操作手順を説明します。

■ ドライブの設定を変更する

DVD-RAM にデータの書き込み、書き換えをするには、ドライブの設定を変更する必要があります。

- 1 「スタート」ボタン→「マイコンピュータ」の順にクリックします。
- 2 「CD/DVD ドライブ」を右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
- 3 「書き込み」タブで「このドライブで CD 書き込みを有効にする」のチェックを外します。
- 4 「OK」をクリックします。

■ DVD-RAM をフォーマットする

DVD-RAM をフォーマットするときは、お使いになる目的に合わせて、フォーマット形式を選択してください。UDF 形式でフォーマットする場合は、あらかじめ「DVD-RAM ドライバーソフト」をインストールしておいてください。インストール方法は、「ソフトウェア」→「ドライバーズディスク検索ツール」からのインストール」(→ P.131) をご覧ください。

また、9.4GB の両面タイプの DVD-RAM をフォーマットする場合は、片面ごとにフォーマットしてください。

⚠ 注意



- DVD-RAM をセットするとき、および取り出すときには、CD/DVD ドライブのトレーに指などを入れないでください。
けがの原因となることがあります。

- 1 フォーマットする DVD-RAM を、CD/DVD ドライブにセットします。
- 2 「スタート」ボタン→「マイコンピュータ」の順にクリックします。
「マイコンピュータ」ウィンドウが表示されます。
- 3 「CD/DVD ドライブ」を右クリックし、「フォーマット」をクリックします。

4 「ファイルシステム」で、フォーマット種別を選択します。

 **POINT**

▶ DVD-RAM のフォーマット形式

DVD-RAM のフォーマット形式には、次のものがあります。DVD-RAM 書き込みを行うソフトウェアによっては、対応するフォーマット形式が制限されていることがあります。DVD-RAM にデータを書き込む前に、ソフトウェアのマニュアルなどをご覧になり、使用できるフォーマット形式を確認してください。

・ FAT 形式

ハードディスクやフロッピーディスクにデータを保存するときに使われているフォーマットの 1 つです。

- FAT32

Windows で選択できる FAT 形式の 1 つです。

・ UDF (Universal Disk Format) 形式

DVD の統一標準フォーマットです。

- UDF1.5

DVD-RAM の標準フォーマットです。

- UDF2.0

DVD フォーラム策定の「ビデオレコーディングフォーマット規格」準拠のフォーマットです。

5 「ボリュームラベル」に名前を入力します。

DVD-RAM には、自由に名前を付けることができます。

6 「開始」をクリックします。

7 フォーマットを確認するメッセージが表示されるので、「はい」をクリックします。

フォーマットが始まります。

8 「フォーマットが完了しました」と表示されたら、「OK」をクリックします。

9 「閉じる」をクリックします。

ディスクをセットする／取り出す

⚠ 注意



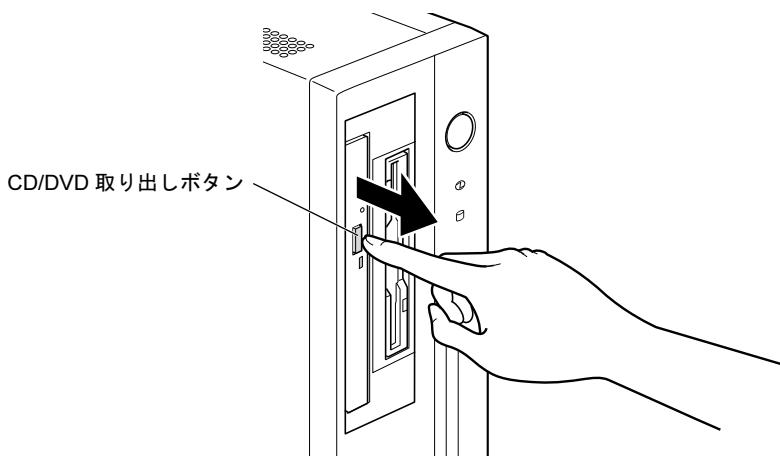
- CDやDVDをセットするとき、および取り出すときには、CD/DVDドライブのトレーに指などを入れないでください。
けがの原因となることがあります。

■ セットする

1 CD/DVDアクセスランプが消えていることを確認します。

2 CD/DVD取り出しボタンを押します。

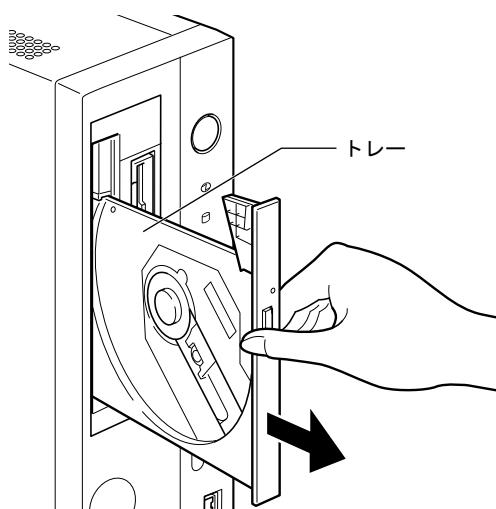
CD/DVD取り出しボタンを押すと、ディスクをセットするトレーが少し出でてきます。



(これ以降のイラストは機種や状況により異なります)

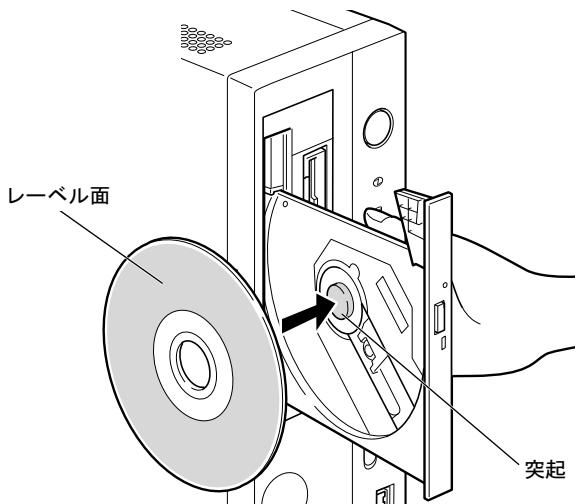
3 トレーを手で引き出します。

図のようにトレーの中央を持って引き出してください。



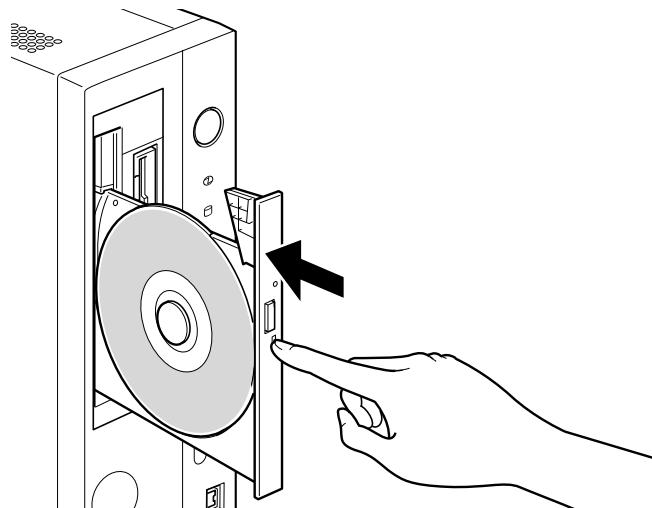
4 ディスクをセットします。

ディスクのレーベル面を左にして、トレーの中央の突起にディスクの穴を合わせ、「パチン」という音がするまでしっかりとはめ込んでください。このとき、ワークステーション本体が転倒しないようトレーを手で押してください。きちんとはめ込まないと、再生できなかったり、ディスクが取り出せなくなったりすることがあります。



5 「カチッ」という音がするまで、トレーを手で押します。

トレーがワークステーション本体に入り、ディスクがセットされます。



POINT

- ▶ ディスクをセットすると、CD/DVD アクセスランプが点滅します。CD/DVD アクセスランプが消えたことを確認してから、次の操作に進んでください。
- ▶ トレーが入っている途中で CD/DVD 取り出しボタンを押さないでください。トレーが正しくセットされません。
- ▶ ディスクをセットしてから使用可能となるまでしばらく時間がかかります。また、マルチセッションディスクの場合、通常のディスクをお使いになるときと比べ、セットしてから使用可能となるまで、多少時間がかかることがあります。

■ 取り出す

- 1 ディスクを使用しているソフトウェアを終了し、CD/DVD アクセスランプが消えていることを確認します。
- 2 CD/DVD 取り出しボタンを押します。
トレーが少し出でてきます。
- 3 トレーを手で引き出します。
トレーの中央を持って引き出します。
- 4 ディスクを取り出します。
- 5 トレーを手で「カチッ」という音がするまで押します。

ディスクが取り出せなくなったら

CD/DVD 取り出しボタンを押してもトレーが出ない場合は、次のように操作してください。

■ Windows Vista の場合

- 1 「スタート」ボタン→「コンピュータ」の順にクリックします。
「コンピュータ」ウィンドウが表示されます。
- 2 「CD/DVD ドライブ」を右クリックし、「取り出し」をクリックします。
トレーが少し出でてきたら、トレーの中央を持って引き出します。
- 3 「コンピュータ」ウィンドウを閉じます。

■ Windows XP の場合

- 1 「スタート」ボタン→「マイコンピュータ」の順にクリックします。
「マイコンピュータ」ウィンドウが表示されます。
- 2 「CD/DVD ドライブ」を右クリックし、「取り出し」をクリックします。
トレーが少し出でてきたら、トレーの中央を持って引き出します。
- 3 「マイコンピュータ」ウィンドウを閉じます。

4 フロッピーディスク

対象 フロッピーディスクドライブ搭載機種

ここでは、フロッピーディスクの取り扱いやセット方法、取り出し方法を説明しています。

取り扱い上の注意

2

故障の原因となりますので、フロッピーディスクをお使いになるときは、次の点に注意してください。

- コーヒーなどの液体がかからないようにしてください。
- シャッタを開いて中のディスクにさわらないでください。
- 曲げたり、重い物を載せたりしないでください。
- 磁石などの磁気を帯びた物を近づけないでください。
- 固い床などに落とさないでください。
- 高温や低温の場所に保管しないでください。
- 湿気やほこりの多い場所に保管しないでください。
- ラベルを何枚も重ねて貼らないでください（ドライブに詰まる原因になります）。
- 結露させたり、濡らしたりしないようにしてください。

フロッピーディスクをセットする／取り出す

⚠ 注意

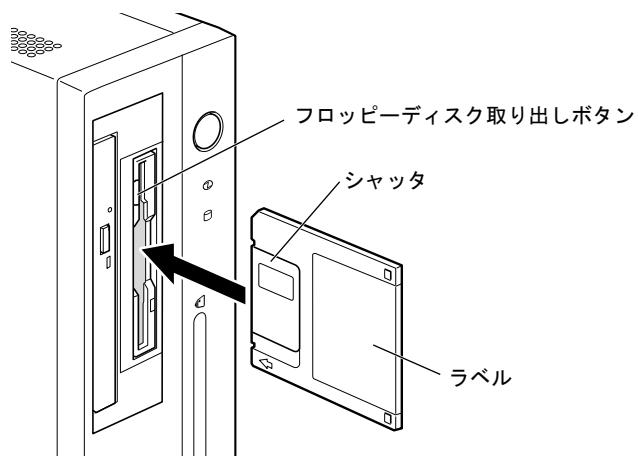


- フロッピーディスクをセットするとき、および取り出すときには、フロッピーディスクドライブの差し込み口に指などを入れないでください。けがの原因となることがあります。

■ セットする

- 1 ラベル面を左にしてシャッタのある側から、フロッピーディスクドライブに差し込みます。

「カシヤッ」と音がして、フロッピーディスク取り出しボタンが飛び出します。



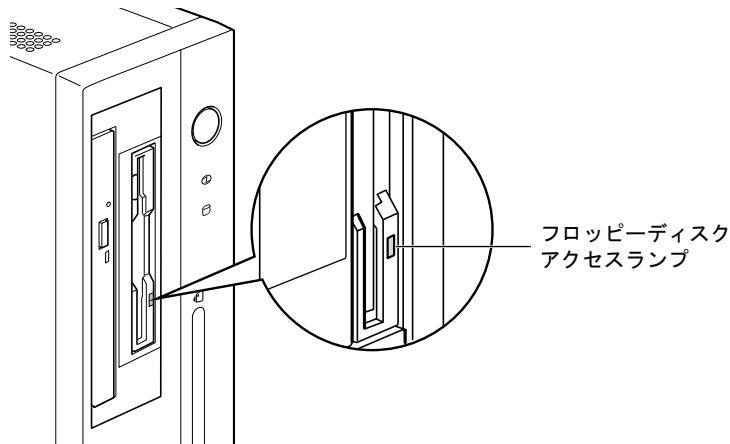
(イラストは機種や状況により異なります)

POINT

- ▶ DOS/V フォーマット済みのフロッピーディスクをお使いください。その他のフロッピーディスクをお使いになると、動作が保証されません。

■ 取り出す

- 1 フロッピーディスクアクセスランプが消えていることを確認します。



(これ以降のイラストは機種や状況により異なります)

POINT

- ▶ フロッピーディスクアクセスランプの点滅中に、フロッピーディスクを取り出さないでください。データが破壊される可能性があります。

- 2 フロッピーディスク取り出しボタンを押します。

フロッピーディスクが出てきます。

5 ディスプレイ

解像度や発色数を変更する

■ 表示できる解像度と発色数

本ワークステーションで表示できる解像度と発色数は次のとおりです。

POINT

- ▶ ディスプレイによって、設定できる解像度が異なります。お使いのディスプレイで表示可能な解像度に設定してください。詳しくは、ディスプレイのマニュアルでご確認ください。なお、すべてのディスプレイについて動作保証するものではありません。

□ アナログディスプレイ接続時

Quadro FX 580、Quadro FX 1800 でアナログディスプレイを接続する場合は、別売の DVI-VGA 変換アダプタが必要です。

解像度（ピクセル）	発色数 ^注	Windows Vista	Windows XP
800 × 600	中（16 ビット）	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
	最高（32 ビット）		
1024 × 768	中（16 ビット）	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
	最高（32 ビット）		
1280 × 1024	中（16 ビット）	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
	最高（32 ビット）		
1360 × 768	中（16 ビット）	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
	最高（32 ビット）		
1440 × 900	中（16 ビット）	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
	最高（32 ビット）		
1600 × 1200	中（16 ビット）	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
	最高（32 ビット）		
1680 × 1050	中（16 ビット）	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
	最高（32 ビット）		
1920 × 1200	中（16 ビット）	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
	最高（32 ビット）		
1920 × 1440	中（16 ビット）	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
	最高（32 ビット）		
2048 × 1536	中（16 ビット）	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
	最高（32 ビット）		

注：発色数は、「中」が6万5千色、「最高」が1677万色です。

□ デジタルディスプレイ接続時

DVI-I コネクタおよび DisplayPort のどちらを使用した場合も、解像度や発色数は同じです。

解像度（ピクセル）	発色数 ^{注1}	Windows Vista	Windows XP
800 × 600	中（16 ビット）	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
	最高（32 ビット）		
1024 × 768	中（16 ビット）	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
	最高（32 ビット）		
1280 × 1024	中（16 ビット）	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
	最高（32 ビット）		
1360 × 768	中（16 ビット）	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
	最高（32 ビット）		
1440 × 900	中（16 ビット）	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
	最高（32 ビット）		
1600 × 1200	中（16 ビット）	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
	最高（32 ビット）		
1680 × 1050	中（16 ビット）	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
	最高（32 ビット）		
1920 × 1200	中（16 ビット）	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
	最高（32 ビット）		
1920 × 1440 ^{注2}	中（16 ビット）	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
	最高（32 ビット）		
2048 × 1536 ^{注2}	中（16 ビット）	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
	最高（32 ビット）		
2560 × 1600 ^{注2}	中（16 ビット）	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
	最高（32 ビット）		

注1：発色数は、「中」が6万5千色、「最高」が1677万色です。

注2：・Quadro FX 580、Quadro FX 1800のみ対応しています。

・DVI-I コネクタを使用している場合は、Dual Link 対応ディスプレイで接続したときのみ表示できます。

■ 注意事項

- 解像度や発色数を変更する前に、作業中のデータを保存し、常駐しているものを含むすべてのソフトウェアを終了させてください。また、変更後は必ず Windows を再起動してください。再起動しない場合、本ワークステーションの動作が不安定になる場合があります。
- 発色数やリフレッシュレートを変更すると、画面がディスプレイ中央に表示されない場合があります。この場合は、ディスプレイの仕様を確認して適切なリフレッシュレートを設定するか、ディスプレイの設定機能を使用して調整してください。
- 解像度を変更するときに、一時的に画面が乱れることがあります、動作には問題ありません。

■ 解像度や発色数を変更する

ソフトウェアによっては、使用時の解像度や発色数が指定されていることがあります。必要に応じて変更してください。

1 次の操作をします。

● Windows Vista の場合

1. デスクトップで右クリックし、「個人設定」をクリックします。
「個人設定」ウィンドウが表示されます。
2. 「画面の設定」をクリックします。

● Windows XP の場合

1. デスクトップで右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
「画面のプロパティ」ウィンドウが表示されます。
2. 「設定」タブをクリックします。

2 解像度や発色数を設定します。

3 「適用」をクリックします。

「適用」をクリックすると、画面にメッセージが表示されます。指示に従って操作してください。

4 設定が終了したら「OK」をクリックします。

Windows XP の場合は、設定終了後に必ずワークステーションを再起動してください。

POINT

▶ リフレッシュレートの変更方法

1. 次の操作をします。
 - Windows Vista の場合
「画面の設定」ウィンドウで「詳細設定」をクリックします。
 - Windows XP の場合
「画面のプロパティ」ウィンドウの「設定」タブで「詳細設定」をクリックします。
2. 「モニタ」タブをクリックします。
3. 「画面のリフレッシュレート」で、適切なリフレッシュレートの値を選択します。
4. 「OK」をクリックします。
画面にメッセージが表示されます。指示に従って操作してください。

6 2台目のディスプレイ

本ワークステーションは、グラフィックスカードを追加せずに、搭載されているグラフィックスカード1枚で、2台のディスプレイを接続することができます。ここでは、ディスプレイを2台接続するとできることについて説明しています。ディスプレイの設定方法などについては、ディスプレイのマニュアルをご覧ください。

マルチディスプレイ機能

2

本ワークステーションには、搭載されているグラフィックスカード1枚で、2台のディスプレイを接続して表示できる「マルチディスプレイ機能」があります。

マルチディスプレイ機能には、次の3つの機能があります。

- クローン機能

プライマリディスプレイに表示されている画面をセカンダリディスプレイにも表示する機能です。

- マルチモニタ機能

1つのデスクトップを、プライマリディスプレイとセカンダリディスプレイの2台のディスプレイを使って表示する機能です。

Windows上では、2台のディスプレイとして認識されます。

- スパン機能 (Windows XPのみ対応しています)

1つのデスクトップを、プライマリディスプレイとセカンダリディスプレイの2台で1台のディスプレイとして表示する機能です。

OS上では、1台のディスプレイとして認識されます。

各グラフィックスカードの対応は次のとおりです。

	クローン機能	マルチモニタ機能	スパン機能 (Windows XPの場合)
ATI Radeon HD 2400 PRO	○	○	×
Quadro FX 580	○	○	○
Quadro FX 1800			

2台目のディスプレイを接続する

■用意する物

●ディスプレイ

アナログディスプレイまたはデジタルディスプレイを用意してください。

●DVI-VGA 変換アダプタ

DVI-I コネクタに、アナログディスプレイを接続する場合は、別売の DVI-VGA 変換アダプタを用意してください。

本ワークステーションには添付されていません。

●DP-DVI 変換アダプタ

DisplayPort に、DVI インターフェースのデジタルディスプレイを接続する場合は、市販の DP-DVI 変換アダプタを用意してください。

本ワークステーションには添付されていません。

■注意事項

- 2台目のディスプレイは、Windows のセットアップが終了した後に接続してください。
- ワークステーション本体の電源を入れる前にディスプレイの電源を入れてください。
特にデジタルディスプレイをお使いになる場合、ワークステーション本体の電源を入れる前にデジタルディスプレイの電源が入っていることを必ず確認してください。
ワークステーション本体の電源を入れた後にディスプレイの電源を入れると、画面が表示されないことがあります。そのような場合は、いったん電源を切ってから入れ直してください。
- ディスプレイのマニュアルもご覧ください。
- 電源を入れた後に表示される「FUJITSU」ロゴは、次のように表示されます。

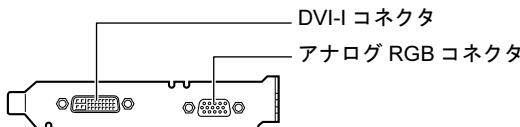
グラフィックスカード	「FUJITSU」ロゴの表示
ATI Radeon HD 2400 PRO	アナログ RGB コネクタと DVI-I コネクタに接続したディスプレイの両方で表示
Quadro FX 580 Quadro FX 1800	・DVI-I コネクタに接続したディスプレイのみに表示 ・DVI-I コネクタを使用していない場合は、DisplayPort (DP #1) に接続したディスプレイのみに表示

- ディスプレイを2台接続している場合、1台のみ接続している場合に比べて、表示性能が若干低下します。
- マルチディスプレイ機能を設定する場合は、設定を行う前に2台目のディスプレイを接続してください。2台目のディスプレイが接続されていない場合は、マルチディスプレイ機能を設定することができません。
- マルチディスプレイ機能を使用すると、各グラフィックスカードの最大解像度を表示できなくなる場合があります。
- 「Windows Media Player」など、複数のディスプレイでの動作を保証していないソフトウェアを全画面で表示すると、画面の表示が正常に行われないことがあります。
- お使いの動画再生ソフトによっては、セカンダリディスプレイでは動画が再生できないことがあります。そのような場合は、動画再生ソフトを最新版に更新してください。
- ディスプレイを取り外すときは、取り外すディスプレイのマルチディスプレイ機能を無効にしてから取り外してください。

- クローン機能を使用する場合、画面の設定（解像度、発色数およびリフレッシュレート）は、2台のディスプレイで同じ値に設定してください。解像度が異なるディスプレイをお使いの場合は、解像度が低いディスプレイにあわせて設定してください。
- マルチモニタ機能を使用する場合、解像度やリフレッシュレートは各ディスプレイで設定可能な範囲で設定してください。発色数は、2台のディスプレイで同じ値に設定してください。
- マルチモニタ機能を使用する場合、次のことに注意してください。
 - ・一部のスクリーンセーバーは、プライマリアダプタに接続したディスプレイにのみ表示されます。
 - ・セカンドモニタに画面が表示できない場合があります。マルチモニタ機能の設定後、一度ワークステーションを再起動してください。
 - ・2つのディスプレイにまたがるウィンドウがある場合は、プライマリアダプタとセカンドモニタの設定を変更しないでください。
 - ・セカンドモニタのみに表示されているソフトウェアを起動中に、セカンドモニタの使用を終了しないでください。ソフトウェアおよびWindowsの動作が不安定になり、データが保存されないことがあります。
- スパン機能を使用する場合、画面の設定（解像度、発色数およびリフレッシュレート）は、1台のディスプレイとして設定してください。

■ グラフィックスカードとディスプレイの接続

□ ATI Radeon HD 2400 PRO の場合（標準）



	DVI-I ^{注1}	アナログ ^{注2}
シングルディスプレイ	—	○
	○	—
マルチディスプレイ	○	○

注1：デジタルディスプレイを接続するときは、DVI-Iコネクタにディスプレイケーブルを接続します。

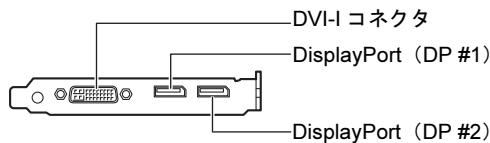
注2：アナログディスプレイを接続するときは、アナログRGBコネクタにディスプレイケーブルを接続します。

POINT

- ▶ Dual Link 対応ディスプレイはお使いになれません。接続しないでください。

□ カスタムメイドで Quadro FX シリーズを選択した場合

- Quadro FX 580、Quadro FX 1800



	DVI-I 注1	DisplayPort (DP #1)	DisplayPort (DP #2) 注2
シングルディスプレイ注3	○	—	—
	—	○	—
マルチディスプレイ注4	○	○注5	—
	—	○	○

注1：アナログディスプレイを接続するときは、DVI-I コネクタに別売の DVI-VGA 変換アダプタを接続してから、ディスプレイケーブルを接続してください。

注2：DisplayPort ケーブルで接続してください。

注3：DisplayPort (DP #2) のみでの接続はサポートしていません。

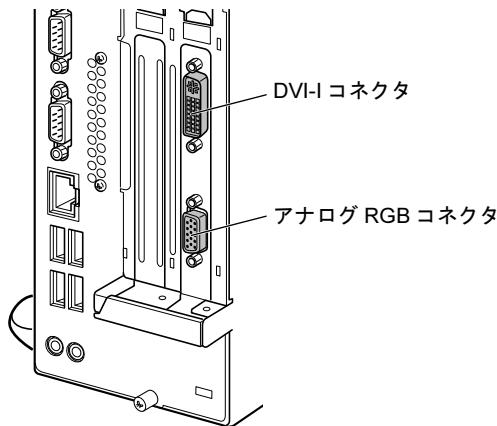
注4：表にある組み合わせ以外の接続はサポートしていません。

注5：DVI インターフェースのデジタルディスプレイを接続する場合は、市販の DP-DVI 変換アダプタを接続してから、ディスプレイケーブルを接続してください。

■ 接続する

1 2台目のディスプレイを接続します。

お使いになるディスプレイのマニュアルもご覧になり、接続してください。

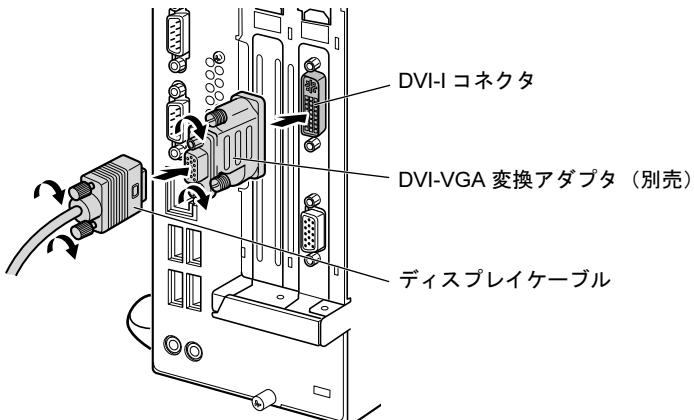


(ATI Radeon HD 2400 PRO の場合)

POINT

- ▶ DVI-VGA 変換アダプタを使用する場合

DVI-I コネクタに別売の DVI-VGA 変換アダプタを接続してから、ディスプレイケーブルを接続してください。



(ATI Radeon HD 2400 PRO の場合)

2

- 2 ディスプレイの電源を入れます。
- 3 本ワークステーションの電源を入れます。
- 4 管理者権限をもったユーザーとしてログオンします。

マルチディスプレイ機能を設定する（ATI Radeon HD 2400 PRO の場合）

POINT

- ▶ 各項目については、オンラインヘルプをご覧ください。
- ▶ リフレッシュレートとは、1秒間に画面を書き換える回数を周波数（単位はHz）で表したもので、垂直同期周波数ともいいます。CRTなどのアナログディスプレイでは、リフレッシュレートの値が高いほど画面のちらつきが少なくなりますが、その反面、画像品質が低下します。アナログディスプレイでは85Hzまたは75Hz、LCDなどのデジタルディスプレイでは60Hzでご使用されることをお勧めします。

■ クローン機能

- 1 「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「Catalyst Control Center」→「CCC」の順にクリックします。
「ATI Catalyst® Control Centerへようこそ」という画面が表示されます。

POINT

- ▶ 「ATI Catalyst® Control Centerへようこそ」以外のウィンドウが表示された場合は、画面左上にある「表示」をクリックし、「基本表示」に設定してください。

- 2 「使用の選択」の「基本の〔簡単設定ウィザードとクイック設定〕」を選択し、「次へ」をクリックします。
- 3 「簡単設定ウィザード」タブで「ディスプレイ設定を設定します」が表示されていることを確認し、「移動する」をクリックします。
「利用可能なディスプレイデバイス」という画面が表示されます。
- 4 「メインディスプレイを選択」と「セカンダリディスプレイを選択」で表示するディスプレイをそれぞれ選択し、「次へ」をクリックします。
- 5 「デスクトップモード選択」で「クローン」を選択し、「次へ」をクリックします。
- 6 「ディスプレイマネージャー通知」ウィンドウが表示されたら、「はい」をクリックします。
- 7 「デスクトップ領域」で解像度を選択し、「終了」をクリックします。
解像度と発色数については、「解像度や発色数を変更する」（→P.44）をご覧ください。
「ディスプレイマネージャー通知」ウィンドウが表示された場合は、「はい」をクリックしてください。
- 8 「終了」をクリックします。
- 9 本ワークステーションを再起動します。

■ マルチモニタ機能

1 次の操作を行います。

● Windows Vista の場合

1. デスクトップで右クリックし、「個人設定」をクリックします。
「個人設定」 ウィンドウが表示されます。
2. 「画面の設定」をクリックします。

● Windows XP の場合

1. デスクトップで右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
「画面のプロパティ」 ウィンドウが表示されます。
2. 「設定」タブをクリックします。

2 「2」と表示されたディスプレイを右クリックし、「接続」をチェックします。 「互換性の警告」 ウィンドウが表示されたときは、「OK」をクリックしてください。

3 「1」と表示されたディスプレイのイラストをクリックします。

プライマリアダプタの解像度と発色数を、いったん次のように設定します。

- ・解像度：800 × 600 ピクセル
- ・発色数：最高（32 ビット）

4 「2」と表示されたディスプレイのイラストをクリックします。

セカンダリアダプタの解像度と発色数を、いったん次のように設定します。

- ・解像度：1024 × 768 ピクセル
- ・発色数：最高（32 ビット）

5 「画面の設定」 ウィンドウ、または「画面のプロパティ」 ウィンドウの「OK」をクリックします。

- ・ウィンドウが表示されるたびに、「OK」または「はい」をクリックしてください。
- ・ウィンドウが表示されない場合は、自動的に設定が変更されます。
- ・再起動を確認するメッセージが表示された場合は、画面の指示に従って再起動してください。

6 解像度と発色数を任意の数値に変更します。

ディスプレイを最初に接続したときや、接続し直した場合は、いったん 2 つのディスプレイの解像度と発色数を手順 3 と手順 4 のように設定してから、設定したい数値に変更してください。

マルチディスプレイ機能を設定する（カスタムメイドで Quadro FX シリーズを選択した場合）

POINT

- ▶ 各項目については、オンラインヘルプをご覧ください。
- ▶ リフレッシュレートとは、1秒間に画面を書き換える回数を周波数（単位は Hz）で表したもので、垂直同期周波数ともいいます。CRT などのアナログディスプレイではリフレッシュレートの値が高いほど、画面のちらつきが少なくなりますが、その反面、画像品質が低下します。アナログディスプレイでは 85Hz または 75Hz、LCD などのデジタルディスプレイでは 60Hz でご使用されることをお勧めします。
- ▶ 2台のディスプレイを接続し、初めて電源を入れたときに、1台目のディスプレイに「NVIDIA ディスプレイ セットアップ ウィザード」ウィンドウが表示される場合があります。この場合は、「キャンセル」をクリックしてください。
- ▶ 電源を入れた後に「NVIDIA コントロールパネルビューの選択」ウィンドウが表示された場合は、「標準設定」を選択し、「OK」をクリックしてください。

■ クローン機能

1 次の操作を行います。

● Windows Vista の場合

1. デスクトップで右クリックし、「個人設定」をクリックします。
「個人設定」ウィンドウが表示されます。
2. 「画面の設定」をクリックし、「詳細設定」をクリックします。

● Windows XP の場合

1. デスクトップで右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
「画面のプロパティ」ウィンドウが表示されます。
2. 「設定」タブをクリックし、「詳細設定」をクリックします。

2 「Quadro FX 580」タブ、または「Quadro FX 1800」タブをクリックします。

搭載されているグラフィックスカードによって、タブの名称が異なります。

3 「NVIDIA コントロールパネルの起動」をクリックします。

「NVIDIA コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。

「NVIDIA コントロールパネルビューの設定」ウィンドウが表示された場合は、「標準設定」を選択し、「OK」をクリックします。

4 画面左側の、「タスクの選択 ...」の「表示」にある「複数のディスプレイの設定」をクリックします。

5 ディスプレイの設定をします。

● Windows Vista の場合

1. 「1. 使用するディスプレイを選択します。」で、接続されているディスプレイにチェックが入っていることを確認します。
2. 「2. ディスプレイ設定に合わせてアイコンを配置します。」で、2台目のディスプレイのアイコン上で右クリックし、「[ディスプレイ A の名称] を [ディスプレイ B の名称] に複製」を選択します。

接続したディスプレイによって、表示される「ディスプレイの名称」は異なります。

● Windows XP の場合

1. 「1. 使用する nView ディスプレイモードを選択します。」で「両方のディスプレイで同じ（クローン）」を選択します。
2. 「2. 使用するディスプレイを選択します。」で、一覧から表示するディスプレイをクリックします。

接続したディスプレイによって、表示される名称は異なります。

6 「適用」をクリックします。

「お使いのデスクトップの設定は変更されました。変更を保存しますか？」と表示されます。

7 画面が正しく表示されたことを確認し、「はい」をクリックします。

8 ウィンドウの右上にある「閉じる」をクリックし、ウィンドウを閉じます。

9 「OK」をクリックし、すべてのウィンドウを閉じます。

■ マルチモニタ機能

1 次の操作を行います。

● Windows Vista の場合

1. デスクトップで右クリックし、「個人設定」をクリックします。
「個人設定」ウィンドウが表示されます。
2. 「画面の設定」をクリックします。

● Windows XP の場合

1. デスクトップで右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
「画面のプロパティ」ウィンドウが表示されます。
2. 「設定」タブをクリックします。

2 「2」のディスプレイをクリックします。

3 「デスクトップをこのモニタ上で移動できるようにする」、または「Windows デスクトップをこのモニタ上で移動できるようにする」をチェックします。

4 解像度と発色数を設定します。

解像度と発色数については、「解像度や発色数を変更する」(→ P.44) をご覧ください。

5 「適用」をクリックします。

POINT

- ▶ 解像度を変更した場合などに、「画面の設定」ウィンドウまたは「モニタの設定」ウィンドウが表示されることがあります。「はい」をクリックして次に進んでください。

6 「OK」をクリックし、すべてのウィンドウを閉じます。

7 本ワークステーションを再起動します。

■ スパン機能 (Windows XP のみ)

- 1** デスクトップで右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
「画面のプロパティ」 ウィンドウが表示されます。
- 2** 「設定」タブをクリックし、「詳細設定」をクリックします。
- 3** 「Quadro FX 580」タブ、または「Quadro FX 1800」タブをクリックします。
搭載されているグラフィックスカードによって、タブの名称が異なります。
- 4** 「NVIDIA コントロールパネルの起動」をクリックします。
「NVIDIA コントロールパネル」 ウィンドウが表示されます。
「NVIDIA コントロールパネルビューの設定」 ウィンドウが表示された場合は、「標準設定」を選択し、「OK」をクリックします。
- 5** 画面左側の、「タスクの選択 ...」の「表示」にある「複数のディスプレイの設定」をクリックします。
- 6** 「1. 使用する nView ディスプレイモードを選択します。」で「1 つの大きな横型デスクトップ（水平スパン）」、または「1 つの大きな縦型デスクトップ（垂直スパン）」を選択します。
 - ・「水平スパン」：2 つの画面を横置きで 1 枚の画面として使用します。
 - ・「垂直スパン」：2 つの画面を縦置きで 1 枚の画面として使用します。
- 7** 「2. 使用するディスプレイを選択します。」で、一覧から表示するディスプレイをクリックします。
接続したディスプレイによって、表示される名称が異なります。
- 8** 「適用」をクリックします。
「お使いのデスクトップの設定は変更されました。変更を保存しますか？」と表示されます。
- 9** 画面が正しく表示されたことを確認し、「はい」をクリックします。
- 10** ウィンドウの右上にある「閉じる」をクリックし、ウィンドウを閉じます。
- 11** 「OK」をクリックし、すべてのウィンドウを閉じます。
- 12** 本ワークステーションを再起動します。

7 音量 (Windows Vista の場合)

Windows XP の場合は、「音量 (Windows XP の場合)」(→ P.60) をご覧ください。スピーカーやヘッドホンの音量は、画面の音量つまみで調節します。

重要

- ▶ スピーカーが故障する原因となる場合がありますので、音量はスピーカーから聞こえる音がひづまない範囲に設定や調整をしてください。

2

画面上の音量つまみで設定する

■ スピーカーの音量を調節する

- 1 画面右下の通知領域にある「スピーカー」アイコンをクリックします。
音量を調節する画面が表示されます。

POINT

- ▶ 通知領域に「スピーカー」アイコンが表示されない場合は、次の手順を実行してください。
 1. 「スタート」ボタンを右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
「タスクバーと [スタート] メニューのプロパティ」ウィンドウが表示されます。
 2. 「通知領域」タブをクリックします。
 3. 「システムアイコン」の「ボリューム」のチェックを付けます。
 4. 「OK」をクリックし、ウィンドウを閉じます。

- 2 音量つまみを上下にドラッグして、適当な音量に調節します。
「ミュート」アイコンをクリックすると音が消え、画面右下の通知領域の表示も変わります。
- 3 デスクトップの何もないところをクリックします。
音量を調節する画面が消えます。
消えなかった場合は、いったん音量つまみをクリックしてから、デスクトップの何もないところをクリックしてください。

■ ソフトウェアごとに音量を調節する

音が出るソフトウェアごとに音量を調節することができます。

- 1 音量を調節したいソフトウェアを起動します。
- 2 画面右下の通知領域にある「スピーカー」アイコンを右クリックし、「音量ミキサを開く」をクリックします。
「音量ミキサ」ウィンドウが表示されます。
- 3 「アプリケーション」の一覧で、音量の設定を変更したいソフトウェアの音量つまみを上下にドラッグして、適切な音量に調節します。
 - ・デバイス
本ワークステーションのスピーカーから出る音量です。「画面の音量つまみ」で選択した音量と同じです。
 - ・アプリケーション
起動しているソフトウェアごとに音量を調節できます。「デバイス」で設定した音量が最大値になります。
- 4 ウィンドウの右上にある「閉じる」をクリックします。
「音量ミキサ」ウィンドウが閉じます。

■ 再生や録音をする機器ごとに音量を調節する

本ワークステーションで再生や録音をする機器（スピーカーやマイクなど）ごとに、音量を調節することができます。

再生時や録音時に調節できる項目については、「ご購入時に音量を調節できる項目」（→ P.59）をご覧ください。

POINT

- ▶ 録音する機器は、ワークステーション本体のラインイン端子や、マイク端子に、それぞれ機器が接続されている場合にのみ、選択することができます。

- 1 画面右下の通知領域にある「スピーカー」アイコンを右クリックし、「再生デバイス」または「録音デバイス」をクリックします。
「サウンド」ウィンドウが表示されます。
- 2 音量を調節したい機器を右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
音量を調節したい機器のプロパティが表示されます。

POINT

- ▶ 音量デバイスが複数表示されている場合、表示されているアイコンの下にチェックの付いている音量デバイスが有効になっています。音量を調節したい機器が有効になっていないときは、音量を設定したい機器をクリックし、「既定値に設定」をクリックしてください。

- 3 「レベル」タブをクリックします。

4 音量を調節したい項目で、音量つまみを左右にドラッグして、適切な音量に調節します。

- ・「ミュート」アイコン：音を出力したり、消したりできます。
- ・「バランス」：左右の音量のバランスを調節できます。

5 「OK」をクリックします。

音量を調節したい機器のプロパティが閉じます。

6 「OK」をクリックします。

「サウンド」ウィンドウが閉じます。

ご購入時に音量を調節できる項目

再生や録音する機器ごとに調節できる項目について説明します。

■ 再生するときに調節できる項目

再生するときの音量を調節する方法は、「再生や録音をする機器ごとに音量を調節する」(→ P.58)をご覧ください。本ワークステーションご購入時に調節できる項目は、次のとおりです。

● スピーカー

- Realtek HD Audio output
スピーカーから出力される音の再生音量を調節できます。

■ 録音するときに調節できる項目

録音するときの音量を調節する方法は、「再生や録音をする機器ごとに音量を調節する」(→ P.58)をご覧ください。本ワークステーションご購入時に調節できる項目は、次のとおりです。

● マイク

- マイク
ワークステーション本体背面のマイク端子から入力される音の録音音量を調節することができます。
- マイクブースト
マイクブーストのレベルを調節することができます。

● ライン入力

- ライン入力
ラインイン端子から入力される音の録音音量を調節することができます。

8 音量 (Windows XP の場合)

Windows Vista の場合は、「音量 (Windows Vista の場合)」(→ P.57) をご覧ください。スピーカーやヘッドホンの音量は、画面の音量つまみで調節します。また、音声入出力時のバランスや音量の設定は、音量を設定するウィンドウで行います。

※ 重要

- ▶ スピーカーが故障する原因となる場合がありますので、音量はスピーカーから聞こえる音がひづまない範囲に設定や調整をしてください。

画面上の音量つまみで設定する

- 1 画面右下の通知領域にある「音量」アイコンをクリックします。
音量を調節する画面が表示されます。

POINT

- ▶ 通知領域に「音量」アイコンが表示されない場合は、次の手順を実行してください。
 1. 「スタート」ボタン→「コントロールパネル」の順にクリックします。
 2. 「サウンド、音声、およびオーディオデバイス」をクリックします。
 3. 「サウンドとオーディオデバイス」をクリックします。
「サウンドとオーディオデバイスのプロパティ」ウィンドウが表示されます。
 4. 「音量」タブをクリックします。
 5. 「デバイスの音量」の「タスクバーに音量アイコンを配置する」のチェックを付けます。
 6. 「OK」をクリックし、すべてのウィンドウを閉じます。

- 2 音量つまみを上下にドラッグして、適当な音量に調節します。
「ミュート」をチェックすると音が消え、画面右下の通知領域の表示も変わります。
- 3 デスクトップの何もないところをクリックします。
音量を調節する画面が消えます。
消えなかった場合は、いったん音量つまみをクリックしてから、デスクトップの何もないところをクリックしてください。

再生時／録音時の音量設定

「マスター音量」 ウィンドウで再生時や録音時の音量設定ができます。

再生時や録音時に調節できる項目については、「ご購入時に音量を調節できる項目」（→ P.62）をご覧ください。

■ 再生時の音量を調節する

- 1 画面右下の通知領域にある「音量」アイコンをダブルクリックします。
「マスター音量」 ウィンドウが表示されます。
- 2 バランスや音量などを調節します。
- 3 ウィンドウの右上にある「閉じる」をクリックし、ウィンドウを閉じます。

2

■ 録音時の音量を調節する

- 1 画面右下の通知領域にある「音量」アイコンをダブルクリックします。
「マスター音量」 ウィンドウが表示されます。
- 2 「オプション」メニュー→「プロパティ」の順にクリックします。
「プロパティ」 ウィンドウが表示されます。
- 3 「ミキサーデバイス」から「Realtek HD Audio Input」を選択します。
- 4 「OK」をクリックします。
- 5 バランスや音量などを調節します。
- 6 ウィンドウの右上にある「閉じる」をクリックし、ウィンドウを閉じます。

POINT

- ▶ バランスや音量を設定しても再生時や録音時の音量が小さかったり大きかったりする場合は、次の手順で設定を変更してください。
 1. 「オプション」メニュー→「プロパティ」の順にクリックします。
 2. 「ミキサーデバイス」から「Realtek HD Audio Input」を選択し、「OK」をクリックします。
 3. 「オプション」メニュー→「トーン調整」の順にクリックします。
 4. 「マイクボリューム」の「トーン」をクリックします。
 5. 「そのほかの調整」で「マイクブースト」のチェックを確認します。
音量を大きくしたい場合はチェックを付けます。
音量を小さくしたい場合はチェックを外します。

ご購入時に音量を調節できる項目

表示されていない項目を表示させる場合は、次のように設定します。

- 1 画面右下の通知領域にある「音量」アイコンをダブルクリックします。
- 2 「オプション」メニュー→「プロパティ」の順にクリックします。
- 3 「ミキサーデバイス」から「Realtek HD Audio Input」または「Realtek HD Audio output」を選択します。
- 4 「表示するコントロール」で、項目をクリックしてチェックします。
- 5 「OK」をクリックします。
項目が表示されるようになります。



▶ 各項目で表示される名称や順番は、お使いの機種や状況により異なる場合があります。

■ 再生するときに調節できる項目

項目	ご購入時の表示状態	設定する音量
マスター音量	表示	ワークステーション全体の再生音量
WAVE	表示	WAVE 音源の再生音量
SW シンセサイザ	表示	本ワークステーション搭載のソフトウェア MIDI の再生音量
CD プレーヤー	表示	(表示されますが、音量調節できません)

■ 録音するときに調節できる項目

項目	ご購入時の表示状態	設定する音量
ライン音量	表示	ラインイン端子から入力される音の録音音量
マイクボリューム	表示	マイク端子から入力される音の録音音量
ステレオミキサー	非表示	ステレオ再生音全体の録音音量

9 通信

通信機能をお使いになる場合は、ウイルスや不正アクセスからワークステーションを守るため、セキュリティ対策を実行してください。詳しくは、「セキュリティ」(→ P.101)をご覧ください。

LAN (有線 LAN)

2

LAN の設定については、ネットワーク管理者に確認してください。

■ LAN ケーブルを接続する

本ワークステーションには、下記に対応した LAN が搭載されています。

- 10BASE-T (IEEE 802.3 準拠)
- 100BASE-TX (IEEE 802.3u 準拠)
- 1000BASE-T (IEEE 802.3ab 準拠)

⚠ 警告



- 近くで落雷のおそれがある場合は、ワークステーション本体の電源を切り、電源コードをコンセントから抜き、LAN ケーブルをコネクタから抜き、雷が止むまで取り付けないでください。そのまま使用すると、落雷による感電・火災の原因となります。

⚠ 注意



- LAN コネクタに指などを入れないでください。
感電の原因となることがあります。



- LAN ケーブルを接続する場合は、必ず LAN コネクタに接続してください。
接続するコネクタを間違えると、故障の原因となることがあります。

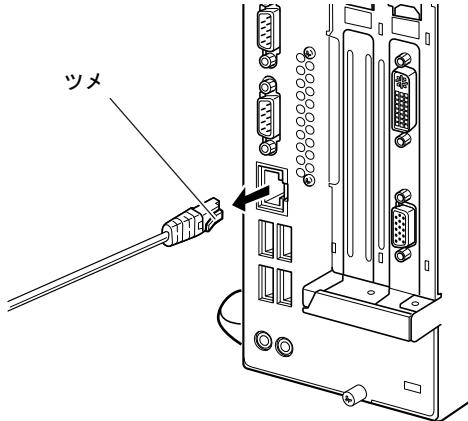
- 1 ワークステーション本体の電源を切ります。
- 2 ワークステーション本体の LAN コネクタに LAN ケーブルを接続します。
コネクタの形を合わせて、まっすぐに差し込んでください。LAN コネクタについては、「各部名称」 - 「ワークステーション本体背面」(→ P.15) をご覧ください。

◀ 重要

- ▶ ネットワークを使用中に省電力機能が働いてしまうと、他の装置からアクセスできなくなったり、ソフトウェアの不具合が発生したりする場合があります。
その場合は、「スリープ／休止状態（Windows Vista の場合）」(→ P.65)、または「スタンバイ／休止状態（Windows XP の場合）」(→ P.74) をご覧になり、省電力機能を解除してください。
- ▶ Link 速度を 1Gbps に固定して接続することはできません。

POINT

- ▶ LAN コネクタからプラグを取り外すときは、ツメを押さえながら引き抜いてください。ツメを押さえずに無理に引き抜くと破損の原因となります。



(イラストは機種や状況により異なります)

- ▶ 本ワークステーションで LAN 機能をお使いになる場合は、ネットワーク機器の電源をオンにしてから本ワークステーションの電源を入れてください。また、本ワークステーションをご使用中に LAN ケーブルを抜いたり、ネットワーク機器の電源をオフにしたりしないでください。ネットワーク機器との接続ができなくなったり、通信速度がおかしくなったりする場合があります。
例：1Gbps で通信していたのに 10Mbps の速度になる
ネットワーク機器との接続ができない場合は、ネットワーク機器の電源が入っていること、および LAN ケーブルで本ワークステーションとネットワーク機器が接続されていることをご確認後、ワークステーション本体を再起動してください。
- ▶ Link 速度を 100/10Mbps に固定して接続できます。Link 速度を固定して接続する場合、AutoNegotiation のみサポートしているネットワーク機器では、「デュプレックス」の設定は「半二重／Half Duplex」に設定してください。
「全二重／Full Duplex」に設定すると、次のような問題が発生する場合があります。
 - ・ Link ランプが点灯しない
 - ・ 通信できない
 - ・ 通信速度が異常に遅い

10 スリープ／休止状態 (Windows Vista の場合)

ここでは、本ワークステーションの省電力機能のうち、スリープと休止状態について説明しています。

Windows XP の場合は、「スタンバイ／休止状態（Windows XP の場合）」(→ P.74)をご覧ください。

2

スリープ／休止状態とは

スリープまたは休止状態を使用すると、Windows を終了しないで消費電力を抑えることができます。

● スリープ（ハイブリッドスリープが無効）

プログラムやデータをメモリに保持して、ワークステーション本体の動作を中断させます。このとき、ワークステーション本体の電源ランプの点灯が緑色からオレンジ色に変わります。

スリープ中は、電源プラグをコンセントから抜かないでください。電源が供給されなくなるため、メモリに保持しているプログラムやデータが失われます。

● スリープ（ハイブリッドスリープが有効）

プログラムやデータをメモリとハードディスクに保持して、ワークステーション本体の動作を中断させます。このとき、ワークステーション本体の電源ランプの点灯が緑色からオレンジ色に変わります。

スリープ中に電源が切れた場合は、元の状態に復旧するときにハードディスクからデータを読み出します。電源が切れた場合は、ワークステーション本体の電源ランプは消灯します。

● 休止状態

メモリ内のプログラムやデータを、ハードディスクに書き込んで保存し、ワークステーション本体の電源を切ります。このとき、ワークステーション本体の電源ランプは消灯します。電源ランプの状態は、電源を切った状態と同じですが、休止状態のときは機器の構成を変えないでください。

 **POINT**

- ▶ スリープや休止状態から動作、作業状態に回復することを「レジューム」といいます。
- ▶ 休止状態について
 - ・カスタムメイドでHDD変更(SATA-RAID)を選択した場合
HDDがSATA-RAIDの場合、ご購入時はハイブリッドスリープがオフになっていますが、休止状態は使用しないでください。また、ハイブリッドスリープをオンに設定しないでください。
 - ・HDDがSATA(標準)の場合
ハイブリッドスリープがオンに設定されていると、休止状態を使用することができません。休止状態を使用する場合は、次の手順に従ってハイブリッドスリープをオフに設定してください。
 1. 「スタート」ボタン→「コントロールパネル」→「システムとメンテナンス」→「電源オプション」の順にクリックします。
「電源オプションのプロパティ」ウィンドウが表示されます。
 2. 変更したい電源プランの「プラン設定の変更」をクリックします。
「プラン設定の編集」ウィンドウが表示されます。
 3. 「詳細な電源設定の変更」をクリックします。
 4. 「スリープ」をダブルクリックし、「ハイブリッドスリープを許可する」をダブルクリックします。
 5. 「設定」を「オフ」にします。
 6. 「OK」をクリックします。

注意事項

■ 共通の注意事項

- ワークステーションをお使いの状況によっては、スリープや休止状態、レジュームに時間がかかる場合があります。
- スリープまたは休止状態にした後は、すぐにレジュームしないでください。必ず、10秒以上たってからレジュームするようしてください。
- スリープ時や休止状態移行時またはレジューム時に、一時的に画面が乱れる場合があります。
- 次の状態でスリープに移行させると、スリープまたは休止状態にならない、スリープまたは休止状態からレジュームしない、レジューム後に正常に動作しない、データが消失するなどの問題が発生することがあります。
 - ・ Windows の起動処理中または終了処理中
 - ・ ワークステーションが何か処理をしている最中（プリンタ出力中など）、および処理完了直後
 - ・ ファイルアクセス中（フロッピーディスク、ハードディスク、CD/DVD ドライブのアクセスランプが点滅中）
 - ・ モデムやネットワークの通信中
 - ・ 自動再生（オートラン）CD-ROM または DVD-ROM を使用中
 - ・ ビデオ CD や DVD-Videoなどを再生中
 - ・ 音楽 CD やゲームソフトなどのサウンドや動画の再生中（MIDI/WAVE/AVI/MPEG/DAT 形式のファイルの再生中や音楽 CD の再生中）
 - ・ CD や DVD にデータを書き込み中または書き換え中
 - ・ ドライバのインストールが必要な周辺機器を接続しているが、対象のドライバのインストールが終了していないとき、または正しくインストールされていないとき
 - ・ ネットワーク環境で TCP/IP プロトコル以外のプロトコルを使用中
 - ・ ネットワーク環境で通信中に、「スタート」ボタンを使用してスリープおよび休止状態に移行した場合
 - ・ ネットワーク上でファイルの共有を設定し、「スタート」ボタンを使用してスリープに移行したときに、次のメッセージが表示されて「はい」をクリックした場合
「このコンピュータに接続しているユーザーが次のファイルを開いています。
[ファイル名] ~~
このまま続けるとファイルを閉じますが、ファイルを開いているユーザーはデータを失うかも知れません。続けますか？」
 - ・ マウスの操作中
 - ・ Open GL を使用するソフトウェアを実行中
 - ・ ACPI に対応していない別売の機器（拡張カード、周辺機器）を増設している場合
- BIOS セットアップの省電力に関する設定は、一部を除いて無効となります。各設定については、「BIOS」 - 「メニュー詳細」（→ P.141）をご覧ください。
- 本ワークステーションは、低レベルのスリープ（ACPI S1）をサポートしていません。お使いになる周辺機器が低レベルのスリープのみサポートしている場合は、本ワークステーションをスリープや休止状態にしないでください。
- PCI 拡張カードを増設する場合は、その拡張カードおよびドライバが「IRQ シェアリング（割り込みの共有）」をサポートしている必要があります。増設する PCI カードが IRQ シェアリングをサポートしているかどうかは、各 PCI カードメーカーに確認してください。

- CD や DVD を読み込み中にスリープや休止状態に移行すると、レジューム時にエラーメッセージが表示される場合があります。この場合は、【Enter】キーを押してください。

- ワークステーションを使用中にスリープや休止状態に移行させるときは、省電力の設定を変更することをお勧めします。省電力の設定を変更すると、ファイルアクセス中や通信中にスリープや休止状態に移行することを回避できます。

また、ネットワーク環境で LAN 着信によるレジューム機能（Wakeup on LAN 機能）をお使いの場合でも、意図せずワークステーションがレジュームする可能性が低くなります。

省電力の設定を変更する手順は、次のとおりです。

1. 「スタート」ボタン→「コントロールパネル」→「システムとメンテナンス」→「電源オプション」の順にクリックします。
「電源オプション」ウィンドウが表示されます。
2. 変更したい電源プランの「プラン設定の変更」をクリックします。
「プラン設定の編集」ウィンドウが表示されます。
3. 「コンピュータをスリープ状態にする」で、30 分以上の設定値を選択します。
4. 「変更の保存」をクリックし、すべてのウィンドウを閉じます。

- 「プラン設定の編集」ウィンドウの「ディスプレイの電源を切る」の設定はネットワークに影響しません。電源プランについては、「電源プランを変更する」(→ P.72)をご覧ください。

■ スリープ時の注意事項

- 「スタート」ボタンを使用して本ワークステーションをスリープに移行させても、すぐレジュームすることができます。その場合には、いったんマウスを動かしてから、再びスリープに移行させてください。

- TCP/IP の設定で DHCP が有効の場合、スリープへの移行時に DHCP サーバーから割り当てられた IP アドレスのリース期限が切れたとき、ワークステーション本体がレジュームすることができます。

この場合は、DHCP サーバーの IP アドレスのリース期間を延長するか、または DHCP の使用を中止し固定 IP をご使用ください。

- スリープに移行するとき、「デバイスのドライバが原因でスリープ状態に入れません。ソフトウェアをすべて閉じてから、もう一度やり直してください。問題が解決しない場合は、そのドライバを更新することをお勧めします。」の警告ウィンドウが表示されて、スリープに移行できない場合があります。これは、プログラムが動作中でスリープに移行できない状態を示します。スリープに移行させるためには、動作中のプログラムを終了してください。

■ 休止状態時の注意事項

- ハードディスクに必要な空き容量がない場合、休止状態は使用できません。
- プリンタなどの周辺機器を接続した状態で休止状態にすると、レジューム時に周辺機器の情報がフォーマット（初期化）されるため、休止状態にする前の作業状態に戻らないことがあります。

■ カスタムメイドで HDD を変更（SATA-RAID）を選択した場合

- ハイブリッドスリープおよび休止状態は使用できません。
- リビルド（再構築）およびベリファイを実行する場合には、「電源オプション」ウィンドウ→変更したい電源プランの「プラン設定の変更」→「プラン設定の編集」ウィンドウの「コンピュータをスリープ状態にする」で、移行するまでの時間を「なし」に設定してください。

スリープ／休止状態の使い方

スリープや休止状態にする方法について説明します。

POINT

- ▶ スリープに移行しようとして、「デバイスドライバかプログラムが原因で待機モードに入れません。すべてのプログラムを終了してからもう一度やり直してください。」というメッセージが表示されたときは、プログラムが動作中でスリープに入れません。動作中のソフトウェアなどを終了してからスリープにしてください。
- ▶ HDD が SATA（標準）の場合、ご購入時の設定では休止状態を使用できません。休止状態を使用する場合は、「スリープ／休止状態とは」（→ P.65）の POINT をご覧になり、設定を変更してください。
- ▶ カスタムメイドで HDD を変更（SATA-RAID）を選択した場合は、ハイブリッドスリープおよび休止状態を使用できません。

■ スリープ／休止状態にする

□ 一定時間操作しない

ご購入時には、本ワークステーションを 20 分間操作しないと自動的に「スリープ」に移行するよう設定されています。

□ スタートボタンを使う

- 1 ディスクアクセスランプ（→ P.13）が点滅していないことを確認します。
- 2 「スタート」ボタン→  |  |  の  → 「スリープ」または「休止状態」の順にクリックします。
しばらくするとスリープまたは休止状態になります。

POINT

- ▶ 画面上の「電源」ボタンをクリックしてもスリープや休止状態にすることができます。画面上の「電源」ボタンのご購入時の設定は、「スリープ」です。

□ 電源ボタンを使う

ワークステーション本体の電源ボタンを押して、スリープや休止状態にすることができます。ご購入時の設定は「シャットダウン」です。設定を変更する方法は、「電源ボタンを押したときの省電力機能を変更する」（→ P.73）をご覧ください。

■スリープ／休止状態からレジュームする

POINT

- ▶ 電源ボタンを押す方法以外でスリープからレジュームさせると、Windowsの仕様により画面が表示されない場合があります。
その場合は、キーボードかマウスから入力を行うと画面が表示されます。画面が表示されないままの状態で一定時間経過すると、本ワークステーションは再度スリープに移行します。

レジューム後しばらくすると、中断する前の画面が表示されます。レジュームには、次の方法があります。

□電源ボタンを押す

ワークステーション本体の電源ボタンを押すと、レジュームします。

POINT

- ▶ 「電源ボタンを押したときの省電力機能を変更する」(→P.73)で、「電源ボタンを押したときの動作」を「シャットダウン」に設定した場合でも、電源ボタンを押すとスリープからレジュームします。

□USBキーボードのキーを押す、またはUSBマウスを操作する

スリープ（電源ランプがオレンジ色に点灯）している場合は、USBキーボードのキーやUSBマウスのボタンを押すと、レジュームします。PS/2キーボードやPS/2マウスではレジュームしません。

USBキーボードやUSBマウスからレジュームさせる場合は、次のように設定してください。

- 1 管理者権限をもったユーザーとしてログオンします。
- 2 「スタート」ボタン→「コントロールパネル」→「システムとメンテナンス」→「デバイスマネージャ」の順にクリックします。
「ユーザー アカウント制御」ウィンドウが表示されます。
- 3 「続行」をクリックします。
「続行」が表示されず「管理者アカウント」が表示されている場合は、そのアカウントのパスワードを入力してから「OK」をクリックします。
- 4 「キーボード」または「マウスとそのほかのポインティングデバイス」をダブルクリックします。
- 5 使用するキーボードまたはマウスを右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
- 6 「電源の管理」タブをクリックします。
- 7 「このデバイスで、コンピュータのスタンバイ状態を解除できるようにする」にチェックを付けます。
- 8 「OK」をクリックして、すべての画面を閉じます。

□ レジュームする時刻を指定する

決まった時刻に本ワークステーションをレジュームさせることができます。

この機能を使用する場合は、次のように設定してください。

2

- 1 管理者権限をもったユーザーとしてログオンします。
- 2 「スタート」ボタン→「コントロールパネル」→「システムとメンテナンス」の順にクリックし、「管理ツール」の「タスクスケジューラ」をクリックします。「ユーザー アカウント制御」 ウィンドウが表示されます。
- 3 「続行」をクリックします。
「続行」が表示されず「管理者アカウント」が表示されている場合は、そのアカウントのパスワードを入力してから「OK」をクリックします。
- 4 「タスクスケジューラ」 ウィンドウの「タスクの作成」をクリックします。
時刻など追加するタスクのスケジュールを設定します。
- 5 「条件」タブの「タスクの実行時にスリープを解除する」にチェックを付けます。
- 6 「OK」をクリックして、すべての画面を閉じます。

□ LAN 着信によるレジューム（Wakeup on LAN 機能）

他のコンピュータから本ワークステーションにコンピュータ検索が行われた場合などに、自動的にレジュームさせることができます。

Wakeup on LAN 機能を使用する場合は、次のように設定してください。

- 1 管理者権限をもったユーザーとしてログオンします。
- 2 「スタート」ボタン→「コントロールパネル」→「システムとメンテナンス」→「デバイスマネージャ」の順にクリックします。
「ユーザー アカウント制御」 ウィンドウが表示されます。
- 3 「続行」をクリックします。
「続行」が表示されず「管理者アカウント」が表示されている場合は、そのアカウントのパスワードを入力してから「OK」をクリックします。
- 4 「ネットワークアダプタ」をダブルクリックします。
- 5 「Broadcom NetLink(TM) Gigabit Ethernet」を右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
- 6 「電源の管理」タブをクリックします。
- 7 次の 2 つの項目にチェックを付けます。
 - ・電力の節約のために、コンピュータでこのデバイスの電源をオフにできるようにする
 - ・このデバイスで、コンピュータのスタンバイ状態を解除できるようにする
- 8 「OK」をクリックして、すべての画面を閉じます。

□ PCI 規格のカードによるレジューム

他のコンピュータから本ワークステーションにコンピュータ検索が行われた場合などに、自動的にレジュームさせることができます。この機能は、PME# 信号をサポートした PCI 規格の拡張カード（PCI Revision 2.3 に準拠）が搭載されている場合に使用できます。詳しくは、お使いの拡張カードのマニュアルをご覧ください。

スリープ／休止状態の設定を変更する

省電力機能が働くまでの時間などの設定を変更するには、「コントロールパネル」の「電源オプション」 ウィンドウで行います。

CD や DVD にデータを書き込むときや、LAN を使用するときなど、必要に応じて設定を変更してください。

■ 電源プランを変更する

ご購入時は「バランス」、「省電力」、「高パフォーマンス」が用意されています。お使いになる状況に適した電源プランを選択してください。

なお、各電源プランにある「プラン設定の変更」をクリックすると、各プランの設定を変更することができます。

ご購入時の電源プランは次のように設定されています。

- 電源プラン：バランス
- ディスプレイ：15 分
- スリープ：20 分

■ スリープになるまでの時間を変更する

ご購入時には、一定時間ワークステーションを操作しないと自動的に「スリープ」になるように設定されています。

スリープになるまでの時間は、次の手順で変更することができます。

- 1 「スタート」ボタン→「コントロールパネル」→「システムとメンテナンス」→「電源オプション」の順にクリックします。
「電源オプション」 ウィンドウが表示されます。
- 2 「電源オプション」 ウィンドウ左の「コンピュータがスリープ状態になる時間を変更」をクリックします。
「プラン設定の編集」 ウィンドウが表示されます。
- 3 「コンピュータをスリープ状態にする」の時間を変更します。
- 4 「変更の保存」をクリックします。
- 5 ウィンドウの右上にある「閉じる」をクリックし、ウィンドウを閉じます。

■ 電源ボタンを押したときの省電力機能を変更する

ワークステーション本体の電源ボタンを押したときに働く省電力機能は、次の手順で変更することができます。

- 1 「スタート」ボタン→「コントロールパネル」→「システムとメンテナンス」→「電源オプション」の順にクリックします。
「電源オプション」ウィンドウが表示されます。
- 2 「電源オプション」ウィンドウ左の「電源ボタンの動作の選択」をクリックします。
- 3 「電源ボタンを押したときの動作」の設定を変更します。
- 4 「変更の保存」をクリックします。
- 5 ウィンドウの右上にある「閉じる」をクリックし、ウィンドウを閉じます。

■ スリープから復帰するときに Windows のパスワード入力を必須とする設定にする

本ワークステーションがスリープから復帰するときに、Windows に設定してあるパスワードの入力を必須とする設定にすると、本ワークステーションのセキュリティを高めることができます。

- 1 「スタート」ボタン→「コントロールパネル」→「システムとメンテナンス」→「電源オプション」の順にクリックします。
「電源オプション」ウィンドウが表示されます。
- 2 「電源オプション」ウィンドウ左の「電源ボタンの動作の選択」をクリックします。
- 3 「現在利用可能ではない設定を変更します」をクリックします。
「ユーザー アカウント制御」ウィンドウが表示されます。
- 4 「続行」をクリックします。
「続行」が表示されず「管理者アカウント」が表示されている場合は、そのアカウントのパスワードを入力してから「OK」をクリックします。
- 5 「パスワードを必要とする（推奨）」を選択します。
- 6 「変更の保存」をクリックします。
- 7 ウィンドウの右上にある「閉じる」をクリックし、ウィンドウを閉じます。

11 スタンバイ／休止状態 (Windows XP の場合)

ここでは、本ワークステーションの省電力機能のうち、スタンバイと休止状態について説明しています。

Windows Vista の場合は、「スリープ／休止状態 (Windows Vista の場合)」(→ P.65)をご覧ください。

スタンバイ／休止状態とは

スタンバイまたは休止状態を使用すると、Windows を終了しないで消費電力を抑えることができます。

● スタンバイ

メモリ内のプログラムやデータを、システムメモリ (RAM) に保持してワークステーション本体の動作を中断させます。スタンバイ中は、電源ランプがオレンジ色に点灯します。休止状態よりも短い時間で、中断やレジュームを行うことができます。スタンバイ中は、わずかに電力を消費していて、電源は AC 電源から供給されます。

● 休止状態

実行中のプログラムやデータを、ハードディスクに書き込んで保存し、ワークステーション本体の電源を切ります。電源を自動的に切るため、スタンバイよりも中断／レジュームにかかる時間が長くなります。なお、休止状態に入るようになります。「電源オプションのプロパティ」 ウィンドウで設定する必要があります。

POINT

- ▶ スタンバイや休止状態から動作、作業状態に回復することを「レジューム」といいます。

注意事項

■ 共通の注意事項

- ワークステーションをお使いの状況によっては、スタンバイや休止状態、レジュームに時間がかかる場合があります。
- スタンバイまたは休止状態にした後は、すぐにレジュームしないでください。必ず、10 秒以上たってからレジュームするようにしてください。
- スタンバイ時や休止状態移行時、またはレジューム時に、一時的に画面が乱れる場合があります。
- 次の状態でスタンバイに移行させると、スタンバイまたは休止状態にならない、スタンバイまたは休止状態からレジュームしない、レジューム後に正常に動作しない、データが消失するなどの問題が発生することがあります。
 - ・ Windows の起動処理中または終了処理中
 - ・ ワークステーションが何か処理をしている最中（プリンタ出力中など）、および処理完了直後
 - ・ ファイルアクセス中（フロッピーディスク、ハードディスク、CD/DVD ドライブのアクセスランプが点滅中）
 - ・ モデムやネットワークの通信中
 - ・ 自動再生（オートラン）CD-ROM または DVD-ROM を使用中
 - ・ ビデオ CD や DVD-Videoなどを再生中
 - ・ 音楽 CD やゲームソフトなどのサウンドや動画の再生中（MIDI/WAVE/AVI/MPEG/DAT 形式のファイルの再生中や音楽 CD の再生中）
 - ・ CD や DVD にデータを書き込み中または書き換え中
 - ・ ドライバのインストールが必要な周辺機器を接続しているが、対象のドライバのインストールが終了していないとき、または正しくインストールされていないとき
 - ・ ネットワーク環境で TCP/IP プロトコル以外のプロトコルを使用中
 - ・ ネットワーク環境で通信中に、「コンピュータの電源を切る」ウィンドウを使用してスタンバイおよび休止状態に移行した場合
 - ・ ネットワーク上でファイルの共有を設定し、「コンピュータの電源を切る」ウィンドウを使用してスタンバイに移行したときに、次のメッセージが表示されて「はい」をクリックした場合
- 「このコンピュータに接続しているユーザーが次のファイルを開いています。
[ファイル名] ~~
このまま続けるとファイルを閉じますが、ファイルを開いているユーザーはデータを失うかも知れません。続けますか？」
- ・ マウスの操作中
- ・ OpenGL を使用したスクリーンセーバーが起動しているとき
- ・ OpenGL を使用するソフトウェアを実行中
- ・ ACPI に対応していない別売の機器（拡張カード、周辺機器）を増設している場合
- BIOS セットアップの省電力に関する設定は、一部を除いて無効となります。各設定については、「BIOS」－「メニュー詳細」（→ P.141）をご覧ください。
- 本ワークステーションは、低レベルのスタンバイ（ACPI S1）をサポートしていません。お使いになる周辺機器が低レベルのスタンバイのみサポートしている場合は、本ワークステーションをスタンバイや休止状態にしないでください。

- PCI 拡張カードを増設する場合は、その拡張カードおよびドライバが「IRQ シェアリング(割り込みの共有)」をサポートしている必要があります。増設する PCI カードが IRQ シェアリングをサポートしているかどうかは、各 PCI カードメーカーに確認してください。

- CDやDVDを読み込み中にスタンバイや休止状態に移行すると、レジューム時にエラーメッセージが表示される場合があります。この場合は、【Enter】キーを押してください。

- ワークステーションを使用中にスタンバイや休止状態に移行させるときは、省電力の設定を変更することをお勧めします。省電力の設定を変更すると、ファイルアクセス中や通信中にスタンバイや休止状態に移行することを回避できます。

また、ネットワーク環境で LAN 着信によるレジューム機能（Wake up on LAN 機能）をお使いの場合でも、意図せずワークステーションがレジュームする可能性が低くなります。

省電力の設定を変更する手順は、次のとおりです。

1. 「スタート」ボタン→「コントロールパネル」→「パフォーマンスとメンテナンス」→「電源オプション」の順にクリックします。
「電源オプションのプロパティ」ウィンドウが表示されます。
 2. 「電源設定」タブの「システムスタンバイ」および「システム休止状態」で、30 分以上の設定値を選択します。
 3. 「OK」をクリックして、すべてのウィンドウを閉じます。
- 「電源オプションのプロパティ」ウィンドウの「電源設定」タブにある「モニタの電源を切る」、「ハードディスクの電源を切る」の設定はネットワークに影響しません。

■ スタンバイ時の注意事項

- 電源ボタンなどで本ワークステーションをスタンバイに移行させても、すぐレジュームすることがあります。その場合には、いったんマウスを動かしてから、もう一度スタンバイに移行させてください。

- TCP/IP の設定で DHCP が有効の場合、スタンバイへの移行時に DHCP サーバーから割り当てられた IP アドレスのリース期限が切れたとき、ワークステーション本体がレジュームすることがあります。

この場合は、DHCP サーバーの IP アドレスのリース期間を延長するか、または DHCP の使用を中止し固定 IP をご使用ください。

- スタンバイに移行するとき、「デバイスのドライバが原因でスタンバイ状態に入れません。ソフトウェアをすべて閉じてから、もう一度やり直してください。問題が解決しない場合は、そのドライバを更新することをお勧めします。」の警告ウィンドウが表示されて、スタンバイに移行できない場合があります。これは、プログラムが動作中でスタンバイに移行できない状態を示します。スタンバイに移行させるためには、動作中のプログラムを終了してください。

■ 休止状態時の注意事項

- ハードディスクに必要な空き容量がない場合、休止状態は使用できません。
- プリンタなどの周辺機器を接続した状態で休止状態にすると、レジューム時に周辺機器の情報がフォーマット（初期化）されるため、中断する前の作業状態に戻らないことがあります。

■ カスタムメイドで HDD 変更（SATA-RAID）を選択した場合

- 休止状態は使用できません。
- リビルド（再構築）およびベリファイを実行する場合には、「電源オプションのプロパティ」→「電源設定」タブの「システムスタンバイ」および「システム休止状態」で、移行するまでの時間を「なし」に設定してください。

スタンバイ／休止状態の使い方

スタンバイや休止状態にする方法について説明します。

POINT

- ▶ スタンバイに移行しようとして、「デバイスのドライバが原因でスタンバイ状態に入れません。ソフトウェアをすべて閉じてから、もう一度やり直してください。」というメッセージが表示されたときは、プログラムが動作中でスタンバイに入れません。動作中のソフトウェアなどを終了してからスタンバイにしてください。
- ▶ HDD が SATA（標準）の場合は、ご購入時の設定では休止状態を使用できません。休止状態を使用する場合は、「スタンバイ／休止状態の設定を変更する」（→ P.80）をご覧になり、設定を変更してください。
- ▶ カスタムメイドで HDD 変更（SATA-RAID）を選択した場合は、休止状態は使用できません。

2

■ スタンバイ／休止状態にする

□ 一定時間操作しない

ご購入時には、本ワークステーションを 20 分間操作しないと自動的に「スタンバイ」に移行するように設定されています。

□ 「コンピュータの電源を切る」ウィンドウを使う

- 1** ディスクアクセスランプ（→ P.13）が点滅していないことを確認します。
- 2** 「スタート」ボタン→「終了オプション」の順にクリックします。
- 3** 「スタンバイ」または「休止状態」を選択します。
しばらくするとスタンバイまたは休止状態になります。

□ 電源ボタンを使う

ワークステーション本体の電源ボタンを押して、スタンバイや休止状態にすることができます。ご購入時の設定は「シャットダウン」です。設定を変更する方法は、「電源ボタンを押したときの省電力機能を変更する」（→ P.81）をご覧ください。

■スタンバイ／休止状態からレジュームする

POINT

- ▶ 電源ボタンを押す方法以外でスタンバイからレジュームさせると、Windowsの仕様により画面が表示されない場合があります。
その場合は、キーボードかマウスから入力を行うと画面が表示されます。画面が表示されないままの状態で一定時間経過すると、本ワークステーションは再度スタンバイに移行します。

レジューム後しばらくすると、中断する前の画面が表示されます。レジュームには、次の方法があります。

□電源ボタンを押す

ワークステーション本体の電源ボタンを押すと、レジュームします。

POINT

- ▶ 「電源ボタンを押したときの省電力機能を変更する」(→P.81)で、「電源ボタンを押したときの動作」を「シャットダウン」に設定した場合でも、電源ボタンを押すとスタンバイからレジュームします。

□USBキーボードのキーを押す、またはUSBマウスを操作する

スタンバイ（電源ランプがオレンジ色に点灯）している場合は、USBキーボードのキーやUSBマウスのボタンを押すと、レジュームします。PS/2キーボードやPS/2マウスではレジュームしません。

USBキーボードやUSBマウスからレジュームさせる場合は、次のように設定してください。

- 1 管理者権限をもったユーザーとしてログオンします。
- 2 「スタート」ボタンをクリックし、「マイコンピュータ」を右クリックして「プロパティ」をクリックします。
「システムのプロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 3 「ハードウェア」タブをクリックし、「デバイスマネージャ」をクリックします。
- 4 「キーボード」または「マウスとそのほかのポインティングデバイス」をダブルクリックします。
- 5 使用するキーボードまたはマウスを右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
- 6 「電源の管理」タブをクリックします。
- 7 「このデバイスで、コンピュータのスタンバイ状態を解除できるようにする」にチェックを付けます。
- 8 「OK」をクリックして、すべての画面を閉じます。

□ レジュームする時刻を指定する

決まった時刻に本ワークステーションをレジュームさせることができます。

この機能を使用する場合は、次のように設定してください。

- 1 管理者権限をもったユーザーとしてログオンします。
- 2 「スタート」ボタン→「コントロールパネル」→「パフォーマンスとメンテナンス」→「タスク」→「スケジュールされたタスクの追加」の順に選択します。「タスクウィザード」ウィンドウが表示されます。
- 3 「タスクウィザード」で、時刻など追加するタスクのスケジュールを設定します。
- 4 「タスク」ウィンドウで、追加したタスクを右クリックして「プロパティ」をクリックします。
- 5 「設定」タブの「タスクの実行時にスリープを解除する」にチェックを付けます。
- 6 「OK」をクリックして、すべての画面を閉じます。

□ LAN 着信によるレジューム（Wakeup on LAN 機能）

他のコンピュータから本ワークステーションにコンピュータ検索が行われた場合などに、自動的にレジュームさせることができます。

Wakeup on LAN 機能を使用する場合は、次のように設定してください。

- 1 管理者権限をもったユーザーとしてログオンします。
- 2 「スタート」ボタンをクリックし、「マイコンピュータ」を右クリックして「プロパティ」をクリックします。
「システムのプロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 3 「ハードウェア」タブをクリックし、「デバイスマネージャ」をクリックします。
- 4 「ネットワークアダプタ」をダブルクリックします。
- 5 「Broadcom NetLink(TM) Gigabit Ethernet」を右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
- 6 「電源の管理」タブをクリックします。
- 7 次の 2 つの項目にチェックを付けます。
 - ・電力の節約のために、コンピュータでこのデバイスの電源をオフにできるようにする
 - ・このデバイスで、コンピュータのスタンバイ状態を解除できるようにする
- 8 「OK」をクリックして、すべての画面を閉じます。

□ PCI 規格のカードによるレジューム

他のコンピュータから本ワークステーションにコンピュータ検索が行われた場合などに、自動的にレジュームさせることができます。この機能は、PME# 信号をサポートした PCI 規格の拡張カード（PCI Revision 2.3 に準拠）が搭載されている場合に使用できます。詳しくは、お使いの拡張カードのマニュアルをご覧ください。

スタンバイ／休止状態の設定を変更する

省電力機能が働くまでの時間などの設定変更は、「スタート」ボタン→「コントロールパネル」→「パフォーマンスとメンテナンス」→「電源オプション」の順にクリックして、「電源オプションのプロパティ」ウィンドウで行います。

CD や DVD にデータを書き込むときや、LAN を使用するときなど、必要に応じて設定を変更してください。

■ 電源設定を変更する

ご購入時は、6 種類の電源設定が用意されています。お使いの状況に適した電源設定を選択してください。

ご購入時は次のように設定されています。

- 電源設定：自宅または会社のデスク
- ディスプレイ：15 分
- スタンバイ：20 分

■ スタンバイ／休止状態になるまでの時間を変更する

ご購入時には、一定時間ワークステーションを操作しないと自動的に「スタンバイ」になるよう設定されています。

スタンバイや休止状態になるまでの時間は、次の手順で変更することができます。

- 1 「スタート」ボタン→「コントロールパネル」→「パフォーマンスとメンテナンス」→「電源オプション」の順にクリックします。
「電源オプションのプロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 2 休止状態を使用する場合は、「休止状態」タブの「休止状態を有効にする」にチェックを付け、「適用」をクリックします。
- 3 「電源設定」タブをクリックし、お使いの状況に合わせて、「電源設定」を選択します。
- 4 「システムスタンバイ」または「システム休止状態」の設定を変更します。
- 5 「OK」をクリックします。

■ 電源ボタンを押したときの省電力機能を変更する

ワークステーション本体の電源ボタンを押したときに働く省電力機能は、次の手順で変更することができます。

- 1 「スタート」ボタン→「コントロールパネル」→「パフォーマンスとメンテナンス」→「電源オプション」の順にクリックします。
「電源オプションのプロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 2 休止状態を使用する場合は、「休止状態」タブの「休止状態を有効にする」にチェックを付け、「適用」をクリックします。
- 3 「詳細設定」タブをクリックし、「コンピュータの電源ボタンを押したとき」の設定を変更します。
- 4 「OK」をクリックします。

■ スタンバイから復帰するときに Windows のパスワード入力を必須とする設定にする

本ワークステーションがスタンバイから復帰するときに、Windows に設定してあるパスワードの入力を必須とする設定にすると、本ワークステーションのセキュリティを高めることができます。

- 1 「スタート」ボタン→「コントロールパネル」→「パフォーマンスとメンテナンス」→「電源オプション」の順にクリックします。
「電源オプションのプロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 2 「詳細設定」タブをクリックし、「スタンバイから回復するときにパスワードの入力を求める」にチェックを付けます。
- 3 「OK」をクリックします。

Memo

第3章

周辺機器の設置／設定／増設

周辺機器の取り付け方法や注意事項を説明しています。

3

1 周辺機器を取り付ける前に	84
2 本体カバーを取り外す	86
3 メモリ	88
4 拡張カード	94

1 周辺機器を取り付ける前に

本ワークステーションは、さまざまな周辺機器を接続または内蔵して、機能を拡張できます。

⚠️ 警告



- 周辺機器のケーブルは、このマニュアルをよく読み、正しく接続してください。
誤った接続状態でお使いになると、感電・火災の原因となります。また、ワークステーション本体および周辺機器が故障する原因となります。

⚠️ 注意



- 周辺機器などの取り付け、取り外しを行うときは、指定された場所以外のネジは外さないでください。
指定された場所以外のネジを外すと、けがをするおそれがあります。また、故障の原因となることがあります。



- 電源を切った直後は、ワークステーション本体内部の装置が熱くなっています。電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いた後充分に待ってから作業を始めてください。
やけどの原因となることがあります。

取り扱い上の注意

周辺機器を取り付けるときは、次のことに注意してください。

● 周辺機器の中には、お使いになれないものがあります

ご購入の前に富士通製品情報ページ内にある CELSIUS Workstation Series の「システム構成図」(<http://www.finworld.net/biz/celsius/price/>) をご覧になり、その周辺機器がお使いになれるかどうかを確認してください。

● 周辺機器は、弊社純正品をお使いいただくことをお勧めします

純正品以外を取り付けた場合、正常に動かなかったり、ワークステーションが故障したりしても、保証の対象外となります。

純正品が用意されていない機器については、本ワークステーションに対応しているかどうかをお使いの周辺機器メーカーにご確認ください。

弊社純正品以外の動作については、サポートしておりません。

● 一度に取り付ける周辺機器は1つだけにしてください

一度に複数の周辺機器を取り付けると、ドライバのインストールなどが正常に行われないことがあります。1つの周辺機器の取り付けが終了して、動作確認を行った後、別の周辺機器を取り付けてください。

● ワークステーションおよび接続されている機器の電源を切ってください

安全のため、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。ワークステーションの電源を切った状態でも、ワークステーション本体内部には電流が流れています。

● 搭載の周辺機器について

標準搭載およびカスタムメイドの選択によって搭載された機器は、ご購入時の状態から搭載位置や接続ケーブルの接続先などを変更することをサポートしておりません（マニュアルなどに指示がある場合は除く）。

● 電源ユニットは分解しないでください

電源ユニットは、ワークステーション本体内部の背面側にある箱形の部品です。

詳しくは、「各部名称」—「ワークステーション本体内部」（→ P.18）をご覧ください。

● 内部のケーブル類や装置の扱いに注意してください

傷付けたり、加工したりしないでください。

● 柔らかい布の上などで作業してください

固い物の上に直接置いて作業すると、ワークステーション本体に傷が付くおそれがあります。

● 静電気に注意してください

内蔵周辺機器は、プリント基板や電子部品がむきだしになっています。これらは、人体に発生する静電気によって損傷を受ける場合があります。取り扱う前に、一度大きな金属質の物に手を触れるなどして静電気を放電してください。

● プリント基板表面やはんだ付けの部分、コネクタ部分には手を触れないでください

金具の部分や、プリント基板のふちを持つようにしてください。

● 周辺機器の電源について

周辺機器の電源はワークステーション本体の電源を入れる前に入れるもののが一般的ですが、ワークステーション本体より後に電源を入れるものもあります。周辺機器のマニュアルをご覧ください。

● ACPIに対応した周辺機器をお使いください

本ワークステーションは、ACPI（省電力に関する電源制御規格の1つ）に対応しています。ACPI対応のOSで周辺機器をお使いになる場合、周辺機器がACPIに対応しているか周辺機器の製造元にお問い合わせください。ACPIに対応していない周辺機器を使うと、周辺機器が正常に動作しないおそれがあります。

● ドライバーを用意してください

周辺機器の取り付けや取り外しには、プラスのドライバーが必要な場合があります。

ネジの頭をつぶさないように、ネジのサイズに合ったドライバーをご用意ください。

2 本体力バーを取り外す

周辺機器を取り付けるときは、本体力バーを取り外して、内部が見える状態にします。

⚠️ 警告

- 本体力バーの取り付けや取り外しを行うときは、ワークステーション本体および接続されている機器の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いた後に行うようにしてください。この手順を守らずに作業を行うと、感電・火災または故障の原因となります。

⚠️ 注意

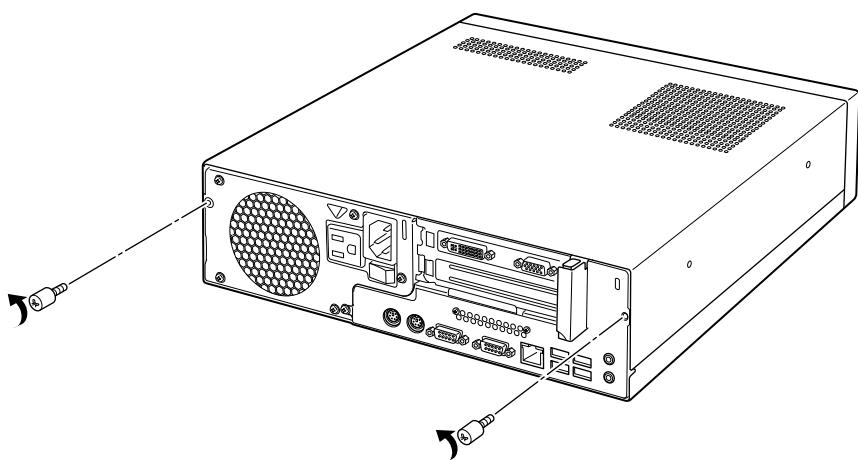
- 本体力バーの取り付け、取り外しを行うときは、指定された場所以外のネジは外さないでください。
指定された場所以外のネジを外すと、けがをするおそれがあります。また、故障の原因となることがあります。

本体力バーの取り外し方

メモリなどの周辺機器を取り付けるときは、本体力バーを取り外します。取り外し方は、次とおりです。

なお、フット（→P.14）を取り付けている場合は、ワークステーション本体からフットを取り外し、横置きにしてから本体力バーを取り外してください。

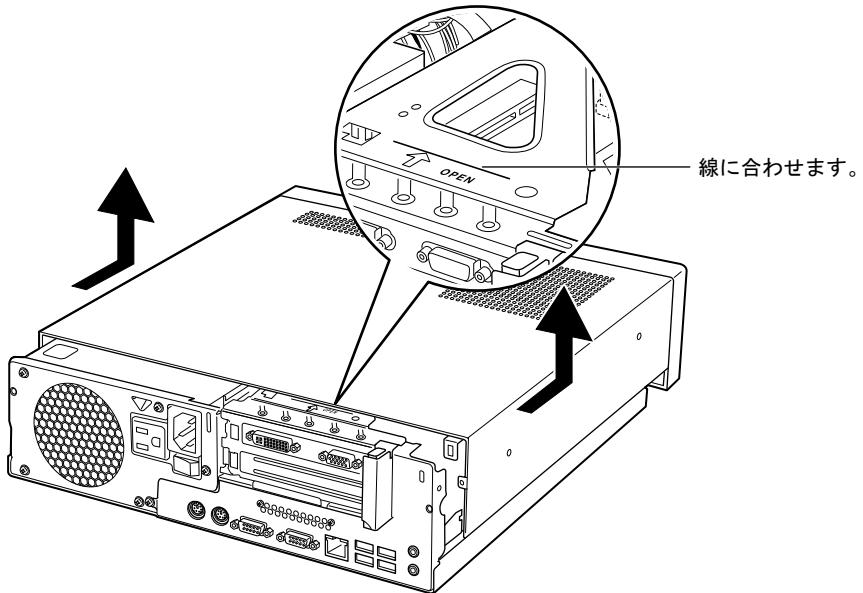
- 1 ワークステーション本体および接続されている機器の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜きます。
- 2 ワークステーション本体背面のネジ（2ヶ所）を外します。



（これ以降のイラストは機種や状況により異なります）

3 本体カバーを取り外します。

ワークステーション本体前面側にスライドさせてから、上に持ち上げて取り外します。
お使いの機種により、本体カバーの取り外しが硬く感じる場合があります。



POINT

- ▶ 本体カバーを取り付ける場合は、本体カバーをワークステーション本体の上に下ろし、ワークステーション本体背面側に、突き当たるまでしっかりとスライドさせてください。その後、手順 2 で取り外したネジ（2ヶ所）で固定してください。

3 メモリ

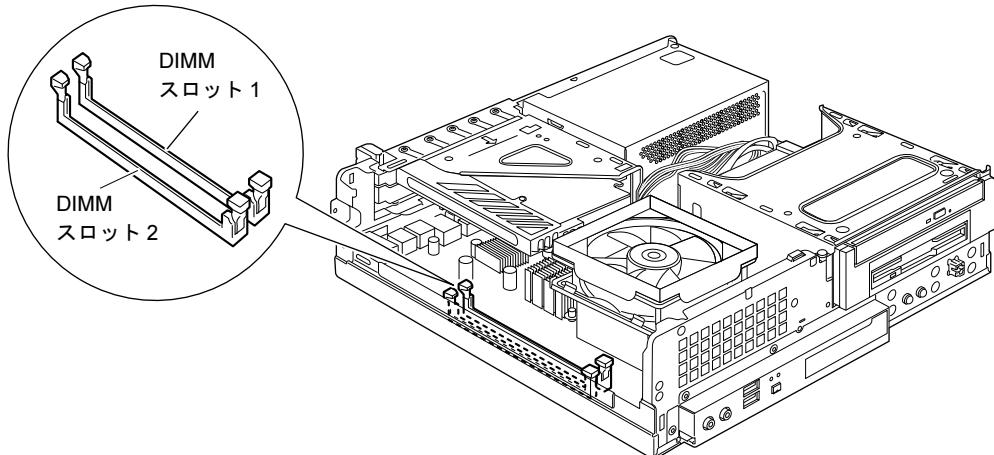
本ワークステーションのメモリを増やすと、一度に読み込めるデータの量が増え、ワークステーションの処理能力があがります。

メモリの取り付け場所

メモリはワークステーション本体内部のメモリスロットに取り付けます。

POINT

- イラストは、カスタムメイドで CD/DVD ドライブおよび FDD 追加を選択し、グラフィックカードは標準の ATI Radeon HD 2400 PRO が搭載されている場合です。

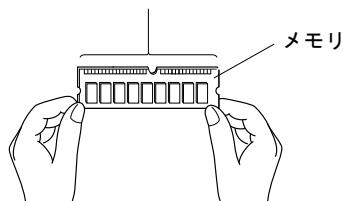


(イラストは機種や状況により異なります)

取り扱い上の注意

- メモリは、静電気に対して非常に弱い部品で構成されており、人体にたまつた静電気により破壊される場合があります。メモリを取り扱う前に、一度金属質の物に手を触れて、静電気を放電してください。
- メモリは次図のようにふちを持ってください。金色の線が入っている部分（端子）には、絶対に手を触れないでください。

この部分には手を触れないでください。



- 取り外したネジなどをワークステーション本体内部に落とさないでください。故障の原因となることがあります。
- 操作に必要な箇所以外には手を触れないでください。故障の原因となることがあります。
- メモリは何度も抜き差ししないでください。故障の原因となることがあります。
- メモリの表面の端子や IC 部分に触れて押さないでください。また、メモリに強い力をかけないようにしてください。
- メモリが補助金具などに触れないように注意してください。
- メモリがうまく取り付けられないときは、無理にメモリを取り付けず、いったんメモリを抜いてからもう一度メモリを取り付けてください。
- メモリを取り外す場合は、取り付ける手順を参照してください。なお、取り外したメモリは、静電気防止袋に入れて大切に保管してください。

取り付けられるメモリ

本ワークステーションにメモリを増設する場合は、弊社純正品の「拡張 RAM モジュール DDR2 SDRAM PC2-6400 (ECC あり)」をお使いください。

■ メモリの組み合わせ表

本ワークステーションには、最大で 4GB のメモリを取り付けることができます。

メモリを増設するときは、次の表でメモリの容量とスロットの組み合わせを確認し、正しく取り付けてください。表以外の組み合わせでは、本ワークステーションが正しく動作しない場合があります。

DIMM1	DIMM2	総容量
1GB	—	1GB (標準)
1GB	1GB	2GB
2GB	2GB	4GB <small>注</small>

注：4GB 搭載時でも、OS が使用可能な領域は約 3GB になります。ただし、装置構成によってご利用可能なメモリ容量は異なります。標準構成の場合、OS 上で認識されるメモリ容量は、搭載されているグラフィックスカードによって異なります。

- ATI Radeon HD 2400 PRO、Quadro FX 1800 の場合：3.25GB
- Quadro FX 580 の場合：3.00GB

メモリを取り付ける

⚠ 警告



- メモリの取り付けや取り外しを行うときは、ワークステーション本体および接続されている機器の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いた後に行なうようにしてください。
この手順を守らずに作業を行うと、感電・火災または故障の原因となります。

⚠ 注意



- メモリの取り付け、取り外しを行うときは、指定された場所以外のネジは外さないでください。
指定された場所以外のネジを外すと、けがをするおそれがあります。また、故障の原因となることがあります。



- ワークステーション本体内部の突起物、および指定されたスイッチ以外には、手を触れないでください。けがをするおそれがあります。また、故障の原因となることがあります。



- メモリは何度も抜き差ししないでください。
故障の原因となることがあります。



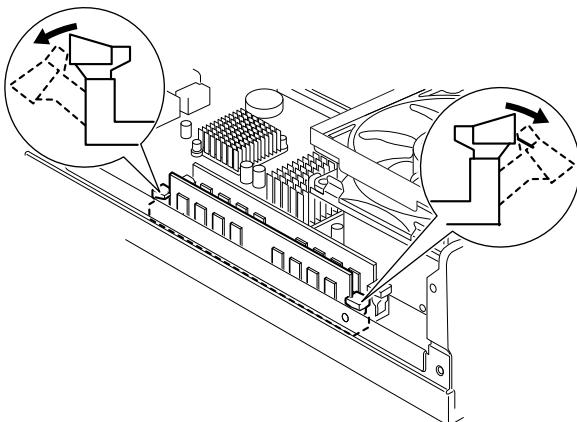
- 電源を切った直後は、ワークステーション本体内部の装置が熱くなっています。電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いた後充分に待ってから作業を始めてください。
やけどの原因となることがあります。

POINT

- ▶ ご購入後、メモリを取り付ける場合は、Windows のセットアップを実行後、一度電源を切った後に取り付けてください。
- ▶ メモリを増設した後は、仮想メモリを設定する必要があります。設定方法は、「トラブルシューティング」－「ハードウェア関連のトラブル」(→ P.194) をご覧ください。
- ▶ イラストは、カスタムメイドで CD/DVD ドライブおよび FDD 追加を選択した場合です。

- 1 ワークステーション本体および接続されている機器の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜きます。
- 2 本体カバーを取り外します (→ P.86)。

3 スロットの両側のフックを外側に開きます。



(これ以降のイラストは機種や状況により異なります)

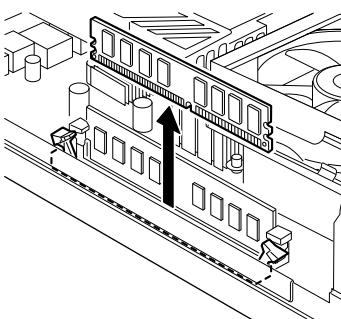
3

POINT

- ▶ メモリが取り付けられている場合、スロットの両側のフックを外側に開くときは、勢いよく開かないように注意してください。
フックを勢いよく外側に開くと、メモリが飛び出し、故障の原因となることがあります。
- ▶ メモリが取り付けにくい場合
ハードディスクドライブにケーブルが接続されていると、メモリが取り付けにくい場合があります。そのような場合は、ハードディスクドライブからケーブルを取り外した後、メモリを取り付けてください。
なお、メモリを取り付けた後は、忘れずにハードディスクドライブにケーブルを接続してください。

すでに取り付けられているメモリを交換する場合は手順4へ進んでください。
メモリを増設する場合は手順5へ進んでください。

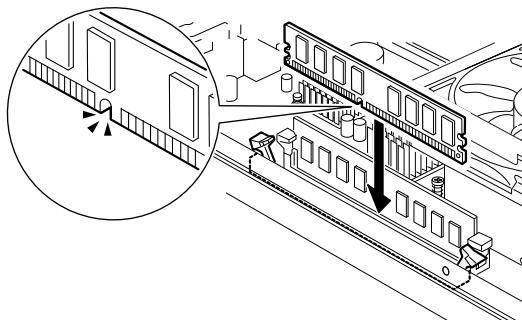
4 すでに取り付けられているメモリを取り外します。



5 メモリをスロットに差し込みます。

メモリの切り欠き部分とスロットの切り欠き部分を合わせて、スロットに垂直に差し込みます。

正しく差し込まれると、スロットの両側のフックが閉じた状態になります。このとき、フックがメモリをしっかりと固定しているか確認してください。



POINT

- 逆向きに差し込んだ場合、故障の原因となることがありますので、ご注意ください。
- メモリ素子の状態はイラストと異なる場合があります。
- 空きスロットのフックは、閉じた状態にしてください。

6 本体カバーを取り付けます。

7 電源プラグをコンセントに差し込み、本ワークステーションの電源を入れます。

メモリ容量を確認する

メモリを取り付けた後、増やしたメモリが使える状態になっているかを確認してください。
必ず、本体カバーを取り付けてから確認作業を行ってください。

※ 重要

- メモリが正しく取り付けられていないと、電源を入れたときに英語のメッセージが表示されたり、画面に何も表示されなかったりすることがあります。その場合は電源ボタンを4秒以上押し続けて本ワークステーションの電源を切り、もう一度メモリを取り付けてください。
- 取り付けが正しいにもかかわらず本ワークステーションが起動しない場合は、メモリが故障している場合があります。「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。

1 本ワークステーションの電源を入れます。

2 「スタート」ボタン→「コントロールパネル」の順にクリックします。 「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。

3 次の操作をします。

● Windows Vista の場合

1. 「システムとメンテナンス」→「システム」の順にクリックします。
「コンピュータの基本的な情報の表示」画面が表示されます。

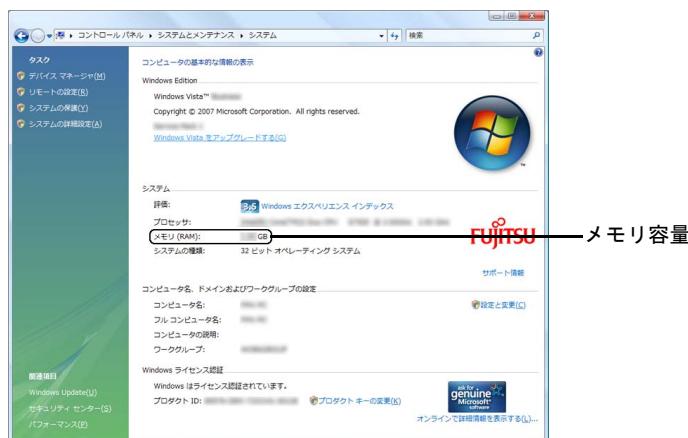
● Windows XP の場合

1. 「パフォーマンスとメンテナンス」→「システム」の順にクリックします。
「システムのプロパティ」ウィンドウが表示されます。

4 丸で囲んだ部分の数値が、増やしたメモリの分だけ増えているかを確認します。

メモリの容量の数値が正しくない場合は、電源を切った後メモリが正しく取り付けられているかどうかを確認してください。

● Windows Vista の場合



● Windows XP の場合

Windows XP は、4GB 搭載した機種の場合、メモリ容量は搭載されたグラフィックスカードによって異なります。

- ATI Radeon HD 2400 PRO、Quadro FX 1800 の場合 : 3.25GB
- Quadro FX 580 の場合 : 3.00GB



5 ウィンドウの右上にある「閉じる」をクリックし、ウィンドウを閉じます。

4 拡張カード

拡張カードは、本ワークステーションの機能を拡張します。

POINT

- ▶ ご購入後、拡張カードを取り付ける場合は、Windows のセットアップを実行後、一度電源を切った後に取り付けてください。
- ▶ 拡張カードの取り付けや取り外しを行うと、OS を読み込むデバイスの優先順位が変わり、ワークステーションが起動しないことがあります。この場合は、BIOS セットアップの「詳細」→「詳細設定」→「ハードディスク起動順位」で起動したいデバイスの順位を最上位に設定してください。
- ▶ 本ワークステーションでは、すべての PCI 規格の拡張カードについて動作保証するものではありません。
- ▶ 増設する PCI カードが起動 ROM (BIOS) を搭載している場合、その種類や増設数により、ワークステーション本体が起動できないことがあります。このような場合は、増設する PCI カードの BIOS を無効にすることにより、現象を回避することができます。増設する PCI カードの BIOS を無効にする方法は、各カードのマニュアルをご覧ください。

⚠️ 警告



- 拡張カードの取り付けや取り外しを行うときは、ワークステーション本体および接続されている機器の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いた後に行うようにしてください。この手順を守らずに作業を行うと、感電・火災または故障の原因となります。

⚠️ 注意



- 拡張カードの取り付け、取り外しを行うときは、指定された場所以外のネジは外さないでください。
指定された場所以外のネジを外すと、けがをするおそれがあります。また、故障の原因となることがあります。



- ワークステーション本体内部の突起物、および指定されたスイッチ以外には、手を触れないでください。けがをするおそれがあります。また、故障の原因となることがあります。



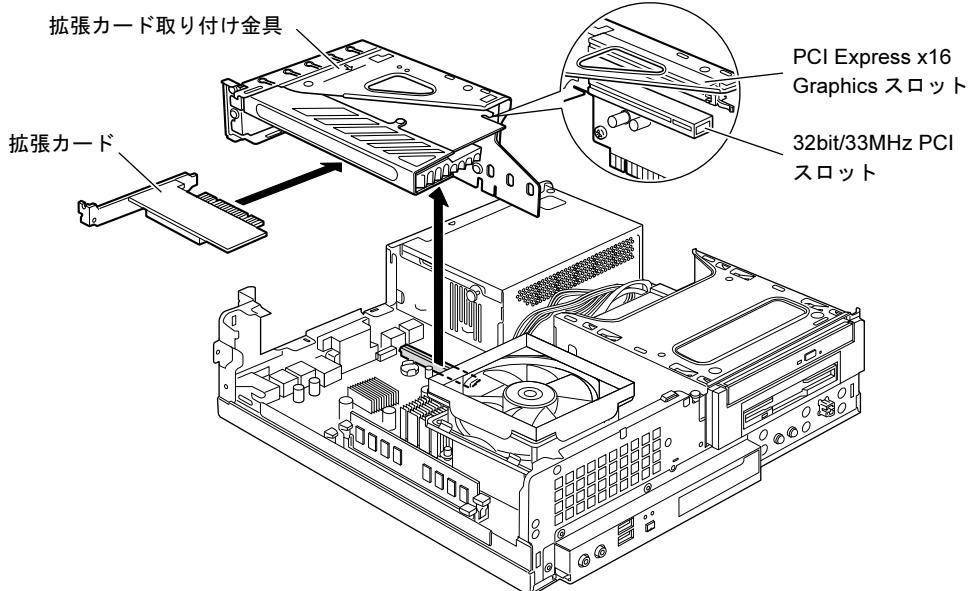
- 電源を切った直後は、ワークステーション本体内部の装置が熱くなっています。電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いた後充分に待ってから作業を始めてください。
やけどの原因となることがあります。

拡張カードの取り付け場所

拡張カードは、ワークステーション本体内部の拡張カード取り付け金具にある、拡張カードスロットに取り付けます。

POINT

- イラストは、カスタムメイドで CD/DVD ドライブおよび FDD 追加を選択し、グラフィックスカードは標準の ATI Radeon HD 2400 PRO が搭載されている場合です。



3

(イラストは機種や状況により異なります)

取り付けられる拡張カード

本ワークステーションには、PCI 規格の拡張カードを取り付けられます。

32bit/33MHz PCI スロットには、最大長 168mm の拡張カード（ハーフサイズ）を取り付けることができます。

PCI Express x16 Graphics スロットには、標準でグラフィックスカードが取り付けられています。なお、カスタムメイドで Quadro FX 1800 を選択した場合、32bit/33MHz PCI スロットはご使用になれません。

カスタムメイドで HDD 変更（SATA-RAID）を選択した場合は、PCI Express x1 スロットに SATA-RAID カードが取り付けられています。

拡張カードを取り付ける

POINT

- ▶ 拡張カード取り付け金具には、システムファンが搭載されています。拡張カードを取り外したり取り付けたりするときは、システムファンに触れないように気をつけてください。

1 ワークステーション本体および接続されている機器の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜きます。

POINT

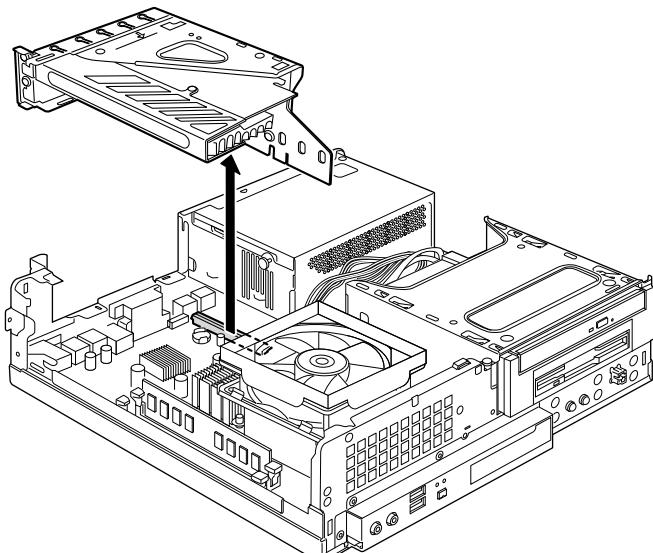
- ▶ カスタムメイドで HDD 変更 (SATA-RAID) を選択した場合
 - ・拡張カード取り付け金具の基板に、SATA-RAID カードの LED 信号用のケーブルが取り付けられています。拡張カード取り付け金具を取り外すときは、LED 信号用のケーブルが外れないように気をつけてください。
 - ・拡張カード取り付け金具を取り外すときは、SATA-RAID カードとハードディスク ドライブに接続されている SATA ケーブルが外れないように気をつけてください。
 - ・SATA ケーブルを外したまま電源を入れた場合は、正しくケーブルを接続した後にリビルドを実行する必要があります。リビルドについては、『SATA-RAID をお使いの方へ』をご覧ください。

2 本体力バーを取り外します（→ P.86）。

3 拡張カード取り付け金具を取り外します。

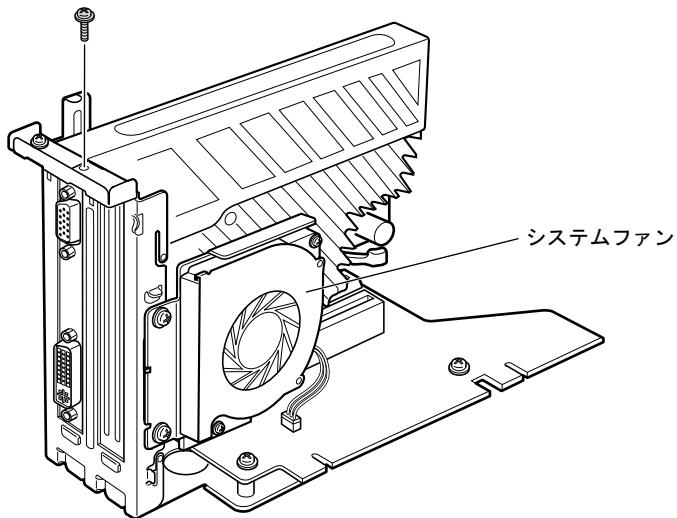
拡張カード取り付け金具は真上に引き上げてください。

すでに拡張カードが取り付けられている場合は、接続されているケーブルを抜いてから、拡張カードを取り外してください。



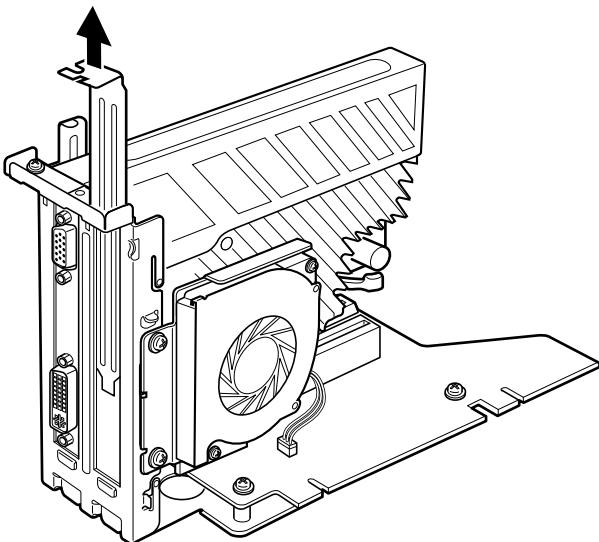
(これ以降のイラストは機種や状況により異なります)

4 スロットカバーを固定しているネジを取り外します。



3

5 スロットカバーを取り外します。

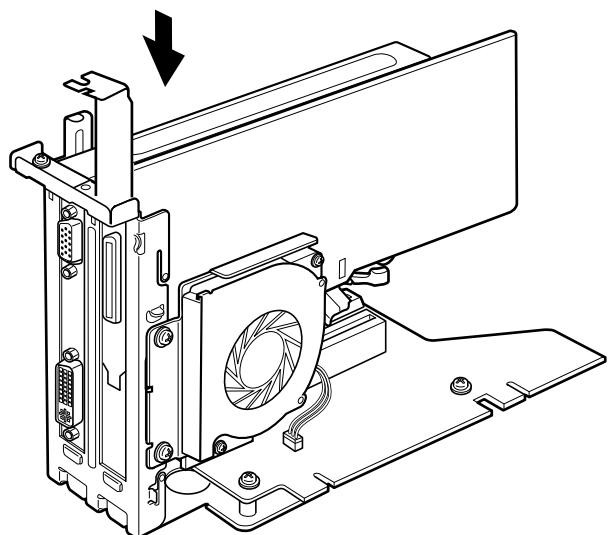


POINT

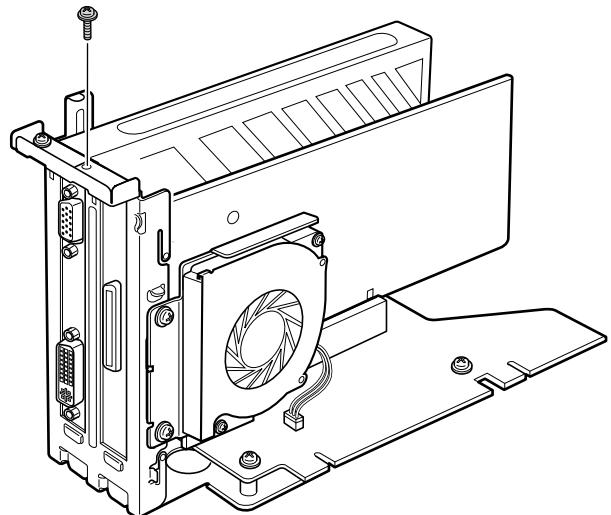
- ▶ 取り外したスロットカバーは大切に保管してください。
拡張カードを取り外してお使いになる場合は、ワークステーション内部にゴミが入らない
ように取り付けてください。

6 拡張カードをコネクタに差し込みます。

拡張カードをコネクタにしっかりと差し込んでください。

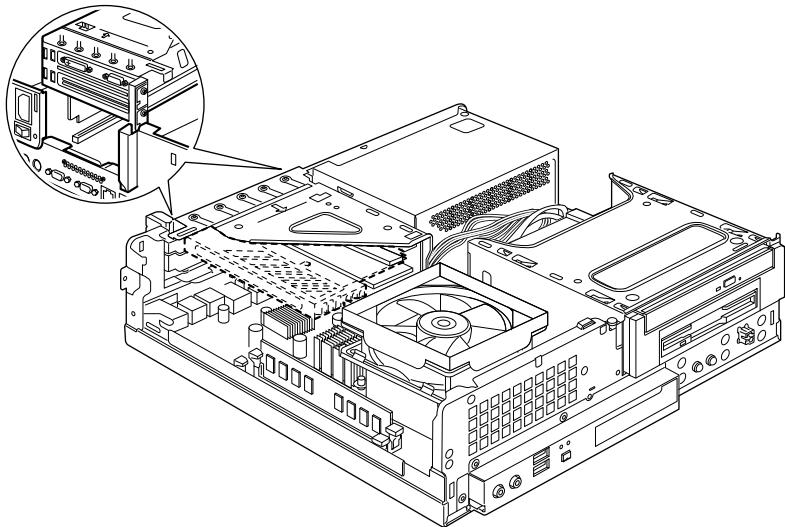


7 手順4で外したネジで、拡張カードを固定します。



8 拡張カード取り付け金具を取り付けます。

ツメがきちんと背面にかかるように、垂直に取り付けてください。



9 本体力バーを取り付けます。

10 電源プラグをコンセントに差し込み、本ワークステーションの電源を入れます。

デバイスドライバとリソースが自動的に設定され、拡張カードが使えるようになります。

POINT

- ▶ 拡張カードを取り外す場合は、取り付ける手順を参照してください。
- ▶ 拡張カードの取り付け後に画面にメッセージが表示された場合は、メッセージに従って操作してください。詳しくは、拡張カードや周辺機器のマニュアルをご覧ください。
- ▶ 拡張カードを使用する前に、デバイスマネージャに正しく登録されていることを確認してください。詳しくは、拡張カードや周辺機器のマニュアルをご覧ください。

Memo

第4章

セキュリティ

本ワークステーションで使用できるセキュリティ機能について紹介します。日ごろからセキュリティ向上を心がけてください。

1 セキュリティの重要性	102
2 コンピュータウイルス	103
3 Windows やソフトウェアを最新の状態にする	107
4 ネットワーク接続時のセキュリティ	110
5 不正使用からのセキュリティ	112
6 ワークステーションの盗難防止	116
7 ワークステーション本体の廃棄・譲渡時のご注意	118
8 データのバックアップ	122

1 セキュリティの重要性

トラブルを未然に防いだり、トラブルに遭遇した場合の被害を最小に食い止めたりするため、常に最新のセキュリティ対策をとることが重要です。

コンピュータには重要なデータや個人情報などが保存されています。また重要な情報やデータを通信することもあります。

もし、それらの大切な情報が漏えいしたり、システムやデータが破壊されたり、コンピュータ本体が盗難にあったりするなどのトラブルが発生すると、大きな損害になります。自分自身のみならず、お客様や関係者に迷惑をかけてしまう場合もあります。

そのような状況に陥る危険性を低減するために、コンピュータにできる限りのセキュリティ対策を施すことをお勧めします。

この章では、それぞれの脅威に対して有効な本ワークステーションのセキュリティ機能やお客様の心構えなどを説明しています。必要に応じてインストールや設定を行うようにしてください。

◀ 重要

- ▶ 弊社ではセキュリティ機能を使用されたこと、または使用できなかったことによって生じるいかなる損害に関しても、一切の責任を負いかねます。
セキュリティ対策は、本ワークステーションを使用している方が責任をもって行うようにしてください。
- ▶ セキュリティは一度対策をとれば安心できるものではありません。コンピュータを使用している方が日ごろから関心をもって、最新の状態にしておくことが必要です。

2 コンピュータウイルス

コンピュータウイルスとは

コンピュータウイルスとは、トラブルを引き起こすことを目的として作られたプログラムのことです。インターネットからダウンロードしたファイルやEメール、CD/DVDやUSBメモリのような媒体などを通じてコンピュータに侵入（感染）します。

コンピュータがコンピュータウイルスに感染すると、次のようなことが発生し、重大な被害を受けることがあります。

- 異常なメッセージを表示される
- 画面の表示がおかしくなる
- システムやデータが破壊される
- 情報漏えいが引き起こされる

また、使用者が気が付かないうちに感染していることがほとんどです。感染したコンピュータをそのまま使用した場合、他のコンピュータにも感染が広がってしまい、被害が拡大するといった危険があります。

コンピュータウイルスの種類は非常に多く、日々新種が発見されています。不審なプログラムを実行しない、怪しいサイトには接続しない、情報の漏えいなどを引き起こすソフトウェアをインストールしない、などを徹底することも重要です。

◀ 重要

- ▶ コンピュータウイルスに感染したことにより本ワークステーションの修理が必要になった場合、保証期間内であっても有償修理になることがあります。ウイルスの感染を防ぐために、「Norton AntiVirus」（→P.104）を使用したり、「Windows Update」（→P.107）を実行したり対策をとってください。

コンピュータウイルス対策

コンピュータウイルスに感染するリスクは、対策用のソフトウェアを使用することにより低減できます。このようなソフトウェアを「ウイルス対策ソフト」となどと呼びます。

ウイルス対策ソフトは、既知ウイルスのプログラムパターンを集めた定義ファイルと、侵入してきたプログラムのパターンを比較して、ウイルスを検出します。そのため、常に最新のウイルスパターンを取得しておくことが必要です。

◀ 重要

- ▶ インターネットに接続しただけで感染するウイルスなどもあります。
「ファイアウォール」（→P.110）を有効にすることをお勧めします。
ご購入時は「Windows ファイアウォール」が有効になっています。
「Windows ファイアウォール」については Windows のヘルプをご覧ください。

■ Norton AntiVirus

本ワークステーションには、ウイルスを発見するためのソフトウェアとして「Norton AntiVirus」が添付されています。

添付の「Norton AntiVirus」は初めて起動した日から90日間は、無料でワークステーションを保護するための「更新サービス」を利用できます。期限が過ぎた後も引き続きお使いになる場合には、有料で更新サービスの延長キーを購入してください。

更新サービスの延長について、詳しくは、株式会社シマンテックのシマンテックストア (<http://www.symantecstore.jp/users.asp>) をご覧ください。

□ 注意事項

- 「Norton AntiVirus」を起動していると、その他のソフトウェアが正常にインストールされなかつたり、ご使用のソフトウェアによっては不具合が発生したりすることがあります。この場合は「Norton AntiVirus」を一時的に使用不可にしてください。ただしインストールやソフトウェアの使用が終了した後は、使用可に戻すのを忘れないでください。手順については「Norton AntiVirus」のヘルプをご覧ください。
- 「Norton AntiVirus」でコンピュータウイルス検査を実行しているときは、ハードディスクにあるプログラムを実行したり、検査中のCD/DVDなどの媒体を取り出したり、USBメモリなどを取り外したりしないでください。
- 「Norton AntiVirus」は、コンピュータウイルスの情報を記載したデータファイルと、検査プログラム（スキャンエンジン）を使用しています。Live Updateを利用して定期的に更新してください。
- Eメールに添付されたファイルや、入手したCD/DVDやUSBメモリなどの媒体は、コンピュータウイルスに感染していないかをチェックしてからお使いください。また、ワークステーションのハードディスクは定期的にウイルスチェックを実行してください。
- 「Norton AntiVirus」をインストールすると、次のようにますが、「Norton AntiVirus」に同等の機能が含まれているため問題ありません。
 - ・画面右下の通知領域からセキュリティセンターの表示がなくなり、「Norton AntiVirus」が表示されます。
 - ・Windows Vistaの場合、「Windows Defender」が無効になります。

□ インストール方法

1 管理者権限をもったユーザーとしてWindowsにログオンします。

2 「ドライバーズディスク & ユーティリティディスク」をセットします。

「ドライバーズディスク検索ツール」が起動します。

POINT

- ▶ Windows Vistaで、「自動再生」ウィンドウが表示された場合は、「DRVCDSRC.exeの実行」をクリックしてください。
- ▶ Windows XPで、「Windowsが実行する動作を選んでください」と表示されたら、「自動再生」をクリックしてください。
- ▶ 「ドライバーズディスク検索ツール」が起動しない場合は、次のように操作してください。
 1. 「スタート」ボタン→「コンピュータ」または「マイコンピュータ」の順にクリックします。
 2. ディスクをセットしたドライブのアイコンを右クリックし、表示されたメニューから「自動再生」をクリックします。

- 3 「ソフトウェアの検索条件」で機種名が選択できる場合は、お使いの機種名を選択します。
- 4 「ソフトウェアの検索条件」でお使いのOSを選択します。
- 5 「一覧」で「Norton AntiVirus」を選択します。
- 6 表示されたフォルダ内の「Setup.exe」アイコンをダブルクリックします。
この後は、メッセージに従って操作してください。インストール後は、必ず本ワークステーションを再起動してください。

□ ウィルス定義ファイルを更新する（LiveUpdate）

「Norton AntiVirus」のウィルス定義ファイルを最新版に更新します。

POINT

- ▶ 「LiveUpdate」はシステム管理者の指示に従って実行してください。
- ▶ 「LiveUpdate」を実行するには、インターネットに接続できる環境が必要になります。
ネットワーク管理者に確認し、あらかじめ必要な設定をしてから実行してください。

● 手動で更新する

1. 「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「Norton AntiVirus」→「LiveUpdate」の順にクリックします。
更新ファイルがあるかどうか検索され、ダウンロードとインストールが始まります。
更新ファイルがない場合は、「OK」をクリックしてウィンドウを閉じます。
2. 「OK」をクリックします。
更新を有効にするために再起動が必要な場合は、Windowsを再起動してください。

● 自動で更新する

- 「自動 LiveUpdate」を「オン」に設定しておくと、インターネットに接続したときに、ウィルス定義ファイルを最新に自動更新することができます。
1. 「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「Norton AntiVirus」→「Norton AntiVirus」をクリックします。
「Norton AntiVirus」ウィンドウが表示されます。
 2. 「コンピュータ」にある「設定」をクリックします。
 3. 「更新」の「自動 LiveUpdate」の「オン／オフ」のスイッチをクリックし、「オン」にします。
「更新」はウィンドウ内の下のほうにあるので、表示するにはウィンドウのスクロールが必要な場合があります。
 4. 「OK」をクリックします。
 5. 「Norton AntiVirus」ウィンドウの右上にある「閉じる」をクリックして、ウィンドウを閉じます。

コンピュータウイルスを発見したときは

コンピュータウイルスを発見した場合は、二次感染を防ぐため、次の手順に従って作業してください。

1 ネットワークから切り離します。

有線 LAN のケーブルを抜く、無線 LAN の電源をオフにするなどして、ネットワークから切り離してください。

2 ウィルスチェックをします。

感染していた場合は、ウィルスの駆除を確認するまで、感染したコンピュータをお使いにならないでください。

コンピュータウイルスの発見、駆除などをした場合には被害届を提出してください。

コンピュータウイルスの被害状況に対する届け出制度は、「コンピュータウイルス対策基準」(平成 12 年 12 月 28 日付通商産業省告示第 952 号) の規定に基づいています。コンピュータウイルスを発見した場合、コンピュータウイルス被害の拡大と再発を防ぐために必要な情報を、独立行政法人情報処理推進機構 (IPA) セキュリティセンターに届け出ることとされています。詳しくは、ホームページ (<http://www.ipa.go.jp/security/>) をご覧ください。

3 Windows やソフトウェアを最新の状態にする

Windows やソフトウェアに脆弱性（セキュリティホール）と呼ばれる弱点が発見されることがあります。これらの脆弱性が悪用されると、コンピュータウイルスなどの悪意あるプログラムに侵入されたり、トラブルが引き起こされたりする危険性があります。

その対策として、システムやソフトウェアを提供している各社が、修正プログラムを無料で配布しています。新しい修正プログラムが発表されたときには、内容を確認のうえ適用してください。

Windows Update

Windows Update（ウィンドウズアップデート）とは、マイクロソフト社が提供するシステムサポート機能です。Windows を最新の状態に更新します。脆弱性を修正するセキュリティ機能更新、バグ修正などの対策プログラムが配布されます。

「Windows Update」を実行するためには、インターネットに接続できる環境が必要になります。あらかじめ必要な設定をしてから、実行してください。

POINT

- ▶ 「Windows Update」で提供されるプログラムについては、弊社がその内容や動作、および実施後のワークステーションの動作を保証するものではありませんのでご了承ください。
- ▶ 「Windows Update」のバージョンがアップされている場合は、「Windows Update」のホームページの案内に従って、実行してください。
- ▶ 「Windows Update」ウインドウの「他の製品の更新プログラムを取得します」をクリックすると、「Microsoft Update」を利用できるようになります。「Microsoft Update」を利用すると、Windows や Office 製品などのマイクロソフト社が提供するソフトウェアの更新プログラムを一度に入手することができます。詳しくは、「Microsoft Update」のホームページをご覧ください。

■ Windows Vista の場合

- 1 「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「Windows Update」の順にクリックします。

「Windows Update」の画面が表示されます。

- 2 「更新プログラムの確認」をクリックします。

ワークステーションの状態を診断し、更新情報を取得します。

この後は、表示される画面に従って操作してください。

■ Windows XP の場合



- ▶ 「優先度の高い更新プログラム」は、適用することをお勧めします。
- ▶ ご購入時の設定では、インターネットに接続しているときに、「優先度の高い更新プログラム」を自動更新するように設定されています。必要に応じて設定を変更してください。

1 「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「Windows Update」の順にクリックします。

「Windows Update」の画面が表示されます。

2 「カスタム」をクリックします。

ワークステーションの状態を診断し、更新情報を取得します。

更新情報のリストが表示されます。

3 内容を確認し、更新したくない項目がある場合はその項目のチェックを外します。

「優先度の高い更新プログラム」は、すべての項目を更新することをお勧めします。

4 「更新プログラムの確認とインストール」をクリックします。

インターネットへ情報を送信するにあたっての注意が表示されたら、「はい」をクリックします。

5 「更新プログラムのインストール」をクリックします。

この後は、表示される画面に従って操作してください。

セキュリティセンター

セキュリティセンターでは、Windows のセキュリティの状態を監視したり、関連する機能や設定画面を呼び出したりすることができます。

何か問題があるときには、画面右下の通知領域にあるアイコンの色が変わり、注意を喚起するメッセージを表示してお知らせします。常に最新の対策をとるように心がけてください。

■ セキュリティセンターの管理項目

セキュリティセンターでは次の項目を管理しています。

- ウイルスやスパイウェアなどの対策ソフトウェアが最新の状態で実行されている
- コンピュータがファイアウォールで守られている
- 「Windows Update」が自動的に適用されるように設定されている（Windows Vista）
- 「Windows Update」の「優先度の高い更新プログラム」が自動的に適用されるように設定されている（Windows XP）
- インターネットセキュリティやユーザー帳票制御が推奨レベルに設定されている（Windows Vista）

■ セキュリティの設定の管理

セキュリティの設定の管理については次の機能があります。

□ インターネットオプション

「Internet Explorer」のセキュリティ設定を変更できます。ホームページ閲覧中に突然表示される広告（ポップアップウィンドウ）を遮断することもできます。

□ Windows ファイアウォール（Windows Vista や Windows XP Professional (SP2)）

ネットワークを経由して、ユーザーの許可なくコンピュータにアクセスしようとする相手からコンピュータを保護するための機能です。外部のネットワークと内部のネットワークの間にファイアウォールと呼ばれる壁を作り、外部からのアクセスをコントロールすることができます。「Windows ファイアウォール」については、Windows のヘルプをご覧ください。

□ 「Windows Update」の自動更新

● Windows Vista の場合

インターネット利用中に「Windows Update」の更新プログラムがあるかどうかを定期的に確認し、お使いのワークステーションに自動的にインストールします。

● Windows XP の場合

インターネット利用中に「Windows Update」の「優先度の高い更新プログラム」があるかどうかを定期的に確認し、お使いのワークステーションに自動的にインストールします。

□ 「Windows Defender」の更新（Windows Vista のみ）

お使いのワークステーション内に侵入している、既知のスパイウェアなどの、悪意のあるプログラムを検出して削除するソフトウェアです。ネットワークを通じて自動的に定義ファイルを更新します。また、悪意のあるプログラムが侵入することを防ぐこともできます。

UpdateAdvisor（本体装置）

お使いのワークステーションのドライバや添付ソフトウェアの最新版が、弊社インターネットに公開されているか調査し、適用することができます。

1 「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「UpdateAdvisor」→「UpdateAdvisor（本体装置）」の順にクリックします。

Windows Vista で「ユーザーアカウント制御」ウィンドウが表示された場合は、「続行」をクリックします。

「続行」が表示されず「管理者アカウント」が表示されている場合は、そのアカウントのパスワードを入力してから「OK」をクリックします。

「UpdateAdvisor（本体装置）注意事項」の画面が表示されます。

POINT

- ▶ 注意事項が書かれた画面が表示された場合は、内容を確認して、「OK」をクリックしてください。

この後は、表示された画面に従って操作してください。

4 ネットワーク接続時のセキュリティ

ここではネットワークに接続しているワークステーションを守るためにセキュリティ機能や対策について説明しています。

不正アクセスによる被害の例

不正アクセスとは、あるコンピュータへの正規のアクセス権をもたない人が、ネットワークを通じて、不正な手段でコンピュータなどを使用することです。セキュリティホールの悪用や、コンピュータウイルスによって引き起こされます。

不正アクセスの被害については次のようなものがあります。

- 個人情報や重要データが盗まれる

顧客情報や社外秘重要データなどを、外部に持ち出されてしまいます。特に個人情報の漏えいは社会的に大きな問題になっています。

- ID やパスワードを盗まれ使用される

不正アクセス者は盗んだ他人の ID やパスワードで本人に成り済みます。コンピュータが勝手に操作されたり、データを盗み見たりされてしまいます。ホームページやデータベースなどのデータを改ざんされたり、破壊されたりする場合もあります。

- 別のコンピュータを攻撃する踏み台にされる

不正にアクセスしたコンピュータに、他のコンピュータなどを攻撃するプログラムを実行させます。コンピュータの正規の利用者が、気づかぬうちに加害者となってしまうこともあります。最悪の場合、損害賠償を請求された例もあるので注意が必要です。

このような被害にあわないようにするために、常に最新のセキュリティ対策をとりましょう。

重要

- ▶ 不正アクセスされていることが判明したワークステーションは、LAN ケーブルを抜く、無線 LAN のスイッチをオフにするなど、すぐにネットワークから切り離してください。被害を拡大させないためにも素早い対応が必要です。

ファイアウォール

ファイアウォールとは外部のネットワークと内部のネットワークの間の壁です。外部からのアクセスをコントロールすることができます。

Windows Vista や Windows XP Professional (SP2) では、「Windows ファイアウォール」が標準で搭載されています。

「Windows ファイアウォール」については、Windows のヘルプをご覧ください。

ネットワーク使用時のデータの暗号化

ネットワーク経由でデータの送受信などを行う場合、保護されていないデータはネットワーク上で情報の漏えいを招く危険性があります。重要なデータは、あらかじめ暗号化などのセキュリティ保護をすることが必要です。

■ IPSec

「IPSec (Internet Protocol Security)」とは、Windows Vista や Windows XP に標準で搭載されている、データを暗号化するための機能の 1 つです。

TCP/IP プロトコルで通信をしている場合に「IPSec」を有効にすると、ソフトウェアに依存せずにデータを暗号化させてネットワークを経由させることができます。

詳しくは、Windows のヘルプをご覧ください。

フィッシング詐欺対策

フィッシング詐欺とは、本物そっくりに作られた偽のホームページや偽のメールなどで利用者を騙し、ID やパスワード、個人情報を盗み取る、オンライン上での詐欺行為のことです。フィッシング詐欺にひっかかるためには、次のような心構えが重要です。

- ウィルスやスパイウェアをウイルス対策ソフトで常に駆除し、侵入を防止する
- 信頼している相手以外から送られたメールに記入されたリンクを、直接クリックしない
- 個人情報など重要なデータを不必要にメールで送信しない
- サーバー証明書などで本物のサイトかどうかチェックをする
- 情報を送信する場合は SSL 暗号化通信であることを確認する

5 不正使用からのセキュリティ

コンピュータを使用する権限のない人が不正にコンピュータを使用して、データを破壊したり漏えいしたりする危険があるため、コンピュータを守ることが必要になっています。

ここでは、本ワークステーションで設定できるパスワードや機能などについて説明しています。

複数のパスワードや機能を組み合わせることによって、コンピュータの安全性も高まります。

※重要

- ▶ ワークステーションの修理が必要な場合は、必ずパスワードなどのセキュリティを解除してください。セキュリティがかかった状態で修理に出した場合は、保証期間にかかる有償となります。
- ▶ パスワードを何かに書き留めときは、第三者に知られないように安全な場所に保管してください。
また、数字だけでなく英数字や記号を入れたり、定期的に変更したりするなど、第三者に推測されないように工夫をしてください。

BIOS のパスワード

ワークステーションの起動時のパスワードを設定できます。BIOS のパスワードには、管理者用のパスワードとユーザー用のパスワードがあります。ユーザー用パスワードで作業を行う場合、ワークステーションの設定が変更できなくなるなどの制限がつきます。

また、ワークステーションのハードディスク自体にパスワードを設定できます。ハードディスクにパスワードを設定しておくと、パスワードを知っている人以外はハードディスクに入っている情報が読み出せなくなります。

詳しくは、「BIOS」－「BIOS のパスワード機能を使う」(→ P.157) をご覧ください。

Windows の管理者権限とユーザー アカウント

Windows では、管理者権限をもったユーザー アカウントを作成できます。管理者は、他のユーザー アカウントのセットアップや管理などを行うことができます。コンピュータを使用するユーザー アカウントと管理者権限をもったアカウントを分ければ、ファイルのアクセス権を管理したり、不正なプログラムのインストールや起動を制限したりできるため、コンピュータの安全性も高まります。

詳しくは、Windows のヘルプをご覧ください。

■ ユーザーアカウント制御（UAC）（Windows Vista）

「ユーザー アカウント 制御（UAC）」とは、許可なくコンピュータの設定が変更されるのを防ぐ Windows Vista のセキュリティ機能です。

「ユーザー アカウント 制御」が有効になつていると、コンピュータの動作に影響する操作や、他のユーザーに影響する設定変更などが実行される前に、許可やパスワードを求めるメッセージが表示されます。この機能により、悪意のあるソフトウェアやスパイウェアなどがインストールされたり、複数のユーザー アカウントが設定されたりしているときに、管理者の許可なくコンピュータが変更されるのを防止して、コンピュータを保護します。

ご購入時は、「ユーザー アカウント 制御」が有効になっています。

詳しくは、Windows のヘルプをご覧ください。

Windows のパスワード

Windows の起動時やレジューム時、スクリーンセーバーからの復帰時のパスワードを設定できます。複数のユーザーで 1 台のコンピュータを使用する場合、使用するユーザーごとにユーザー名とパスワードを設定できます。

パスワードの設定方法については、Windows のヘルプをご覧ください。

アクセス権と暗号化

Windows では、ファイルシステムとして NTFS を使用しています。NTFS では、フォルダやファイルにアクセス権を設定できます。また、Windows Vista Business や Windows XP Professionalをお使いの場合は、フォルダやファイルを暗号化することができます。

- フォルダやファイルへのアクセス権の設定

ユーザーまたはグループごとに権限を設定できるため、権限のないユーザーからのアクセスに対してファイルを保護することができます。

- フォルダやファイルの暗号化（Windows Vista Business、Windows XP Professional の場合）

暗号化しておけば、不正アクセスされたり、不慮の事故や盗難などでハードディスクを紛失したりしても、データの内容を簡単には読み出しへくくなります。

詳しくは、Windows のヘルプをご覧ください。

スマートカードリーダ／ライタ

対象 スマートカードリーダ／ライタ搭載機種

Windows の起動時、ソフトウェアのログオン時にスマートカード認証によるセキュリティを設定できます。スマートカードには ID やパスワードなどのセキュリティ情報を格納します。1 枚のスマートカードに管理者用とユーザー用のパスワードを、1 つずつ設定できます。

ワークステーションを使用する場合は、ワークステーション本体にスマートカードをセットし、PIN（個人認証番号）を入力します。スマートカードをセットしないとセキュリティが解除できないため、従来のパスワード認証よりも安全に使用できます。

詳しくは、『SMARTACCESS ファーストステップガイド（認証デバイスをお使いになる方へ）』をご覧ください。

セキュリティチップ

セキュリティチップは、Windows ログオンのパスワードやファイルを暗号化したときの暗号鍵などの、重要なデータを格納、管理するための特別な IC チップです。暗号鍵などをハードディスクに残さないため、仮にハードディスク自体を盗まれたとしても暗号を解析できないので、情報が漏えいする心配がありません。しかも格納したデータには専用のインターフェースを通してしかアクセスできないため、セキュリティチップを使用することで、ソフトウェアのみで実現されたセキュリティ環境に比べてより強固なセキュリティを提供します。

詳しくは、『SMARTACCESS ファーストステップガイド（認証デバイスをお使いになる方へ）』をご覧ください。

Portshutter

※ 重要

- ▶ 無効に設定したポートは、機器を接続してもお使いになれません。

「Portshutter」を使うことにより、USB ポートや CD/DVD ドライブなどの接続ポートの使用を制限できます。ワークステーションからの情報漏えいやワークステーションへの不正なプログラムの導入を防止することができます。USB ポートを無効にする場合は、USB 機器ごとに有効、無効の設定が可能です。

詳しくは、添付の「ドライバーズディスク & ユーティリティディスク」内のマニュアルをご覧ください。

エグゼキュート・ディスエーブル・ビット機能

エグゼキュート・ディスエーブル・ビット機能とは、不正なメモリ領域を使用して悪意のあるプログラムを実行可能にするバッファ・オーバーフロー脆弱性を防止する機能です。詳しくは、「仕様一覧／技術情報」(→ P.213) をご覧ください。

6 ワークステーションの盗難防止

ワークステーション本体を持ち出しできないようにすることで、盗難や紛失によりデータを盗まれるなどの危険から保護します。

本ワークステーションには、次の機能があります。

- ・ 盗難防止用ロック取り付け穴
- ・ セキュリティ施錠金具

盗難防止用ロック取り付け穴の使用方法

ワークステーション本体の盗難防止用ロック取り付け穴に、盗難防止用ケーブルを取り付けることができます。ケーブルの端を机や柱などに取り付けることで、ワークステーション本体の盗難の危険性が減少します。

盗難防止用ロック取り付け穴の場所については、「各部名称」－「各部の名称と働き」(→P.12)をご覧ください。

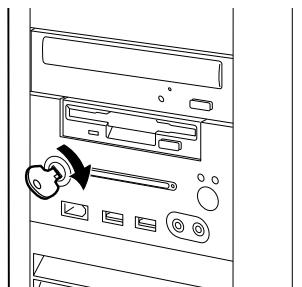
POINT

- ▶ 盗難防止用ケーブルの鍵を紛失した場合は、ご購入元にご連絡ください。

ワークステーション本体前面の施錠方法

対象 CELSIUS N465

ワークステーション本体前面の鍵穴に、添付のサイドカバーキーを差し込み、右に回します。



重要

- ▶ 施錠する場合は、お客様の責任で、サイドカバーキーを紛失しないようにしてください。
- ▶ サイドカバーキーを紛失した場合は、引き取り修理によるサイドカバーの交換が必要となります。「富士通ハードウェア修理相談センター」にご連絡ください。
なお、保証期間にかかるわらず、鍵の紛失によるサイドカバーの交換は有償となります。
- ▶ サイドカバーキーを紛失した場合は、訪問修理のときも即日修理ができません。
- ▶ 引き取り修理になりますので、あらかじめご了承ください。

セキュリティ施錠金具の使用方法

1 本体カバーがきちんと取り付けられていることを確認します。

本体カバーの取り扱い方は、「周辺機器の設置／設定／増設」－「本体カバーを取り外す」(→ P.86) をご覧ください。

POINT

- セキュリティ施錠金具の穴径は、 $\phi 8\text{mm}$ です。

2 セキュリティ施錠金具に、市販の鍵を取り付けます。

セキュリティ施錠金具の位置は、「各部名称」－「ワークステーション本体背面」(→ P.15) をご覧ください。



(イラストは機種や状況により異なります)

POINT

- 市販の鍵を紛失した場合は、ご購入元にご連絡ください。

7 ワークステーション本体の廃棄・譲渡時のご注意

ワークステーションの廃棄・譲渡時のハードディスク上のデータ消去に関するご注意

最近、コンピュータは、オフィスや家庭などで、いろいろな用途に使われるようになってきています。これらのコンピュータに入っているハードディスクという記憶装置には、お客様の重要なデータが記録されています。したがって、ワークステーションを譲渡あるいは廃棄するときには、これらの重要なデータ内容を消去するということが必要となります。

ところが、このハードディスク内に書き込まれたデータを消去するというのは、それほど簡単ではありません。「データを消去する」という場合、一般に

- データを「ごみ箱」に捨てる
- 「削除」操作を行う
- 「ごみ箱を空にする」を使って消す
- ソフトウェアで初期化（フォーマット）する
- ハードディスクをご購入時の状態に戻す

などの作業をするとと思いますが、これらのことをして、ハードディスク内に記録されたデータのファイル管理情報が変更されるだけで、実際にはデータが見えなくなっているだけという状態です。

つまり、一見消去されたように見えますが、WindowsなどのOSからデータを呼び出す処理ができなくなっただけで、本来のデータは残っているのです。したがって、データ回復のための特殊なソフトウェアを利用すれば、これらのデータを読み取ることが可能な場合があります。このため、悪意のある人により、ハードディスク内の重要なデータが読み取られ、予期しない用途に利用されるおそれがあります。

ワークステーションの廃棄・譲渡などを行う場合に、ハードディスク上の重要なデータが流出するというトラブルを回避するために、ハードディスクに記録された全データを、お客様の責任において消去することが非常に重要となります。消去するためには、専用ソフトウェアやサービス（有料）を利用することをお勧めします。

また、廃棄する場合は、ハードディスク上のデータを金槌や強磁気により物理的・磁気的に破壊することをお勧めします。

なお、ハードディスク上のソフトウェア（Windows、ソフトウェアなど）を削除することなくワークステーションを譲渡すると、ソフトウェアライセンス使用許諾契約に抵触する場合があるため、充分な確認を行う必要があります。

ハードディスクデータ消去

本ワークステーションには、ワークステーションの廃棄・譲渡時のデータ流出というトラブルを回避する安全策の1つとして、専用ソフトウェア「ハードディスクデータ消去」が添付されています。「ハードディスクデータ消去」は、WindowsなどのOSによるファイル削除やフォーマットと違い、ハードディスクの全領域について、元あったデータに固定パターンを上書きするため、データが復元されにくくなります。

ただし、「ハードディスクデータ消去」で消去した場合でも、特殊な設備や特殊なソフトウェアの使用によりデータを復元される危険性があります。あらかじめご了承ください。

■ 注意事項

- 本ツールでは、本ワークステーションに搭載されているハードディスクのみを対象としています。このため、外付けのハードディスクのデータを消去することはできません。
- データ消去を実行すると、ハードディスクのリカバリ領域も消去されます。必要があれば「ハードディスクデータ消去」の前にリカバリディスクを作成してください。作成方法は『取扱説明書』をご覧ください。
- 「ドライバーズディスク＆ユーティリティディスク」を起動してから、72時間経過すると、本ワークステーションが自動的に再起動されます。そのため、「ドライバーズディスク＆ユーティリティディスク」を起動してから長時間放置した場合は、再起動してから「ハードディスクデータ消去」を実行してください。
- 必要なデータはバックアップしてください。
- 周辺機器を取り付けている場合は、それらを一度取り外してください。
- データ消去終了まで、数時間かかります。
- データ消去中に電源を切らないでください。ハードディスクが故障する可能性があります。
- データ消去中に「ドライバーズディスク＆ユーティリティディスク」を取り出さないでください。処理を継続できなくなる場合があります。
- CD/DVD ドライブが搭載されていない機種をお使いの場合
本ワークステーションにポータブル CD/DVD ドライブを接続します。
ポータブル CD/DVD ドライブをお使いになる場合は、「スーパーマルチドライブユニット (FMV-NSM52)」または「DVD-ROM&CD-R/RW ドライブユニット (FMV-NCB53)」をお勧めします。

■ データ消去方法

「ドライバーズディスク＆ユーティリティディスク」を用意してください。

- 1 「ドライバーズディスク＆ユーティリティディスク」をセットします。**
- 2 本ワークステーションを再起動します。**
- 3 「FUJITSU」ロゴが表示されている間に、【F12】キーを押します。**
起動メニューが表示されます。表示されない場合は、すぐに【Ctrl】+【Alt】+【Delete】キーを押して本ワークステーションを再起動してください。

POINT

- ▶ ディスプレイの種類によっては画面の表示が遅く、「FUJITSU」ロゴの表示が確認できない場合があります。
その場合は、本ワークステーションの再起動後に【F12】キーを数回押してください。
- ▶ 「起動メニュー」が表示されない場合は、本ワークステーションを再起動してもう一度操作してください。

- 4 「CD/DVD ドライブ」を選択し、【Enter】キーを押します。
「トラブル解決ナビ」ウィンドウまたは「使用許諾」ウィンドウが表示されます。
- 5 「ユーティリティ」タブをクリックし、「ハードディスクデータ消去」を選択し、「実行」をクリックします。
「ハードディスクデータ消去」ウィンドウが表示されます。
- 6 注意事項をよく読み、「同意します」にチェックを付け、「次へ」をクリックします。
「データを消去するハードディスクを選択してください。」と表示されます。
- 7 次の項目にチェックを付け、「次へ」をクリックします。
 - ハードディスクが1つ搭載されている場合
「第1ハードディスク」にチェックを付けます。
 - ハードディスクが2つ以上搭載されている場合
 - ・ Windowsがインストールされているハードディスクのみを消去したい場合
「第1ハードディスク」にチェックを付けます。
 - ・ すべてのハードディスクを消去したい場合
「全てのハードディスク」にチェックを付けます。
「ハードディスクを消去する方式を選択してください。」と表示されます。
- 8 消去する方式を選択し、「次へ」をクリックします。
「以下の説明をお読みになり、エラー発生時の処理を選択してください。」と表示されます。
- 9 エラー発生時の処理方法を選択し、「次へ」をクリックします。
「以下の条件で、データの消去を開始します。よろしければ〔開始〕ボタンをクリックしてください。」と表示されます。
- 10 「開始」をクリックします。
「ハードディスクデータ消去を実行します。よろしいですか？」と表示されます。
- 11 「OK」をクリックします。
しばらくすると、「電源ボタンを4秒以上押し続けて電源を切ってください。」と表示されます。
- 12 「ドライバーズディスク＆ユーティリティディスク」を取り出します。
- 13 電源ボタンを4秒以上押して、電源を切ります。

ハードディスクのデータ消去サービス

弊社では、法人・企業のお客様向けに、専門スタッフがお客様のもとへお伺いし、短時間でデータを消去する、「データ消去サービス」をご用意しております。

消去方法は、専用ソフトウェアによる「ソフト消去」と、消磁装置による「ハード消去」があります。

ソフト消去	専用ソフトウェアを使って、ハードディスクに対して 2 回上書き（ランダムデータ + 0 データ）することにより残存するデータを完全に消去します。DoD や NSA など海外の各種消去規格にも対応可能です。
ハード消去	消磁装置を使用してハードディスクを磁気的に破壊します。 (最大磁力 : 1.3 テスラ)

消去作業完了報告書として作業実施日、消去済み機器一覧、並びに消去方法を記載したものを納品物として提出します。

詳しくは、「データ消去サービス」(http://fenics.fujitsu.com/outsourcingservice/lcm/h_elimination/)をご覧ください。

8 データのバックアップ

大切なデータは予備を保存しておくことをお勧めします。

バックアップの必要性

次のような状態になると、保存したデータが失われ、回復することはできません。

- ワークステーション本体やハードディスクの盗難、紛失
- ハードディスクの破損
- コンピュータウイルス感染によるファイルやワークステーションの破損
- ファイルの破損や誤消去
- リカバリ

トラブル防止のための対策は「これで完全」というものではなく、いつこのような状態になるかはわかりません。被害を最小限にとどめるためにも、日ごろから定期的にバックアップをとる必要があります。

バックアップ方法

必要なデータはCDやDVDなどの媒体や、バックアップ装置を備えたファイルサーバーなどに定期的にバックアップしてください。

■ Easy Backup

本ワークステーションには、簡単な操作でまとめてバックアップできるソフトウェア「Easy Backup」が添付されています。必要に応じてお使いください。「Easy Backup」のインストール方法については、「ソフトウェア」 - 「インストール」(→ P.131) に手順がありますのでご覧ください。

第5章

ソフトウェア

本ワークステーションに添付されているソフトウェアの概要や、インストール、アンインストール方法を説明しています。

1 ソフトウェアの紹介	124
2 インストール	131
3 アンインストール	134

1 ソフトウェアの紹介

ここでは、本ワークステーションにプレインストール、または添付されているソフトウェアの概要と、ご購入時の提供形態を説明しています。

ソフトウェアは「ドライバーズディスク & ユーティリティディスク」などに格納して添付されています。

プレインストールされているソフトウェアも、削除してしまったり、データやファイルが破損したりした場合に備えて再インストールできるように添付されています。どのディスクに格納されているかは次ページ以降の一覧表でご確認ください。

その他の情報については次の項目をご覧ください。

- ソフトウェアの使い方
ヘルプまたは「Readme.txt」などの説明ファイルをご覧ください。
- インストール方法
「インストール」(→ P.131) をご覧ください。
- カスタムメイドのソフトウェアおよび一部のソフトウェア
選択したカスタムメイドの内容によっては、この他にソフトウェアが提供されることもあります。カスタムメイドのソフトウェアおよび一部のソフトウェアについては、機能別のマニュアルをご覧ください。

セキュリティ関連のソフトウェア

セキュリティ関連のソフトウェアは、「ドライバーズディスク & ユーティリティディスク」に格納されています。「i- フィルター」のみハードディスクに格納されています。

VB32 : Windows Vista Business (32 ビット版)

VB64 : Windows Vista Business (64 ビット版) (N465 のみ)

XP32 : Windows Windows XP Professional

XP64 : Windows XP Professional x64 Edition (N465 のみ)

「△」: 添付のみ、「◇」: ハードディスク格納、「-」: サポートしない OS

名称	概要	VB 32	VB 64	XP 32	XP 64
i- フィルター	インターネット上の有害なコンテンツをブロックするソフトウェアです。有害サイトへアクセスしようとすると、自動的に表示できない主旨のメッセージ画面が表示されます。 ・「i- フィルター」の利用期間は、初回起動時から90 日間です。利用期間が経過すると、フィルター機能は利用できなくなります。継続して利用する場合は、オンラインにてユーザー登録、シリアル ID の購入が必要です。	◇	◇	◇	-
Norton AntiVirus	コンピュータウイルスを検出・駆除します。 詳しくは、「セキュリティ」 - 「コンピュータウイルス対策」(→ P.103) をご覧ください。 ユーザー登録をすると「シマンテックテクニカルサポートセンター」をご利用になれます。 詳しくは、「トラブルシューティング」 - 「お問い合わせ先」(→ P.211) をご覧ください。	△	△	△	-
Portshutter	USB ポートや CD/DVD ドライブなどの接続ポートを無効にします。不要な機器を接続させないにより、情報漏えいを防止できます。	△	-	△	-
SMARTACCESS/ Basic	対象 セキュリティチップ搭載機種、スマートカードリーダ／ライタ搭載機種 セキュリティチップ、スマートカードを使用するためのソフトウェアです。	△	-	△	-
ハードディスク データ消去	ハードディスク内のデータを消去します。 詳しくは、「セキュリティ」 - 「ハードディスクデータ消去」(→ P.119) をご覧ください。	△	△	△	△

サポート関連のソフトウェア

サポート関連のソフトウェアは、「ドライバーズディスク & ユーティリティディスク」に格納されています。

VB32 : Windows Vista Business (32 ビット版)

VB64 : Windows Vista Business (64 ビット版) (N465 のみ)

XP32 : Windows Windows XP Professional

XP64 : Windows XP Professional x64 Edition (N465 のみ)

「○」: プレインストール、「△」: 添付のみ、「-」: サポートしない OS

名称	概要	VB 32	VB 64	XP 32	XP 64
PC 乗換ガイド	今までお使いになっていたパソコンおよびワークステーションから、現在お使いのワークステーションへ必要なデータを移行することができます。 ・「PC 乗換ガイド」では移行できないデータもあります。	△	-	△	-
R2 Manager	対象 SATA-RAID を選択した機種 Windows 上でディスクアレイの状態監視やメンテナンスなどを行うための SATA-RAID 管理ユーティリティです。 詳しくは、『SATA-RAID をお使いの方へ』をご覧ください。	○	○	○	-
UpdateAdvisor (本体装置)	お使いのワークステーションのドライバ、添付ソフトウェアの最新版が、弊社インターネットに公開されているか調査し、適用することができます。また、「UpdateAdvisor (本体装置) 情報収集」を利用してお使いのワークステーションの動作環境情報を収集できます。 ・「UpdateAdvisor (本体装置) 情報収集」は、弊社サポートより依頼があった場合にのみお使いください。	○	○	○	○

ユーティリティ

ユーティリティは、「ドライバーズディスク & ユーティリティディスク」に格納されています。

VB32 : Windows Vista Business (32 ビット版)

VB64 : Windows Vista Business (64 ビット版) (N465 のみ)

XP32 : Windows Windows XP Professional

XP64 : Windows XP Professional x64 Edition (N465 のみ)

「○」: プレインストール、「△」: 添付のみ、「-」: サポートしない OS

名称	概要	VB 32	VB 64	XP 32	XP 64
Easy Backup	お客様が作成したファイルなどを簡単な操作でまとめてバックアップできます。	△	-	△	-
FM-Menu	ボタン式メニューから簡単にソフトウェアを起動できます。	-	-	△	-
FM キーガード	特定のキー入力を抑止する機能と、プログラムメニューに表示するメニューの抑止機能を追加します。	-	-	△	-
富士通拡張機能 ユーティリティ	ハードウェア拡張機能をサポートします。	○	-	○	-
富士通モニタ ユーティリティ	富士通モニタユーティリティに対応したディスプレイを接続し、プライマリモニタに設定した場合に使用できます。ソフトウェアごとに画質モードを登録し、そのソフトウェアを起動すると自動的に登録された画質モードに切り替えたり、ディスプレイのボタンを使わずに画質や表示サイズなど設定したりすることができます。 詳しくは、ディスプレイのマニュアルをご覧ください。	△	△	△	△
ゆったり設定 2	ワークステーションをより使いやすくするために、マウスポインタの動く速度、文字やアイコンの大きさ、ダウングレードサービスモデルの音量などの設定を簡単に変更できます。	△	-	△	-
らくらくズーム	ワークステーションの画面上の文字が小さくて見にくいときに、画面の一部分を拡大して見やすく表示します。拡大中も、通常通りワークステーションを操作できます。	△	-	-	-

ビューア

ビューアは、「ドライバーズディスク & ユーティリティディスク」に格納されています。

VB32 : Windows Vista Business (32 ビット版)
VB64 : Windows Vista Business (64 ビット版) (N465 のみ)
XP32 : Windows XP Professional
XP64 : Windows XP Professional x64 Edition (N465 のみ)
「○」: プレインストール、「-」: サポートしない OS

名称	概要	VB 32	VB 64	XP 32	XP 64
Adobe Reader	PDF (Portable Document Format) ファイルを表示、閲覧、印刷できます。	○	-	○	-

CD/DVD 関連のソフトウェア

各ソフトウェアは、次のディスクに格納されています。

- DVD-RAM ドライバーソフト

「CD-ROM (InterVideo WinDVD® for FUJITSU, DVD MULTI ドライブ専用 ドライバーソフト)」

- Roxio Creator

「ドライバーズディスク & ユーティリティディスク」

- WinDVD

「CD-ROM (InterVideo WinDVD® for FUJITSU)」

「CD-ROM (InterVideo WinDVD® for FUJITSU, DVD MULTI ドライブ専用 ドライバーソフト)」

VB32 : Windows Vista Business (32 ビット版)

VB64 : Windows Vista Business (64 ビット版) (N465 のみ)

XP32 : Windows XP Professional

XP64 : Windows XP Professional x64 Edition (N465 のみ)

「○」: プレインストール、「△」: 添付のみ、「-」: サポートしない OS

名称	概要	VB 32	VB 64	XP 32	XP 64
DVD-RAM ドライバーソフト	対象 スーパーマルチ ドライブ搭載機種 ハードディスクとほぼ同様の操作で、データ書き込みを可能にするDVD-RAMを使うことができます。DVD-RAMの保存形式は、FAT形式(FAT32)またはUDF形式(UDF1.5およびUDF2.0)を選択することができます。 ただし、パケットライト機能を使用することはできません。	-	-	△	△

VB32 : Windows Vista Business (32 ビット版)
 VB64 : Windows Vista Business (64 ビット版) (N465 のみ)
 XP32 : Windows XP Professional
 XP64 : Windows XP Professional x64 Edition (N465 のみ)
 「○」: プレインストール、「△」: 添付のみ、「-」: サポートしない OS

名称	概要	VB 32	VB 64	XP 32	XP 64
Roxio Creator	<p>ワークステーションのデータや音楽、映像データを CD や DVD に保存できます。</p> <p>使用方法については、ソフトウェア内のヘルプをご覧ください。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「スーパーマルチドライブユニット (FMV-NSM52)」または「DVD-ROM&CD-R/RW ドライブユニット (FMV-NCB53)」をお使いになる場合は、製品に添付されたソフトウェアをインストールせずに、本ワークステーションにプレインストールされた「Roxio Creator」をお使いください。 DVD+R DL にデータ書き込みを行う場合、DVD-ROM との互換性を高めるために「Extended Partial Lead-out」(約 512MB) が書き込まれます。このため、最大書き込み容量は約 7.99GB となります。 パケットライトの書き込みには対応しておりません。 	○	○	○	○
WinDVD	<p>対象</p> <p>DVD-ROM ドライブ搭載機種、スーパーマルチドライブ搭載機種</p> <p>映画や音楽などの DVD を再生できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「WinDVD」の更新 2009 年 11 月下旬から、FMWORLD のドライバダウンロードページ (http://www.fmworld.net/biz/fmv/index_down.html) で公開される「WinDVD」の更新プログラムをダウンロードして適用することで、DisplayPort からの出力、および Windows XP Professional x64 Edition での再生が可能となります。 	△	△	△	-

Office 製品

カスタムメイドで選択したソフトウェアをご覧ください。ご購入時にプレインストールしている Office 製品は SP1 (Service Pack 1) が適用されています。

ご購入時はプレインストールされていますが、リカバリを実行した場合には戻りません。手動でインストールする必要があります。

- VB32 : Windows Vista Business (32 ビット版)
VB64 : Windows Vista Business (64 ビット版) (N465 のみ)
XP32 : Windows XP Professional
XP64 : Windows XP Professional x64 Edition (N465 のみ)
「○」: プレインストール、「-」: サポートしない OS

名称	概要	VB 32	VB 64	XP 32	XP 64
Office Personal 2007 (SP1)	文書作成、表計算、メールなどのソフトウェアが含まれています。	○	-	○	-
Office Personal 2007 with PowerPoint 2007 (SP1)	文書作成、表計算、プレゼンテーション資料作成、メールなどのソフトウェアが含まれています。	○	-	○	-

2 インストール

インストール方法はお使いになるソフトウェアにより異なります。

データの格納されたフォルダ内にある「Readme.txt」などの説明ファイルや、機能別マニュアルやソフトウェアに添付のマニュアルなどを必ずご確認のうえ、手順に従ってインストールしてください。

ソフトウェアのインストールには CD/DVD ドライブが必要です（「i- フィルター」を除く）。CD/DVD ドライブが搭載されていない機種をお使いの場合は、ポータブル CD/DVD ドライブを接続してください。

ポータブル CD/DVD ドライブをお使いになる場合は、「スーパーマルチドライブユニット（FMV-NSM52）」または「DVD-ROM&CD-R/RW ドライブユニット（FMV-NCB53）」をお勧めします。

◀ 重要

- ▶ 誤ったドライバをインストールした場合、本ワークステーションが正しく動作しなくなり、リカバリが必要となることがありますので、必ず OS や機種名を選択し、正しいドライバを使用してください。
- ▶ すでにインストールされているドライバについては、特に問題がない限りインストールしないでください。

5

「ドライバーズディスク検索ツール」からのインストール

次のディスクに格納されているソフトウェアまたはドライバは、「ドライバーズディスク検索ツール」を使って、データの格納されたフォルダを表示することができます。

- ドライバーズディスク & ユーティリティディスク（「SMARTACCESS/Basic」を除く）
- CD-ROM（InterVideo WinDVD® for FUJITSU）
- CD-ROM（InterVideo WinDVD® for FUJITSU, DVD MULTI ドライブ専用ドライバーソフト）

1 管理者権限をもったユーザーとして Windows にログオンします。

2 ディスクをセットします。

「ドライバーズディスク検索ツール」が起動します。

POINT

- ▶ Windows Vista で、「自動再生」ウィンドウが表示された場合は、「DRVCDSRC.exe の実行」をクリックしてください。
- ▶ Windows XP で、「Windows が実行する動作を選んでください」と表示されたら、「自動再生」をクリックしてください。

- ▶ 「ドライバーズディスク検索ツール」が起動しない場合は、次のように操作してください。
 1. 「スタート」ボタン→「コンピュータ」または「マイコンピュータ」の順にクリックします。
 2. ディスクをセットしたドライブのアイコンを右クリックし、表示されたメニューから「自動再生」をクリックします。
- ▶ 「CD-ROM (InterVideo WinDVD® for FUJITSU)」または「CD-ROM (InterVideo WinDVD® for FUJITSU, DVD MULTI ドライブ専用ドライバーソフト)」では「ディスク検索」と表示されます。

3 「ソフトウェアの検索条件」で機種名が選択できる場合は、お使いの機種名を選択します。

4 「ソフトウェアの検索条件」でお使いのOSを選択します。

5 「一覧」から、インストールするソフトウェアを選択します。

●DVD-RAM ドライバーソフト

「DVDMulti ドライブ専用ドライバーソフト」を選択します。

6 「フォルダを開く」をクリックします。

インストールするソフトウェアのフォルダが表示されます。

7 表示されたフォルダ内の「Readme.txt」などの説明ファイルをご覧になり、インストールを行ってください。

次のソフトウェアはインストール方法が異なります。

●Adobe Reader

「AdobeRdr901_ja_JP.exe」アイコンをダブルクリックし、表示された画面の指示に従ってください。

 **POINT**

- ▶ インストール中、「読み取り専用ファイルの検出」ウィンドウが表示された場合、「はい」をクリックして操作を進めてください。
- ▶ インストール後、再起動時にメッセージが表示される場合があります。動作上問題ありませんので、そのままお使いください。

●DVD-RAM ドライバーソフト

「Setup.exe」アイコンをダブルクリックし、表示された画面の指示に従ってください。

●Norton AntiVirus

「Setup.exe」アイコンをダブルクリックし、表示された画面の指示に従ってください。

●Portshutter

「Manual」フォルダにある「操作マニュアル.pdf」をご覧ください。

●Roxio Creator

「Setup.exe」アイコンをダブルクリックし、表示された画面の指示に従ってください。

●WinDVD

表示されたフォルダ内の「DVDradme.txt」をご覧ください。

●ゆったり設定 (Windows XP の場合)

「program files」フォルダ→「Fujitsu」フォルダ→「eSet」フォルダ→「Readme.txt」をご覧ください。

「i- フィルター」のインストール

C ドライブに格納されています。インストール方法は「Readme.txt」をご覧ください。

1 次の操作を行います。

● Windows Vista の場合

「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「アクセサリ」→「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。

● Windows XP の場合

「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。

2 「名前」に次のように入力し、「OK」をクリックします。

C:\fjuty\i-filter\readme.txt

「Readme.txt」が表示されます。

「SMARTACCESS/Basic」のインストール

「SMARTACCESS/Basic」は「ドライバーズディスク & ユーティリティディスク」に格納されていますが、インストールの方法や順番が、他のソフトウェアとは異なります。

「SMARTACCESS/Basic」のインストール方法については、『SMARTACCESS ファーストステップガイド（認証デバイスをお使いになる方へ）』をご覧ください。

5

Office 製品のインストール

次のソフトウェアのインストール方法については、ソフトウェアに添付のマニュアルをご覧ください。

- Office Personal 2007 (SP1)
- Office Personal 2007 with PowerPoint 2007 (SP1)

インストール後は「Microsoft Update」を利用するなどして、ソフトウェアを最新の状態に更新してください (→ P.107)。

3 アンインストール

注意事項

ソフトウェアをアンインストールする場合は、次の点に注意してください。

- ソフトウェアをすべて終了してからアンインストールを始める
- DLL ファイルは削除しない

アンインストール時に次のようなメッセージが表示されることがあります。

「この DLL は複数のソフトウェアで使用されている可能性があります。削除を行いますか」

この DLL ファイルを削除すると、他のソフトウェアが正常に動作しなくなることがあります。ソフトウェアのマニュアル、ヘルプ、または「Readme.txt」などの説明ファイルで、特に指示がない場合は DLL ファイルは削除しないことをお勧めします。

アンインストール方法

一般的に、次の方法があります。

- アンインストール機能を使用する
ソフトウェアにアンインストール機能が用意されている場合があります。
- 「プログラムのアンインストールまたは変更」機能を使用する（Windows Vista の場合）
「コントロールパネル」ウィンドウ「プログラム」－「プログラムと機能」－「プログラムのアンインストールまたは変更」機能を使用して、ソフトウェアを削除できます。
- 「プログラムの追加と削除」機能を使用する（Windows XP の場合）
「コントロールパネル」ウィンドウの「プログラムの追加と削除」機能を使用して、ソフトウェアを削除できます。

アンインストール方法はソフトウェアによって異なります。詳しくは各ソフトウェアのマニュアル、ヘルプ、または「Readme.txt」などの説明ファイルをご覧ください。

第 6 章

BIOS

BIOS セットアップについて説明しています。

1 BIOS セットアップ	136
2 BIOS セットアップの操作のしかた	137
3 メニュー詳細	141
4 BIOS のパスワード機能を使う	157
5 認証デバイスのセキュリティ機能を使う	161
6 BIOS イベントログに記録されるエラーメッセージ一覧	162

1 BIOS セットアップ

BIOS セットアップは、メモリやハードディスク、フロッピーディスク ドライブなどのハードウェアの環境を設定するためのプログラムです。

本ワークステーションご購入時には、必要最小限のことは設定されています。次の場合に設定の変更が必要になります。

- ・特定の人だけが本ワークステーションを利用できるように、本ワークステーションにパスワード（暗証番号）を設定するとき
- ・リソースの設定を変更するとき
- ・起動時の自己診断（POST）に BIOS セットアップをうながすメッセージが表示されたとき

POINT

- ▶ BIOS セットアップで設定した内容は、ワークステーション本体内部の CMOS RAM と呼ばれるメモリに記録されます。この CMOS RAM は、記録した内容をバッテリによって保存しています。
BIOS セットアップを正しく設定しても、電源を入れたとき、または再起動したときに、BIOS セットアップに関するエラーメッセージが表示されることがあります。このような場合は、バッテリが消耗し、CMOS RAM に設定内容が保存されていない可能性が考えられますので、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。
- ▶ 起動時の自己診断（POST）
本ワークステーションの電源を入れたときや再起動したときに、ハードウェアの動作に異常がないかどうか、どのような周辺機器が接続されているかなどを自動的に調べます。これを「起動時の自己診断」（POST：Power On Self Test）といいます。
- ▶ 起動時の自己診断中に、電源を切らないでください。

2 BIOS セットアップの操作のしかた

ここでは、BIOS セットアップ画面を表示させる方法について説明しています。

BIOS セットアップを起動する

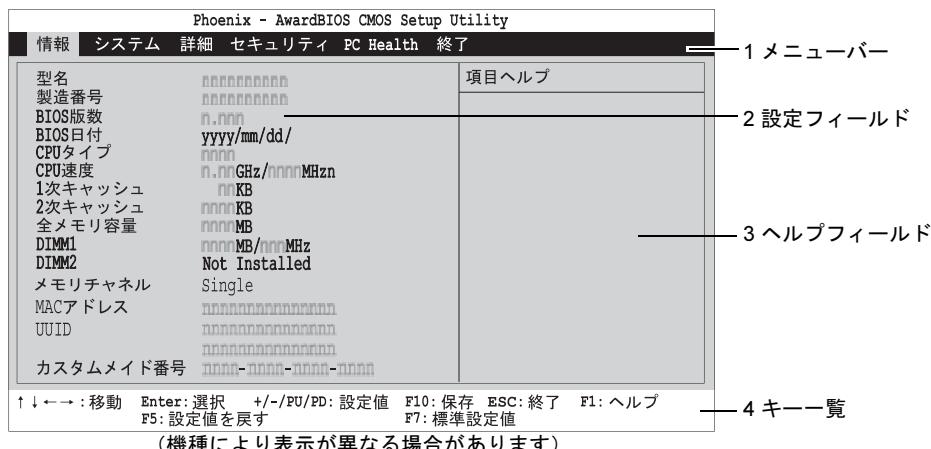
- 1 本ワークステーションの電源を入れる、または再起動します。
- 2 「FUJITSU」のロゴが表示されている間に【F2】キーを押します。
パスワードを設定している場合は、パスワードを入力して【Enter】キーを押してください（→ P.159）。BIOS セットアップ画面が表示されます。

POINT

- ディスプレイの種類によっては画面表示が遅く、「FUJITSU」ロゴの表示が確認できない場合があります。
その場合は、本ワークステーションの電源を入れたとき、または再起動したときに、キーボードのインジケータが一瞬点灯した後、【F2】キーを数回押してください。
また、BIOS セットアップの「詳細」メニューー「詳細設定」ー「高速起動」を「使用しない」に設定することで、「FUJITSU」ロゴを表示できるようになるディスプレイもあります。

BIOS セットアップ画面

BIOS セットアップ画面の各部の名称と役割は、次のとおりです。



1. メニューバー

メニューの名称が表示されます。

2. 設定フィールド

各メニューで設定する、項目と設定値が表示されます。

3. ヘルプフィールド

カーソルを合わせた項目の説明が表示されます。

4. キー一覧

設定時に使うキーの一覧です。

各キーの役割

BIOS セットアップで使うキーの役割は次のとおりです。

キー	役割
【F1】キー	BIOS セットアップで使用するキーについて説明しているヘルプ画面が表示されます。 閉じる場合は、【Esc】キーを押します。
【F3】キー	BIOS セットアップで表示する言語を切り替えます。
【F5】キー	表示されているメニューのみ変更前の設定値が読み込まれます。
【F7】キー	表示されているメニューの設定のみ標準設定値が読み込まれます。
【F10】キー	変更した設定値を保存して、BIOS セットアップを終了します。
【F11】キー	記録されているイベントログが表示されます。
【Esc】キー	「終了」メニューが表示されます。サブメニューが表示されている場合は、1つ前の画面が表示されます。
【Enter】キー	次のことを行います。 ・▶が表示されている項目では、サブメニューを表示します。 ・設定値にカーソルを合わせて【Enter】キーを押すと、設定値の一覧が表示され、設定値を選択できます。 ・時刻や日付の設定時に時、分、秒または年、月、日の間でカーソルを移動します。
【←】【→】キー	メニューバーからメニューを選択します。
【↑】【↓】キー	設定する項目にカーソルを移動します。
【PageUp】【PageDown】	各項目の設定値を変更します。
【+】【-】キー	
【Tab】キー	時刻や日付の設定時に時、分、秒または年、月、日の間でカーソルを移動します。

設定値を変更する

BIOS セットアップは、キーボードを使ってすべての操作を行います。

重要

- ▶ BIOS セットアップは正確に設定してください。
設定を間違えると、本ワークステーションが起動できなくなったり、正常に動作しなくなったりすることがあります。
このような場合には、変更した設定値を元に戻すか、ご購入時の設定に戻して本ワークステーションを再起動してください。

- 1 【←】キーまたは【→】キーを押して、設定を変更したいメニューにカーソルを合わせます。
- 2 【↑】キーまたは【↓】キーを押して、設定を変更したい項目にカーソルを合わせます。
 - ▶ の付いている項目はサブメニューがあることを表します。
 - ▶ の付いている項目にカーソルを合わせ、【Enter】キーを押すと、サブメニューが表示されます。
- 3 【PageUp】キー、【PageDown】キー、【+】キーまたは【-】キーを押して、設定を変更します。
さらに他のメニューの設定を変更したいときは、手順 1 から繰り返します。
サブメニューを表示していた場合は、【Esc】キーを押すと 1 つ前の画面に戻ります。

POINT

- ▶ 設定値を変更する場合は、変更した設定項目をメモしておいてください。

- 4 設定を保存して終了します。
終了する手順については、「BIOS セットアップを終了する」(→ P.140) をご覧ください。

BIOS セットアップを終了する

次の操作を行い、BIOS セットアップを終了してください。

- 1 【Esc】キーを押します。
「終了」メニューが表示されます。サブメニューが表示されている場合は、「終了」メニューが表示されるまで【Esc】キーを2～3回押してください。
- 2 【↑】キーまたは【↓】キーを押して終了方法を選択し、【Enter】キーを押します。
 - 変更を保存したい場合
 - ・「変更を保存して終了する」(再起動)
BIOS セットアップ終了後に Windows が起動します。
 - ・「変更を保存して電源を切る」(電源 OFF)
BIOS セットアップ終了後にワークステーションの電源が切れます。
 - 設定を変更しないで終了する場合
 - ・「変更を保存せずに終了する」(起動)
BIOS セットアップ後に Windows が起動します。
- 3 【←】キーまたは【→】キーを押して「はい」にカーソルを合わせ、【Enter】キーを押します。
BIOS セットアップが終了します。
BIOS セットアップ終了後のワークステーション動作は、手順2で選択した終了方法によって異なります。

起動メニューを使用する

どのデバイスから起動するかを選択します。

- 1 本ワークステーションの電源を入れる、または再起動します。
- 2 「FUJITSU」のロゴが表示されている間に【F12】キーを押します。
起動メニュー画面が表示されます。
- 3 【↑】キーまたは【↓】キーを押して起動するデバイスを選択し、【Enter】キーを押します。
選択したデバイスから本ワークステーションが起動します。
選択されたデバイスが接続されていない場合は、次のデバイスから起動します。

POINT

- ▶ 「CD/DVD」または「USB-CDROM」を選択する場合、CD/DVD ドライブのデータの読み出しが停止していることを確認してから【Enter】キーを押してください。
CD/DVD ドライブのデータの読み出し中に【Enter】キーを押すと、CD/DVD ドライブから正常に起動できません。
- ▶ 起動メニューを終了する場合は、【Esc】キーを押してください。

3 メニュー詳細

ここでは、BIOS セットアップの個々のメニューを説明しています。

■ 重要

- ▶ BIOS セットアップの仕様は、改善のために予告なく変更することがあります。あらかじめご了承ください。最新の BIOS 情報は、富士通製品情報ページ (<http://www.fmworld.net/biz/celsius/>) をご覧ください。

■ POINT

- 管理者用パスワードとユーザー用パスワードの両方が設定されている場合、ユーザー用パスワードで BIOS セットアップに入ると、設定値がグレーで表示される項目があります。グレー表示される項目は、ユーザー用パスワードでは変更できません。

情報メニュー

情報メニューには、BIOS セットアップやワークステーション本体についての情報が表示されます。設定の変更はできません。

■ 設定項目の詳細

□ 型名

本ワークステーションの型名が表示されます。

□ 製造番号

本ワークステーションの製造番号が表示されます。

□ BIOS 版数

BIOS のバージョンが表示されます。

「1.00」と表示されている場合、BIOS のバージョンは「Version 1.00」です。

□ BIOS 日付

BIOS の日付が表示されます。

□ CPU タイプ

本ワークステーションに搭載されている CPU の種類が表示されます。

□ CPU 速度

本ワークステーションに搭載されている動作クロック数が表示されます。

□ 1次キャッシュ

CPU コアあたりの 1 次キャッシュメモリの容量が表示されます。

□ 2次キャッシュ

CPU コアあたりの 2 次キャッシュメモリの容量が表示されます。

□ 全メモリ容量

本ワークステーションに搭載されているメインメモリ (RAM) の合計容量が表示されます。



- ▶ 表示される合計容量は実際に搭載されている合計量より 1MB 少なく表示されます。

□ DIMM1/2

メモリスロットに取り付けられているメモリの容量を検出して表示します。

メモリが取り付けられていない場合は「Not Installed」と表示されます。

□ メモリチャネル

メインメモリの動作モードが表示されます。

- ・ Single : シングルモードで動作しています。
- ・ Dual/Interleaved : デュアルモードで動作しています。

□ MAC アドレス

本ワークステーションに内蔵されている LAN の MAC アドレスが表示されます。

「詳細」メニューー「内蔵デバイス設定」—「LAN コントローラ」の順に選択します。

表示された項目から「使用しない」に設定した場合は、「N/A」と表示されます。

□ UUID

本ワークステーションの UUID が表示されます。

□ カスタムメイド番号

本ワークステーションのカスタムメイド (BTO) 番号が表示されます。

システムメニュー

システムメニューでは、デバイスや日時の設定などを行います。

■ 設定項目の詳細

□ システム日付

年月日を設定します。日付は「年、月、日、曜日」の形式で表示されます。変更する場合は、キーボードから数値を入力します。【Tab】キー、【Enter】キーで右の項目に移動します。

□ システム時刻

24時間制で時刻を設定します。時刻は「時：分：秒」の形式で表示されます。変更する場合は、キーボードから数値を入力します。【Tab】キー、【Enter】キーで右の項目に移動します。

POINT

- ▶ 「システム日付」、「システム時刻」は一度合わせれば電源を入れるたびに設定する必要はありません。
- ▶ 入力した数値を修正するときは、【Back Space】キーを押して設定値を消し、その後入力してください。

□ IDE Channel 0/1 Master

サブメニューを使って、シリアル ATA コネクタに取り付けたハードディスクの、タイプ（容量やシリンドラ数など）を設定します。カーソルを合わせて【Enter】キーを押すと、サブメニューが表示されます。

POINT

- ▶ ご購入時の状態では、各 IDE チャンネルと接続される IDE デバイスとの対応は次のとおりです。
 - ・ IDE Channel 0 Master : シリアル ATA コネクタ 0
 - ・ IDE Channel 1 Master : シリアル ATA コネクタ 1
- ▶ 通常は初期値から変更しないでください。
- ▶ ハードディスクをフォーマットした後に「IDE Channel 0/1 Master」の各項目の設定を変更すると、正常にアクセスできない場合があります。フォーマットした後は、変更しないでください。

● 自動検出

【Enter】キーを押すと、ハードディスクのサイズやヘッド数などを自動的に検出します。

● IDE Channel 0/1 Master

IDE デバイスのタイプを設定します。

- ・なし : IDE デバイスを使わない場合に選択します。
- ・自動（初期値）: IDE デバイスのタイプを自動的に設定します。
- ・手動 : IDE デバイスのタイプを設定します。

● アクセスマード

シリアル ATA コネクタにハードディスクが取り付けられている場合に、ハードディスクのアクセスマードを設定します。

- CHS : CHS (Cylinder/Head/Sector : シリンダ番号／ヘッド番号／セクタ番号) によるアクセスが行われます。
- LBA (初期値、IDE Channel 0 Master の場合) : LBA (Logical Block Addressing : 論理的な通し番号によるアクセス) が行われます。
- Large : 拡張 CHS (Cylinder/Head/Sector) 変換によるアクセスが行われます。
- 自動 (初期値、IDE Channel 1 Master の場合) : 最適なモードが設定されます。

● 容量

シリアル ATA コネクタにハードディスクが取り付けられている場合に、ハードディスクドライブの最大容量を表示します。

POINT

- ▶ 本項目のディスク容量記載は、1MB=1024²byte 換算によるものです。

● シリンダ数

ハードディスクのシリンダ数を設定します。

「IDE Channel 0/1 Master」を「自動」に設定すると、最適な値が設定されます。

● ヘッド数

ハードディスクのヘッド数を設定します。

「IDE Channel 0/1 Master」を「自動」に設定すると、最適な値が設定されます。

● 仮書き込みシリンダ

ハードディスクへデータを書き込んでいるときにデータの保護を行うためにBIOSがシリンダのどこへ仮書き込みを行うかを設定します。

「IDE Channel 0/1 Master」を「自動」に設定すると、最適な値が設定されます。

● ヘッド退避シリンダ

システムの電源が切断されたときに、ハードディスクのヘッドをどこのシリンダに退避させるかを設定します。

「IDE Channel 0/1 Master」を「自動」に設定すると、最適な値が設定されます。

● セクタ数

ハードディスクのセクタ数を設定します。

「IDE Channel 0/1 Master」を「自動」に設定すると、最適な値が設定されます。

□ 言語

BIOS セットアップで表示する言語を設定します。

- English : 英語で表示します。
- 日本語 (初期値) : 日本語で表示します。

POINT

- ▶ ご購入時は、「日本語」に設定されています。本設定は、「終了」メニューの「標準設定値を読み込む」を実行しても、本ワークステーションご購入時の状態には戻りません。必要に応じて変更してください。

詳細メニュー

詳細メニューでは、周辺機器などに関する設定を行います。

詳細メニューには、次のサブメニューがあります。

- 詳細設定
- 内蔵デバイス設定
- 電源管理設定

■ 設定項目の詳細

□ 詳細設定

サブメニューを使って、起動に関する設定を行います。

● ハードディスク起動順位

システムを起動するハードディスク（内蔵ハードディスクまたは拡張カードに接続したハードディスク）の順位を設定します。

本項目にカーソルを合わせて【Enter】キーを押し、【↑】キーまたは【↓】キーを使って順位を変更したいハードディスクを選択後、【+】キーを押すと上側に、【-】キーを押すと下側にそれぞれ移動して順位が変更されます。

- ・ 1.Chn n. : [お使いのハードディスク名称]（初期値）：シリアル ATA コネクタに接続されているハードディスクから起動します。
- ・ 2.Bootable Add-in Cards : 拡張カードに接続されているハードディスクから起動します。

POINT

- ▶ 複数のハードディスクが搭載されている場合、「終了」メニューの「標準設定値を読み込む」を実行するとハードディスクの順位が変更されてしまいます。
その場合は、システムを起動するハードディスクの順位を変更して「終了」メニューの「変更を保存して終了する（再起動）」または「変更を保存して終了する（電源 OFF）」を実行して設定値を保存してください。

6

● 高速起動

起動時に自己診断（POST）を簡略化するかどうかを設定します。

- ・ 使用しない：起動時に POST を簡略化しません。
- ・ 使用する（初期値）：起動時に POST を簡略化します。
- ・ 自動：起動時に POST を簡略化するかどうかを自動的に判断します。

● ロゴスクリーン表示

本ワークステーションの起動時に自己診断（POST 画面）を表示するかどうかを設定します。

- ・ 使用しない：起動時に自己診断画面を表示します。
- ・ 使用する（初期値）：起動時に「FUJITSU」ロゴを表示します。

● 起動デバイス優先順位 1/2/3

起動デバイスの優先順位を設定します。「LAN」を設定した場合、ネットワーク経由で本ワークステーションを起動できます。

- Hard Disk、CD/DVD、USB-FDD、USB-CDROM、MBA vnn.n.n slot nnnn、Disabled

POINT

- ▶ 「CD/DVD」からの起動には、起動可能なディスクが必要となります。
起動前に、CD/DVD ドライブにディスクをセットしてください。
- ▶ ネットワークサーバーから起動するためには、「MBA vnn.n.n slot nnnn」を起動デバイスの優先順位 1 に設定してください。また、「Wired for Management Baseline Version 2.0」に準拠したインストレーションサーバーシステムが必要となります。

● 起動メニュー

本ワークステーションの起動時または再起動時に、【F12】キーを押すことによって、起動メニュー（起動デバイスを選択するメニュー）を表示するかどうかを設定します。

- 使用する（初期値）：起動メニューを表示します。
- 使用しない：起動メニューを表示しません。

● 起動時の Num-Lock

起動時に、キーボードを NumLock 状態にするかどうかを設定します。

- Off：キーボードを NumLock 状態にしません。
- On（初期値）：キーボードを NumLock 状態にします。

● 起動時のディスプレイ表示

PCI のグラフィックスカードを増設した場合、PCI カードと PCI Express x16 グラフィックスカードのどちらをプライマリディスプレイとして使うかを設定します。

- PCI：PCI カードを使います。PCI のグラフィックスカードを増設していない場合は PCI Express x16 グラフィックスカードを使います。
- PEG（初期値）：PCI Express x16 グラフィックスカードを使います。

POINT

- ▶ マルチモニタ機能をお使いの場合は、「PEG」に設定してください。

● Limit CPUID Max. to 3

本項目は、CPUID 命令の拡張 Function に対応した CPU が搭載されている場合に表示されます。CPUID 命令の拡張 Function を制限するかどうかを設定します。

拡張 Function に対応していない OS では、システムが起動しないことがあります。その場合は「使用する」に設定してください。

- 使用しない（初期値）：CPUID 命令の拡張 Function を制限しません。
- 使用する：CPUID 命令の拡張 Function を制限します。

● Execute Disable Bit

CPU の「エグゼキュート・ディスペーブル・ビット機能」を有効にするか無効にするかを設定します。

- 使用する（初期値）：有効にします。
- 使用しない：無効にします。

● CPU EIST Function

実行中のソフトウェアの CPU 負荷に合わせて、Windows がプロセッサーの動作周波数および動作電圧を自動的に低下させる機能です。本設定は拡張版 Intel SpeedStep® テクノロジーに対応した CPU の場合に表示されます。

本設定は「使用しない」（初期値）のまま変更せずに使いください。

● Virtualization Technology

本機能をサポートするVMM(仮想マシン・ソフトウェア)をインストールすることによって、仮想マシンの性能と安全性を向上させる機能です。本項目はバーチャライゼーション・テクノロジーに対応したCPUの場合に表示されます。

本設定は「使用しない」(初期値)のまま変更せずに使いください。

● Core Multi-Processing

Core Multi-Processing機能(CPUコアごとのマルチコア機能)を有効にするか無効にするかを設定します。

- ・**使用する**(初期値) : 有効にします。
- ・**使用しない** : 無効にします。

□ 内蔵デバイス設定

サブメニューを使ってシリアルATAやシリアルポート、パラレルポートなどの設定を行います。

● Audio コントローラ

内蔵のオーディオデバイスを有効にするかどうかを設定します。

- ・**使用する**(初期値) : オーディオデバイスを有効にします。
- ・**使用しない** : オーディオデバイスを無効にします。

● 1394 コントローラ

内蔵のIEEE1394コントローラを有効にするかどうかを設定します。

- ・**使用しない** : IEEE1394コントローラを無効にします。
- ・**使用する**(初期値) : IEEE1394コントローラを有効にします。

● LAN コントローラ

内蔵のLANコントローラを有効にするかどうかを設定します。

- ・**使用する**(初期値) : LANコントローラを有効にします。
- ・**使用しない** : LANコントローラを無効にします。

● ネットワークサーバから起動

ネットワーク(LAN)経由で本ワークステーションを起動するかどうかを設定します。

「Onboard H/W LAN」を「使用する」に設定したとき本設定を変更できます。

- ・**使用する**(初期値) : ネットワーク経由で起動するようにします。
- ・**使用しない** : ネットワーク経由で起動しないようにします。

● シリアルポート1

シリアルポート1に割り当てるI/Oアドレスを設定します。

- ・**使用しない** : シリアルポート1にI/Oアドレスを割り当てません。
- ・**3F8/IRQ4**(初期値)、**2F8/IRQ3**、**3E8/IRQ4**、**2E8/IRQ3** : 割り当てるI/Oアドレスを設定します。

● シリアルポート2

シリアルポート2に割り当てるI/Oアドレスを設定します。

- ・**使用しない** : シリアルポート2にI/Oアドレスを割り当てません。
- ・**3F8/IRQ4**、**2F8/IRQ3**(初期値)、**3E8/IRQ4**、**2E8/IRQ3** : 割り当てるI/Oアドレスを設定します。

● USB コントローラ

USB コントローラを有効にするかどうかを設定します。USB コントローラを「使用しない」にすると、すべての USB 機器が使えなくなります。本設定は、自己診断 (POST) が終了した後に有効になります。

- ・**使用しない** : USB コントローラをすべて無効にします。カスタムメイドで選択したフロッピーディスクドライブやスマートカードリーダ／ライタも使用できなくなります。
- ・**背面のみ** : USB コントローラをワークステーション本体背面のみ有効にします。
- ・**使用する（初期値）** : USB コントローラをすべて有効にします。

● USB 2.0 コントローラ

USB2.0 を有効にするかどうかを設定します。「USB コントローラ」を「使用する」または「背面のみ」に設定したときに本設定を変更できます。

- ・**使用しない** : USB2.0 を無効にし、USB1.1 で動作します。
- ・**使用する（初期値）** : USB2.0 を有効にします。

● USB キーボードサポート

USB をサポートしていない OS で USB キーボードを使えるようにするかどうかを設定します。「USB コントローラ」を「使用する」または「背面のみ」に設定したとき本設定を変更できます。

USB をサポートしていない OS で USB キーボードをお使いになるときは「使用する」を選択してください。本設定は、自己診断 (POST) が終了した後に有効になります。

- ・**使用しない** : USB キーボードを無効にします。
- ・**使用する（初期値）** : USB キーボードを有効にします。

POINT

- ▶ USB に対応している OS では、本設定が「使用しない」のままでもお使いになれます。
- ▶ 「USB キーボードサポート」を「使用する」に設定すると、USB に対応していない OS では、システム全体の動作が遅くなります。
なお、USB に対応していない OS では、PS/2 キーボードのご使用をお勧めします。
- ▶ 本設定を「使用しない」にした場合、起動メニュー や SCSI BIOS (SCSI カードが搭載されている場合) では、USB キーボードによる操作ができません。

● USB マウスサポート

USB をサポートしていない OS で USB マウスを使えるようにするかどうかを設定します。「USB コントローラ」を「使用する」または「背面のみ」に設定したとき本設定を変更できます。

USB をサポートしていない OS で USB マウスをお使いになるときは「使用する」を選択してください。本設定は、自己診断 (POST) が終了した後に有効になります。

- ・**使用しない** : USB マウスを無効にします。
- ・**使用する（初期値）** : USB マウスを有効にします。

POINT

- ▶ USB に対応している OS では、本設定が「使用しない」のままでもお使いになれます。
- ▶ 「USB マウスサポート」を「使用する」に設定すると、USB に対応していない OS では、システム全体の動作が遅くなります。
なお、USB に対応していない OS では、PS/2 マウスのご使用をお勧めします。

● USB ストレージサポート

USB をサポートしていない OS で USB ストレージデバイスを使えるようにするかどうかを設定します。「USB コントローラ」を「使用する」または「背面のみ」に設定したとき本設定を変更できます。USB をサポートしていない OS で USB ストレージデバイスをお使いになるときは「使用する」を選択してください。本設定は、自己診断（POST）が終了した後に有効になります。

- ・**使用しない** : USB ストレージデバイスを無効にします。
- ・**使用する（初期値）** : USB ストレージデバイスを有効にします。

POINT

- ▶ USB に対応している OS では、本設定が「使用しない」のままでもお使いになれます。
- ▶ すべての USB 規格に対応した周辺機器の動作を保証するものではありません。USB 規格に対応した周辺機器を接続して問題が発生した場合には、本設定を「使用しない」に設定するか、Windows が起動した後に USB 規格の周辺機器を接続してください。

● USB マスストレージデバイス起動設定

USB ストレージデバイスが接続された場合に接続されたデバイスが表示されます。本設定は「Auto Mode」（初期値）のまま変更せずに使いください。

□ 電源管理設定

サブメニューを使って、省電力モードに関する設定を行います。

● AC 通電再開時の動作

停電などからの復電時に、ワークステーション本体の電源を自動的に入れるかどうかを設定します。

- ・**電源 OFF** : 復電しても電源が入りません。
- ・**電源 ON** : 復電時に電源が入ります。
- ・**自動** : 電源が切断される前の状態になります。
- ・**使用しない（初期値）** : 本機能を使用しません。

POINT

- ▶ 「電源 OFF」に設定した場合、または「自動」に設定し、AC 電源が切れる前の状態がシャットダウンや休止状態の場合、復電のときに一瞬電源が入りますが故障ではありません。この現象を回避する場合は、「使用しない」に設定してください。
- ▶ AC 電源切断後 30 秒以上待ってから電源を入れてください。30 秒以内に入れると正常に動作しなくなります。
- ▶ 「自動」に設定した場合、AC 電源が切れる前の状態が起動中またはスリープ状態（Windows Vista の場合）やスタンバイ状態（Windows XP の場合）のときにワークステーション本体の電源が入ります。休止状態のときは電源が入りません。
- ▶ UPS などを使って復電時に電源を投入させたい場合は、「電源 ON」に設定してください。

● PMEによる電源ON

内蔵LANコントローラまたはPME対応のLANカード(PCI)がMagic Packet(ウェイクアップ信号)を受信したときに電源を入れるかどうかを設定します。

- ・**使用しない**(初期値): Magic Packetの受信で電源を入れません。
- ・**使用する**: Magic Packetの受信で電源を入れます。

POINT

- ▶ 本項目の設定では、省電力状態(スリープ、スタンバイ、休止状態)から復帰(レジューム)させることはできません。次の項目をご覧になり、設定してください。
 - ・Windows Vistaの場合
「取り扱い」—「スリープ／休止状態の使い方」(→ P.69)
 - ・Windows XPの場合
「取り扱い」—「スタンバイ／休止状態の使い方」(→ P.77)

● 時刻による電源ON

指定した時刻になったときに、本ワークステーションの電源を入れるかどうかを設定します。

- ・**使用しない**(初期値): 指定した時刻に、本ワークステーションの電源を入れません。
- ・**使用する**: 指定した時刻に、本ワークステーションの電源を入れます。

● 電源ON日時

ウェイクアップする日付を設定します。「時刻による電源ON」を「使用する」に設定した場合に設定できます。

- ・0(初期値)
- ・1~31

POINT

- ▶ 本機能を毎日お使いになりたいときは、「0」に設定します。

● 電源ON時刻

ウェイクアップする時刻を設定します。「時刻による電源ON」を「使用する」に設定した場合に設定できます。

- ・0~23(時)
- ・0~59(分)
- ・0~59(秒)

POINT

- ▶ 本項目の設定では、省電力状態(スリープ、スタンバイ、休止状態)から復帰(レジューム)させることはできません。次の項目をご覧になり、設定してください。
 - ・Windows Vistaの場合
「取り扱い」—「スリープ／休止状態の使い方」(→ P.69)
 - ・Windows XPの場合
「取り扱い」—「スタンバイ／休止状態の使い方」(→ P.77)

セキュリティメニュー

セキュリティメニューでは、特定の人だけが本ワークステーションを操作できるようにパスワードを設定します。

パスワードの設定方法については、「BIOSのパスワード機能を使う」(→P.157)をご覧ください。

■ 設定項目の詳細

□ 管理者用パスワード

【Enter】キーを押して、管理者用パスワードを設定、または変更します。

□ ユーザ用パスワード

【Enter】キーを押して、ユーザー用パスワードを設定します。

POINT

- ▶ ユーザー用パスワードは、管理者用パスワードが設定されているときのみ設定できます。
- ▶ 管理者用パスワードが削除された場合、ユーザー用パスワードも削除されます。
- ▶ パスワードを設定すると、BIOS セットアップへのアクセス時やシステム起動時にパスワード入力を要求されます。このときに、誤ったパスワードを 3 回入力すると、「システムは使用できません」と表示され、本ワークステーションはキーボードからの入力に反応しなくなります（ビープ音が鳴り続けます）。この場合、本ワークステーションの電源ボタンを 4 秒以上押し続けて電源を切り、10 秒以上待ってから電源を入れ、正しいパスワードを入力してください。
- ▶ 「ユーザー用パスワード」が設定されている場合、ユーザー権限で設定できる BIOS セットアップの項目が制限されます（「ユーザー用パスワード」のみ変更できます）。

□ パスワードチェック

システム起動時、または BIOS セットアップ起動時にパスワード入力を要求するかどうかを設定します。

- ・**セットアップ (初期値)** : BIOS セットアップ起動時にパスワード入力を要求します。
- ・**システム** : システム起動時と BIOS セットアップ起動時にパスワード入力を要求します。
- ・**自動** : 自動ウェイクアップ機能のうち、LAN / 時刻により自動的に起動したときは、パスワードは要求しません。この場合、起動直後に画面下に表示されているキー（【F2】キー、【F12】キー）を押してもキー入力は無効になります。
なお、通常は「システム」と同じ動作になります。
- ・**スキップ** : 初回のシステム起動時のみパスワード入力を要求します。

POINT

- ▶ 本設定は、パスワードが設定されている場合のみ有効になります。

□ エラー停止

自己診断 (POST) でエラーを検出したとき、エラーを検出するデバイスを設定します。

- ・**All Errors (初期値)** : すべてのエラーを検出します。
- ・**No Errors** : すべてのエラーを検出しません。
- ・**All, But Keyboard** : キーボードに関するエラーを検出しません。

□ ハードディスクセキュリティ

サブメニューを使って、ハードディスクのセキュリティ機能を設定します。

● IDE Channel 0/1 Master

本ワークステーションに搭載されているハードディスクのセキュリティ機能を有効、または無効にするかどうかを設定します。

なお、標準搭載のハードディスクは、ハードディスクセキュリティに対応しています。

- ・**使用しない（初期値）**：ハードディスクのセキュリティ機能を無効にします。
- ・**使用する**：ハードディスクのセキュリティ機能を有効にして、特定の人だけがハードディスクを使えるようにします。起動時に設定されているパスワードを、ハードディスクに書き込まれているパスワードと照合します。一致しない場合、ハードディスクは使えません。

※ 重要

- ▶ パスワードを忘ると、ハードディスクが使えなくなったり、ハードディスクセキュリティ機能を無効にすることができないことがあります。「パスワードを忘れてしまったら」(→ P.157) をご覧ください。
 - ▶ ハードディスクセキュリティ機能の設定を変更する場合は、必ず電源をいったん切り、再度ワークステーションの電源を入れて、BIOS セットアップを起動してから設定を変更してください。また、ハードディスクセキュリティ機能の設定を変更した後は、BIOS セットアップの「終了」メニューの「変更を保存して終了する（電源 OFF）」を実行してワークステーションの電源を切ってください。
- これらの手順を守らないと、変更した内容が正しく反映されない場合があります。

POINT

- ▶ 本項目は、管理者用パスワードで BIOS を起動した場合のみ設定できます。
- ▶ カスタムメイドで HDD 変更 (SATA-RAID) を選択した場合、本機能はお使いになれません。
- ▶ ご購入時の状態では、各 IDE チャンネルと接続される IDE デバイスとの対応は次のとおりです。
 - ・ IDE Channel 0 Master :シリアル ATA コネクタ 0
 - ・ IDE Channel 1 Master :シリアル ATA コネクタ 1
- ▶ ハードディスクがセキュリティ機能に対応していない場合や、ハードディスク以外の装置が接続されている場合は、灰色の文字で表示され、本設定を変更することはできません。
- ▶ 管理者用パスワードのみ設定した場合、ハードディスクには管理者用パスワードが書き込まれます。
管理者用パスワードとユーザー用パスワードを設定した場合、ハードディスクにはユーザー用パスワードが書き込まれます。
- ▶ パスワードを変更または解除した場合、ハードディスクに書き込まれたパスワードも変更または解除されます。
- ▶ パスワードが解除されたときは、本設定も同時に「使用しない」に設定され、ハードディスクのセキュリティ機能が解除されます。
- ▶ なんらかの原因(他のハードディスクと交換している間にパスワードを変更した場合など)でワークステーション本体のパスワードとハードディスクに書き込まれたパスワードが異なる場合、そのハードディスクのパスワードを設定したワークステーションであっても、データは読み込めません。

□ セキュリティチップ設定

サブメニューを使って、セキュリティチップ機能を設定します。

● セキュリティチップ

セキュリティチップについて設定します。

- ・**使用しない (初期値)** : セキュリティチップによるセキュリティ機能を使いません。
- ・**使用する** : セキュリティチップによるセキュリティ機能を使います。

⚠ 重要

- ▶ 本項目は、管理者用パスワードが設定されている場合に選択できます。
- ▶ セキュリティチップを使用する場合は、『SMARTACCESS ファーストステップガイド（認証デバイスをお使いになる方へ）』をご覧ください。
- ▶ セキュリティチップを有効にするには、BIOSセットアップ終了後に本ワークステーションを再起動してください。
- ▶ ご購入時は、「使用しない」に設定されています。「使用する」に変更した場合は、「終了」メニューの「標準設定値を読み込む」を実行しても、ご購入時の設定である「使用しない」には戻りません。

● 現在の TPM 状態

セキュリティチップの状態を表示します。

- ・**無効かつ使用可** : セキュリティチップが無効かつ使用可の状態です。
- ・**無効かつ使用不可 (初期値)** : セキュリティチップが無効かつ使用不可の状態です。
- ・**有効かつ使用可** : セキュリティチップが有効かつ使用可の状態です。
- ・**有効かつ使用不可** : セキュリティチップが有効かつ使用不可の状態です。

● TPM の状態の変更

セキュリティチップの状態を変更します。

- ・**変更しない (初期値)** : 変更しません。
- ・**クリア** : セキュリティチップの情報を削除します。
- ・**有効かつ使用可** : 有効かつ使用可の状態にします。
- ・**無効かつ使用不可** : 無効かつ使用不可の状態にします。

⚠ 重要

- ▶ 本項目は、「セキュリティチップ」の設定が「使用する」の場合で、実行可能な状態でのみ変更できます。
- ▶ セキュリティチップを使用する場合は、『SMARTACCESS ファーストステップガイド（認証デバイスをお使いになる方へ）』をご覧ください。

PC Health メニュー

イベントログやメインボードに搭載されているハードウェアモニタの確認を行います。

□ イベントログ設定

サブメニューを使って、イベントログの確認を行います。

● イベントログ

エラー発生時にイベントログを記録するかどうかを設定します。

- ・**使用しない**：イベントログを記録しません。
- ・**使用する（初期値）**：イベントログを記録します。

● イベントログの消去

次回の本ワークステーション起動時に、イベントログの内容を消去するかどうかを設定します。

- ・**消去しない（初期値）**：イベントログを消去しません。
- ・**消去する**：イベントログを次回再起動時に消去します。再起動すると設定値は「消去しない」になります。

● イベントログの表示

【Enter】キーを押すと、イベントログの詳細を表示します。

□ Temperature

サブメニューを使って、ワークステーションの温度の情報を表示します。

● System

メインボードに搭載されている、温度センサー（SYSTEM）（→ P.19）の現在の温度が表示されます。

● Rear

メインボードに搭載されている、温度センサー（REAR）（→ P.19）の現在の温度が表示されます。

● CPU

CPU の現在の温度（危険動作温度からの相対温度）が表示されます。

□ Voltage

サブメニューを使って、ワークステーションの電圧の情報を表示します。

● Vcore

CPU の現在の電圧が表示されます。

● +5V

5V ラインの現在の電圧が表示されます。

● +3.3V

3.3V ラインの現在の電圧が表示されます。

● +12V

12V ラインの現在の電圧が表示されます。

● VBAT

内蔵バッテリの現在の電圧が表示されます。

□ FAN

サブメニューを使って、ワークステーションの FAN の情報を表示します。

- System

ワークステーション本体に搭載されている System FAN のファンの、現在の回転数 (rpm) が表示されます。

- CPU

CPU に取り付けられているファンの、現在の回転数 (rpm) が表示されます。

終了メニュー

終了メニューは、セットアップを終了するときに使います。

■ 設定項目の詳細

□ 変更を保存して終了する（再起動）

本項目にカーソルを合わせて【Enter】キーを押すと、「変更を保存して終了する（再起動）?Y」 というメッセージが表示されます。

【Y】キーを押して【Enter】キーを押すと、変更した設定値を保存して BIOS セットアップを終了し、本ワークステーションを再起動します。

□ 変更を保存して終了する（電源 OFF）

本項目にカーソルを合わせて【Enter】キーを押すと、「変更を保存して終了する（電源 OFF）?Y」 というメッセージが表示されます。

【Y】キーを押して【Enter】キーを押すと、変更した設定値を保存して BIOS セットアップを終了し、本ワークステーションの電源が切れます。

□ 変更を保存せずに終了する

本項目にカーソルを合わせて【Enter】キーを押すと、「変更を保存せずに終了する ?N」 というメッセージが表示されます。

【Y】キーを押して【Enter】キーを押すと、変更した設定値を元に戻して BIOS セットアップを終了し、本ワークステーションを再起動します。

□ 標準設定値を読み込む

本項目にカーソルを合わせて【Enter】キーを押すと、「標準設定値を読み込む ?N」 というメッセージが表示されます。

【Y】キーを押して【Enter】キーを押すと、ご購入時の設定値（標準設定値）が読み込まれます。

POINT

- ▶ 次の自動ウェイクアップ項目の設定は、システム起動時に設定されます。
設定を変更した場合は、「変更を保存して終了する（再起動）」を選択し、一度システムを再起動してください。
 - ・PME による電源 ON
 - ・時刻による電源 ON
- ▶ 「標準設定値を読み込む」を実行しても、次の項目については現在お使いの状態のまま変更はされません。
 - ・「システム」メニューの「言語」
 - ・「セキュリティ」メニューの「セキュリティチップ」各項目
 - ・「セキュリティ」メニューの「ハードディスクセキュリティ」
 - ・BIOS パスワードの設定

4 BIOS のパスワード機能を使う

ここでは、BIOS セットアップで設定できるパスワードについて説明しています。本ワークステーションは、不正使用を防止するために、BIOS セットアップでパスワードを設定することができます。パスワードを設定すると、正しいパスワードを知っている人以外は本ワークステーションを使用できなくなります。

パスワードの種類

本ワークステーションで設定できるパスワードは次のとおりです。

入力するパスワードにより、本ワークステーション操作の権限が区別されます。

● 管理者用パスワード

特定の人だけが BIOS セットアップや OS を起動できるようにするための、システム管理者用のパスワードです。パスワード機能を使う場合は、必ず設定してください。

● ユーザー用パスワード

特定の人だけが BIOS セットアップや OS を起動できるようにするための、一般利用者用のパスワードです。「管理者用パスワード」が設定されている場合に設定できます。

ユーザー用パスワード起動した場合、設定できる項目が「ユーザー用パスワード」のみに制限されます。

POINT

- ▶ 管理者用パスワードが削除された場合、ユーザー用パスワードも削除されます。

パスワードを忘れてしまったら

6

パスワードは、盗難などによる不正な使用を防止することを目的としています。

パスワードを忘れてしまうと、パスワードの種類によっては、修理（有償）や、最悪の場合データの損失につながるおそれがあります。パスワードは、何かに書き留めて、安全な場所に保管しておくことをお勧めします。

■ 管理者用パスワードを忘れてしまったら

管理者用パスワードを忘れる、パスワード機能を解除できなくなり、修理が必要になります。また、ハードディスクセキュリティ機能が有効な場合は、ハードディスクが使えなくなったり、ハードディスクのセキュリティ機能を解除できなくなったりして、修理が必要になります。「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。修理は保証期間にかかるわらず、有償になります。

なお、セキュリティチップを使用している場合、修理の後にセキュリティチップのリストアが必要となります。

◀ 重要

- ▶ セキュリティチップを使用している場合、メインボードを修理した後にセキュリティチップのリストアが必要になります。詳しくは、『SMARTACCESS ファーストステップガイド（認証デバイスをお使いになる方へ）』をご覧ください。
- ▶ ハードディスクの修理を行うと、ハードディスク内のデータはフォーマット（初期化）されるため復旧できません。データのバックアップができる場合は、必ず修理の前にバックアップしてください。
ただし、起動時のパスワードを設定している場合、管理者用とユーザー用のパスワードを両方とも忘れると、データのバックアップはできません。

■ ユーザー用パスワードを忘れてしまったら

ユーザー用パスワードを忘れた場合は、修理の必要はありません。ワークステーションの管理者に管理者用パスワードをいったん削除してもらった後、管理者用パスワード、ユーザー用パスワードの順にパスワードを設定し直してください。

パスワードを設定する

BIOS のパスワード設定方法は次のとおりです。

POINT

- ▶ ユーザー用パスワードを設定する前に、管理者用パスワードを設定してください。

- 1 「セキュリティ」メニューで「管理者用パスワード」、または「ユーザー用パスワード」にカーソルを合わせて【Enter】キーを押します。
パスワード入力用のウィンドウが表示されます。

パスワード入力

POINT

- ▶ 「管理者用パスワード」が設定されていないと、「ユーザー用パスワード」は設定できません。

- 2 1 ~ 32 桁までのパスワードを入力します。
入力できる文字種はアルファベットと数字です。また、大文字と小文字が区別されます。入力した文字は表示されず、代わりに「*」が表示されます。
- 3 パスワードを入力し、【Enter】キーを押します。
次のパスワード確認用のウィンドウが表示され、パスワードの再入力が求められます。

パスワード確認:

- 4 手順 2 で入力したパスワードを再度入力し、【Enter】キーを押します。
再入力したパスワードが間違っていた場合は、「パスワード入力」の項目に戻ります。
もう一度、手順 2 から入力してください。

5 BIOS セットアップを終了します。

終了の手順については「BIOS セットアップを終了する」(→ P.140) をご覧ください。

POINT

- ▶ 設定したパスワードは、忘れないように何かに書き留め、安全な場所に保管しておくことをお勧めします。

パスワードを使う

パスワードを設定すると、設定状態により、次の場合にパスワードの入力が必要になります。

- BIOS セットアップを起動するとき
- OS を起動するとき

パスワードの入力を求めるウィンドウが表示されたら、管理者用パスワード、またはユーザー用パスワードを入力し、【Enter】キーを押してください。

なお、ユーザー用パスワードを入力した場合は、設定できる項目が「ユーザー用パスワード」のみに制限されます。

パスワード入力:

誤ったパスワードを 3 回入力すると、ビープ音が鳴りシステムが停止します。この場合は、電源ボタンを 4 秒以上押して電源を切り、10 秒以上待ってからもう一度電源を入れて、正しいパスワードを入力してください。

POINT

- ▶ テンキーからの入力はできません。

6

パスワードを変更／削除する

重要

- ▶ ハードディスクセキュリティ機能を有効に設定している場合

ハードディスクパスワードを変更したり削除したりする場合には、Windows で、「シャットダウン」(Windows Vista の場合) または「電源を切る」(Windows XP の場合) を実行していったんワークステーションの電源を切り、電源ボタンを押してワークステーションの電源を入れてから BIOS セットアップを起動してください。また、パスワードの設定を変更したり削除したりした後は、必ず「終了」メニューの「変更を保存して終了する（電源 OFF）」を実行してワークステーションの電源を切ってください。

これらの手順を守らないと、変更した内容が正しく反映されなかったり、「ハードディスクセキュリティ」や「管理者パスワード」および「ユーザーパスワード」がグレーで表示され、設定や変更ができなくなったりする場合があります。

■ パスワードを変更する

設定したパスワードを変更するには、次のように操作してください。

- 1 「セキュリティ」メニューで「管理者用パスワード」、または「ユーザー用パスワード」にカーソルを合わせて【Enter】キーを押します。
パスワード入力用のウィンドウが表示されます。
- 2 設定してあるパスワードを入力し、【Enter】キーを押します。
「新しいパスワードを入力してください。」にカーソルが移ります。
- 3 1～32桁までの新しく設定したいパスワードを入力し、【Enter】キーを押します。
「新しいパスワードを確認してください。」にカーソルが移り、パスワードの再入力を求められます。
- 4 手順3で入力したパスワードを再度入力し、【Enter】キーを押します。
再入力したパスワードが間違っていた場合は、「パスワードを入力してください」の項目に戻ります。もう一度、手順2から入力してください。
パスワードの設定を中止するときは【Esc】キーを押してください。
- 5 BIOS セットアップを終了します。
終了の手順については「BIOS セットアップを終了する」(→ P.140) をご覧ください。

■ パスワードを削除する

- パスワードを削除するには、「管理者用パスワード」または「ユーザー用パスワード」の項目で、新しいパスワードを入力しないで【Enter】キーを押します。
次のウィンドウが表示され、パスワードが削除されます。

パスワードを消去しました
どれかキーを押してください

- 管理者用パスワードが削除されると、ユーザー用パスワードも削除されます。
- 管理者用パスワードが削除されたときは、「ハードディスクセキュリティ」(→ P.152) の設定も同時に「使用しない」に設定され、ハードディスクのセキュリティ機能が解除されます。

5 認証デバイスのセキュリティ機能を使う

セキュリティチップをお使いになるには、BIOS セットアップの設定を変更する必要があります。

セキュリティチップの使用方法や設定方法については、『SMARTACCESS ファーストステップガイド（認証デバイスをお使いになる方へ）』をご覧ください。

6 BIOS イベントログに記録されるエラーメッセージ一覧

ここでは、BIOS イベントログに記録されるエラーメッセージの対処方法を説明しています。必要に応じてお読みください。

エラーメッセージが記録されたときは

「エラーメッセージ一覧」(→ P.162) に記載の処置をしてください。

処置を実行しても、まだエラーメッセージが発生する場合は、本ワークステーションが故障している可能性があります。

「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。

エラーメッセージ一覧

BIOS イベントログに記録されるエラーメッセージの一覧は、次のとおりです。

- CMOS Checksum Error

CMOS チェックサムが間違っています。すべての BIOS 設定項目が標準設定値に変更されました。

BIOS 設定を保存して BIOS セットアップを終了してください。

BIOS 設定を標準設定値から変更している場合は設定変更後、設定した内容を保存して BIOS セットアップを終了してください。

- Keyboard error or no keyboard present

キーボードテストでエラーが発生しました。

電源を切って、キーボードが正しく接続されているか確認し、10 秒以上待ってから電源を入れ直してください。

- nnn FAN Error

POST 時のファン確認時にエラーが発生しました。

電源を切って、ファンが壊れていないことまたはファンのケーブルが正しく接続されていることを確認してください。

- nnn Voltage Error

POST 時の電圧確認時にエラーが発生しました。

「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。

- Single Bit Error @DIMMnn,Ranknn

メモリスロット DIMM n で 1bit のエラーが発生し、訂正されました。

そのまま使用し続けても問題ありません。

それでも頻発する場合は電源を切って、メモリが正しく取り付けられているか確認してください。

- Multi Bit Error @DIMMnn,Ranknn

メモリスロット DIMM n で訂正不可能なエラーが発生しました。

電源を切って、メモリが正しく取り付けられているか確認してください。

● Non-ECC DIMM detected

サポート外のメモリが取り付けられています。

弊社純正品のメモリが取り付けられているかを確認してください。

● Unsupported DIMM detected

サポート外のメモリが取り付けられています。

弊社純正品のメモリが取り付けられているかを確認してください。

● nnn Temperature Error

温度異常を検出しました。

電源を切って、ファンが壊れていないことまたはファンのケーブルが正しく接続されていることを確認してください。

10分ほど待ってから電源を入れ直してください。

● Password locked:Fixed Disk n

ハードディスクのセキュリティ機能が有効のままになっているため、ハードディスクが使えません。ハードディスクのセキュリティ機能の設定を確認してください。

● Invalid Password Input

誤ったパスワードが入力されました。

Memo

第7章

お手入れ

快適にお使いいただくためのお手入れ方法を説明しています。

1 ワークステーション本体のお手入れ	166
2 周辺機器のお手入れ	178

1 ワークステーション本体のお手入れ

本ワークステーションを長期間お使いになると、ワークステーション本体に汚れが付着したり、ほこりがたまつたりすることがあります。そのままお使いになると、ワークステーションが故障しやすくなります。ワークステーション本体は、定期的に清掃してください。

△警告



- お手入れをする場合は、ワークステーション本体および接続されている機器の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いた後に行うようしてください。
この手順を守らずに作業を行うと、感電・火災または故障の原因となります。
- 清掃のときは、清掃用スプレー（可燃性物質を含む物）を使用しないでください。
故障・火災の原因となります。

ワークステーション本体

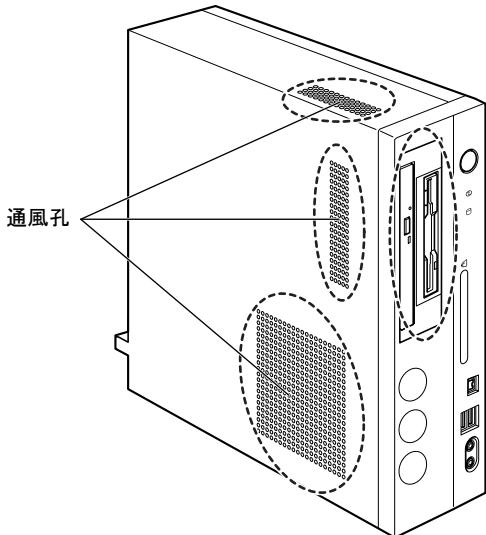
■ お手入れのしかた

- ワークステーション本体に付着した汚れは、乾いた柔らかい布で拭き取ってください。
- から拭きで落ちない汚れは、中性洗剤をしみ込ませて固く絞った布で拭きます。汚れが落ちたら、水に浸して固く絞った布で、中性洗剤を拭き取ります。拭き取るときは、ワークステーション本体に水が入らないようにご注意ください。
- 中性洗剤以外の洗剤や溶剤などを使いにならないでください。ワークステーション本体を損傷する原因となります。
- ワークステーション本体内部のほこりは、掃除機などで吸引してください。
- 清掃用スプレー（可燃性物質を含む物）を使用しないでください。

■ ほこりがたまりやすい箇所

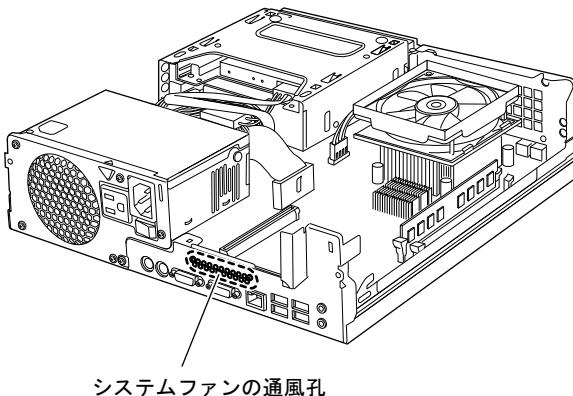
□ ワークステーション本体前面や通風孔

CD/DVD ドライブ、フロッピーディスクドライブ、および通風孔にほこりがたまらないよう気をつけてください。



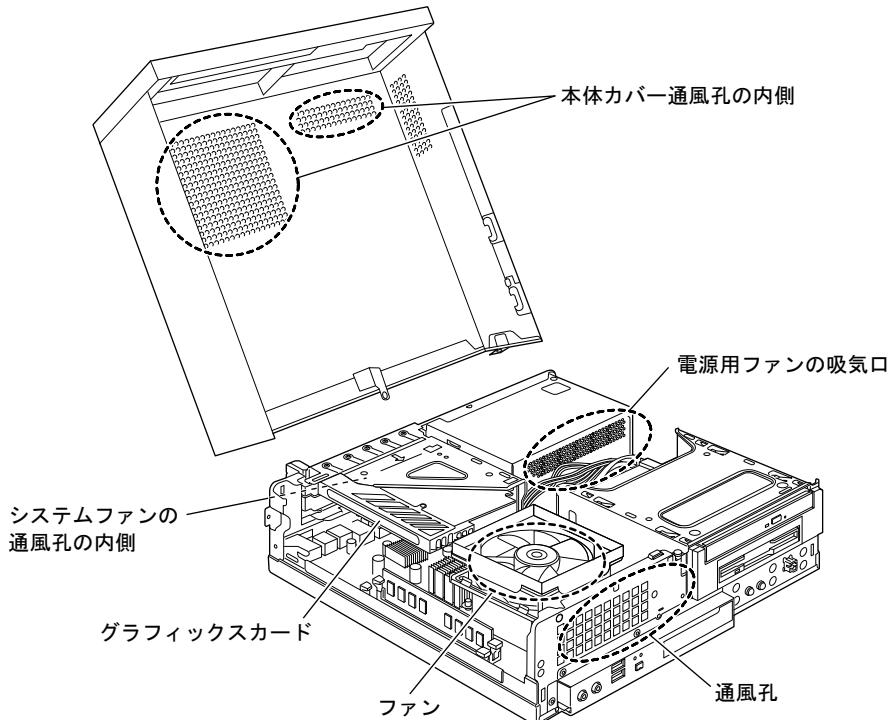
□ ワークステーション本体背面

システムファンの通風孔にほこりがたまらないよう気をつけてください。



□ ワークステーション本体内部

通風孔の内側、ヒートシンク、ファン、電源用ファンの吸気口、グラフィックスカード、およびシステムファンの通風孔の内側にはこりがたまらないよう気をつけてください。



重要

- ワークステーション本体内部の突起物には触れないでください。
異音や故障の原因となりますので、CPU ファンの羽根およびその他のワークステーション本体内部の突起物には、極力手を触れないでください。
- 清掃時には、充分に換気してください。
清掃時には、ほこりなどを口や鼻から吸い込まないように、窓を開けたり、換気扇を回したりするなどして、充分に換気してください。

ヒートシンク

ワークステーション本体内部のヒートシンクは、定期的に清掃してください。

■ 用意する物

- 掃除機
- 綿手袋

■ お手入れのしかた

重要

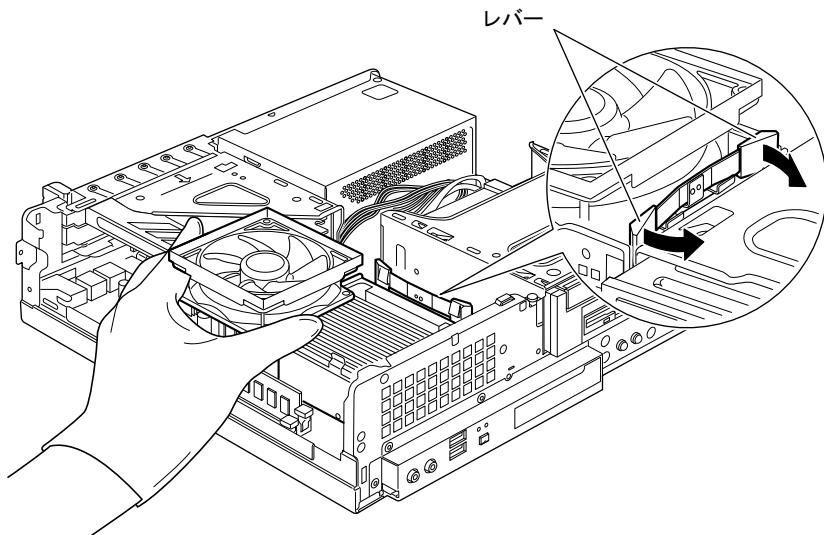
- ▶ 感電のおそれがありますので、清掃前には必ずワークステーション本体や周辺機器の電源を切り、コンセントから電源プラグを抜いてください。
- ▶ ワークステーション本体内部の突起物には触れないでください。
異音や故障の原因となりますので、ワークステーション本体内部の突起物や、ファンの羽根などには、極力手を触れないでください。
- ▶ ワークステーション本体内部は静電気に対して非常に弱い部品で構成されており、掃除機の吸引口や人体にたまたま静電気によって破壊される場合があります。
ワークステーション本体内部のお手入れをする前に、一度金属質の物に手を触れたり金属質の物に掃除機の吸引口先端を触れさせたりして、静電気を放電してください。
- ▶ 清掃時には、充分に換気してください。
清掃時には、ほこりなどを口や鼻から吸い込まないように、窓を開けたり、換気扇を回したりするなどして、充分に換気してください。
- ▶ 故障の原因となりますので、洗剤を使用しないでください。
- ▶ 清掃時に破損した場合は、保証期間にかかわらず修理は有償となります。取り扱いについては、充分にご注意ください。

1 本体カバーを取り外します。

本体カバーの取り外し方は、「周辺機器の設置／設定／増設」－「本体カバーを取り外す」（→ P.86）をご覧ください。

2 ファンをヒートシンクから取り外します。

ファンの両側のレバー（2ヶ所）を内側に押した状態で、ファンの外枠のフレームを持って、ファンをヒートシンクから取り外します。



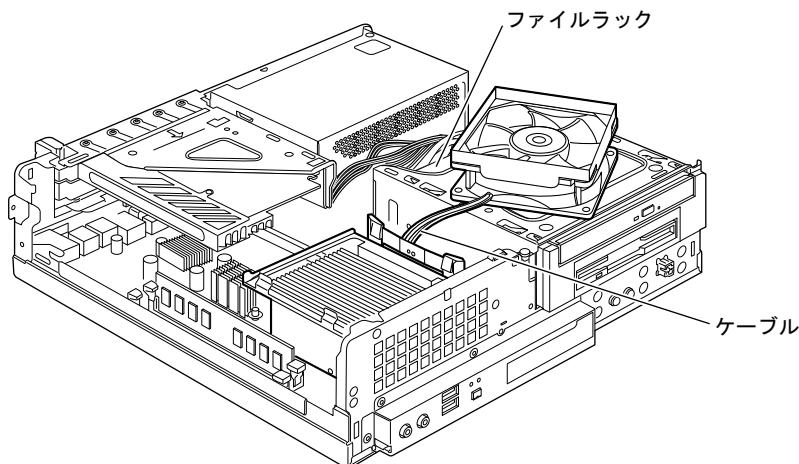
（これ以降のイラストは機種や状況により異なります）

重要

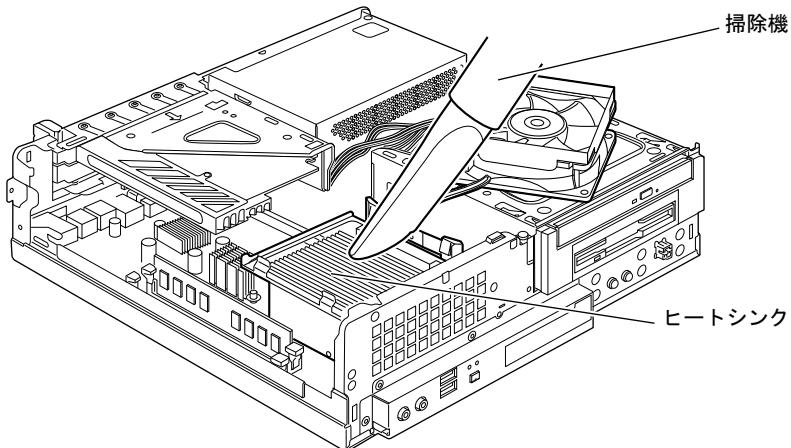
- ▶ ファンダクトを持つときは、ファンの羽根に触れないようにしてください。

3 取り外したファンを、ファイルラック部の上に置きます。

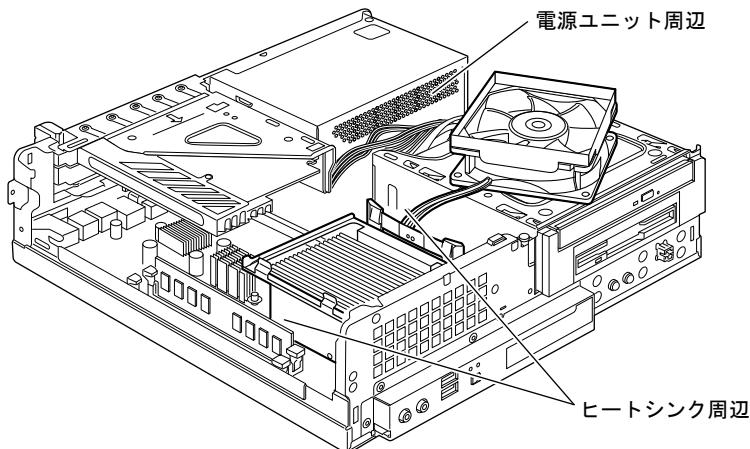
ファンのケーブルコネクタが抜けないように注意してください。強く引っ張るとケーブルコネクタが抜ける場合があります。



4 掃除機でヒートシンク上のはこりを直接吸い取ります。



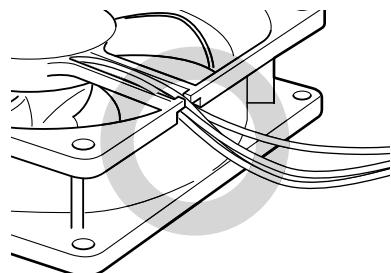
5 電源ユニット周辺やヒートシンク周辺のはこりを掃除機で吸い取ります。



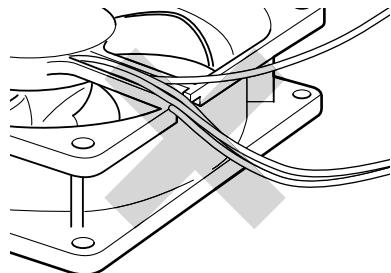
重要

- ▶ ヒートシンクに掃除機の吸引口を強くぶつけたり、綿棒や爪楊枝を使用してほこりを取りしないでください。ヒートシンクが変形する場合があります。
- ▶ 故障の原因となりますので、ヒートシンク周辺の電気部品には触れないようにご注意ください。

- 6** CPUファンのラベルがある面を表側に向け、CPUファンのケーブルが切り欠け部分から外れていないことを確認します。

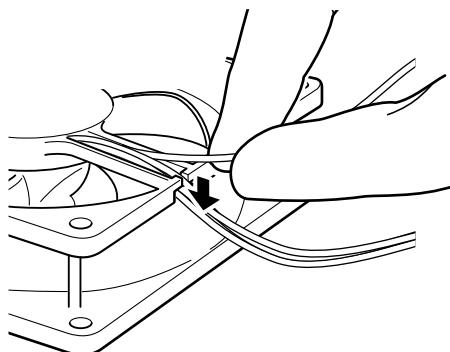


ケーブルが切り欠け部分に入っている



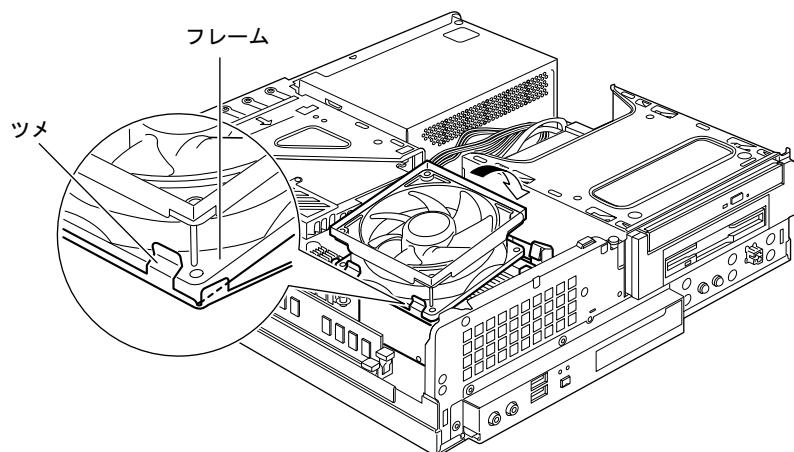
ケーブルが切り欠け部分から外れている

少しでも外れている場合は、外れているケーブルを切り欠けの中に入れてください。



- 7** ファンを、ヒートシンクの上に置きます。

ラベルのない面を上側に向け、ヒートシンクのツメ（2ヶ所）にファンのフレームを差し込んでから、ファンが固定されるまでしっかりと下ろしてください。

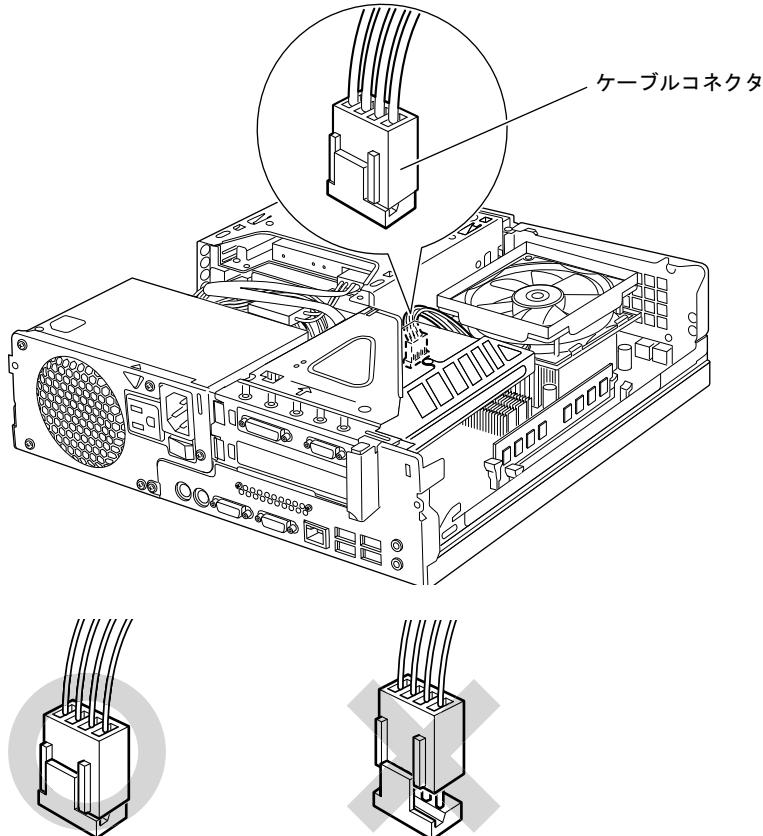


 **重要**

- ▶ ファンを下ろすときにケーブルをはさまないように気をつけてください。

8 ファンのケーブルコネクタが外れていないことを確認します。

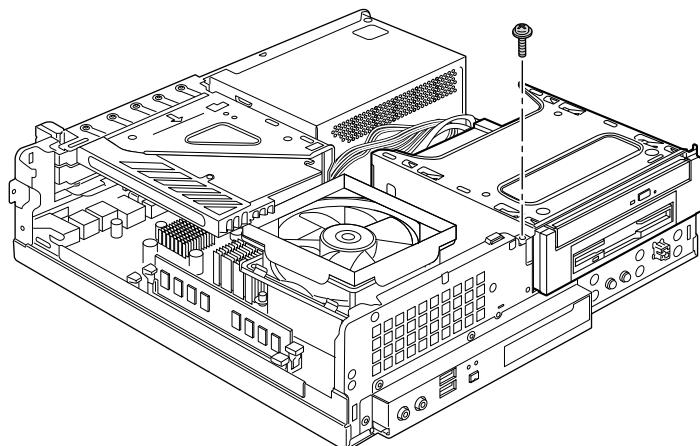
ケーブルコネクタが外れていない場合は、本体カバーを取り付け、お手入れは終了です。
少しでも外れていた場合は、手順 9 へ進んでください。



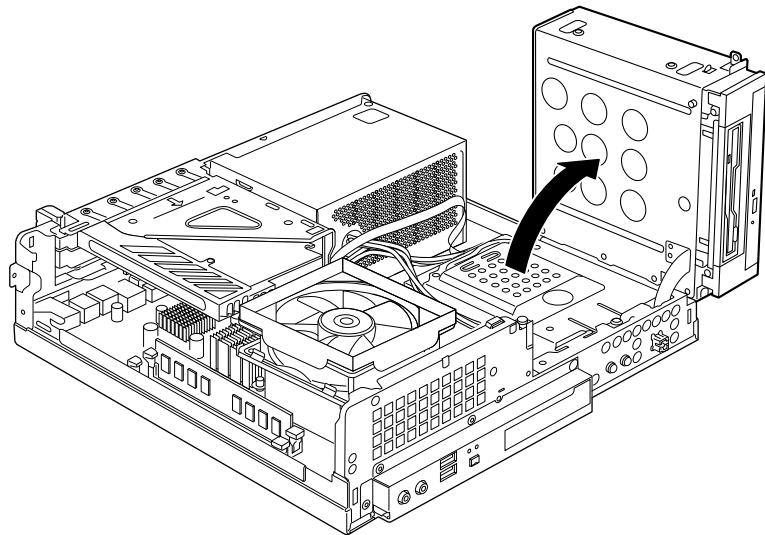
9 次の手順に従って、ファンのケーブルコネクタを取り付けます。

ファンのケーブルコネクタが外れていないときは、この作業は必要ありません。

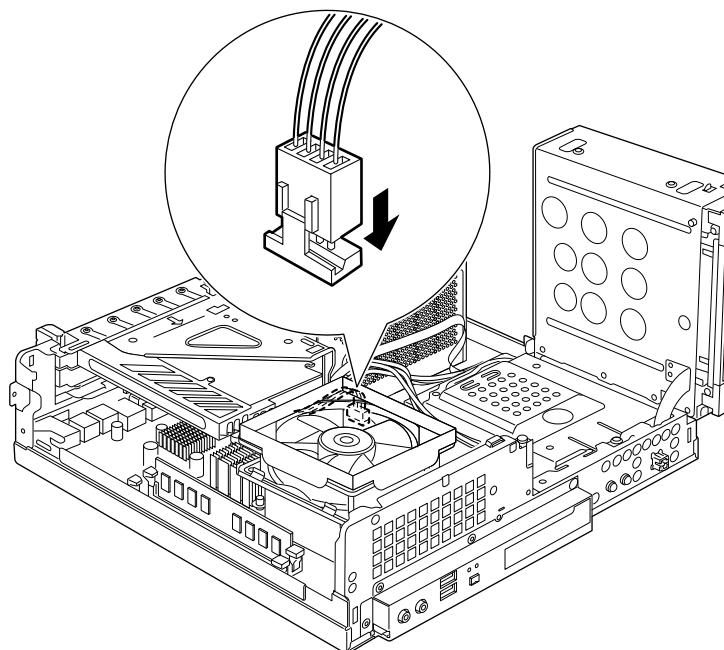
1. ドライブユニットを固定しているネジを取り外します。



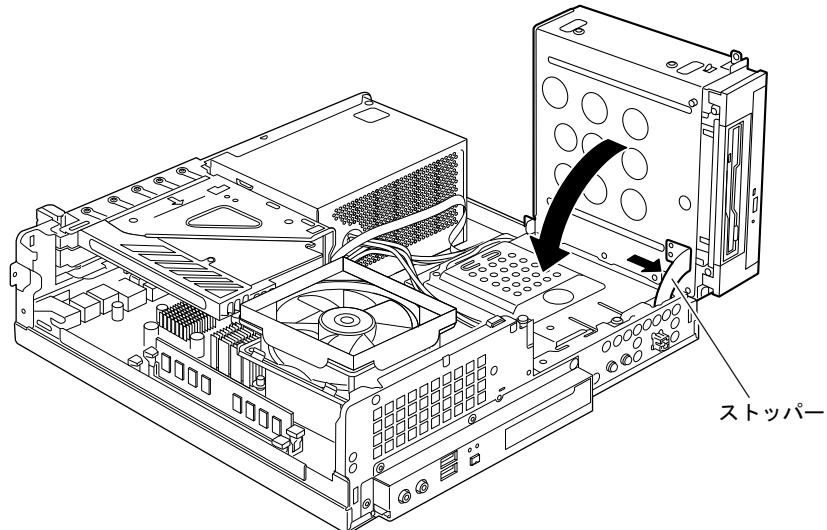
2. ドライブユニットを横に起こします。
カチッと音がするまで起こしてください。



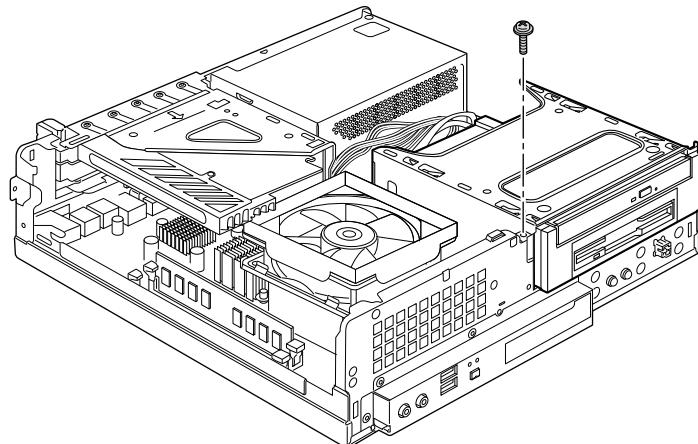
3. 外れているケーブルコネクタを取り付けます。
ケーブルコネクタを取り付けるときは、形状を確認し、形を互いに合わせてまっすぐ差し込んでください。



4. ストップバーを押して、ドライブユニットを元の位置に戻します。



5. 最初に取り外したネジで、ドライブユニットを固定します。



7

10 本体カバーを取り付けます。

フロッピーディスクドライブ

対象 フロッピーディスクドライブ搭載機種

フロッピーディスクドライブは、長い間使用していると、ヘッド（データを読み書きする部品）が汚れてきます。ヘッドが汚れると、フロッピーディスクに記録したデータを正常に読み書きできなくなります。別売のクリーニングフロッピーを使用して、3ヶ月に1回程度の割合でクリーニングしてください。

■用意する物

商品名：富士通 クリーニングフロッピィマイクロ

商品番号：0212116

「富士通 クリーニングフロッピィマイクロ」は、富士通サプライ品です。お問い合わせ先については、『取扱説明書』をご覧ください。

■お手入れのしかた

□ Windows Vista の場合

- 1 クリーニングフロッピーをセットします。
- 2 「スタート」ボタン→「コンピュータ」の順にクリックします。
「コンピュータ」ウィンドウが表示されます。
- 3 「フロッピーディスクドライブ (A:)」をダブルクリックします。
フロッピーディスクドライブのクリーニングが開始されます。
- 4 「ドライブ A: を使うにはフォーマットする必要があります。フォーマットしますか?」のメッセージが表示されたら、「キャンセル」をクリックします。
- 5 フロッピーディスクへのアクセスが終了したことを確認し、クリーニングフロッピーを取り出します。
- 6 「コンピュータ」ウィンドウを閉じます。

□ Windows XP の場合

- 1 クリーニングフロッピーをセットします。
- 2 「スタート」ボタン→「マイコンピュータ」の順にクリックします。
「マイコンピュータ」ウィンドウが表示されます。
- 3 「3.5インチ FD (A:)」をダブルクリックします。
フロッピーディスクドライブのクリーニングが開始されます。
- 4 「ドライブ A のディスクはフォーマットされていません。今すぐフォーマットしますか?」のメッセージが表示されたら、「いいえ」をクリックします。

- 5** フロッピーディスクへのアクセスが終了したことを確認し、クリーニングフロッピーを取り出します。
- 6** 「マイコンピュータ」ウィンドウを閉じます。

2 周辺機器のお手入れ

キーボード

キーボードの汚れは、乾いた柔らかい布で軽く拭き取ってください。

汚れがひどい場合は、水または水で薄めた中性洗剤を含ませた布を、固く絞って拭き取ってください。中性洗剤を使用して拭いた場合は、水に浸した布を固く絞って中性洗剤を拭き取ってください。また拭き取るときは、キーボードに水が入らないよう充分注意してください。

キーボードのキーとキーの間のはこりなどを取る場合は、ゴミを吹き飛ばすのではなく、筆のような、先の柔らかい物を使ってゴミを取ってください。ゴミを吹き飛ばすと、キーボード内部にゴミが入り、故障の原因となる場合があります。また、掃除機などを使って、キーを強い力で引っ張らないでください。

マウス

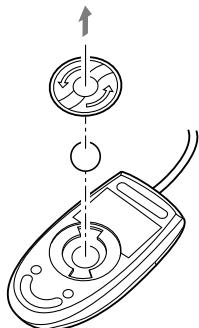
表面の汚れは、柔らかい布でから拭きします。

汚れがひどい場合は、水または水で薄めた中性洗剤を含ませた布を、固く絞って拭き取ってください。中性洗剤を使用して拭いた場合は、水に浸した布を固く絞って中性洗剤を拭き取ってください。また、拭き取るときは、マウス内部に水が入らないよう充分に注意してください。なお、シンナーやベンジンなど揮発性の強いものや、化学ぞうきんは絶対に使わないでください。

また、PS/2 マウスのボールがスムーズに回転しないときは、ボールを取り外してクリーニングします。ボールのクリーニング方法は、次のとおりです。

1 マウスの裏ブタを取り外します。

マウス底面にある裏ブタを、矢印の方向に回して取り外します。

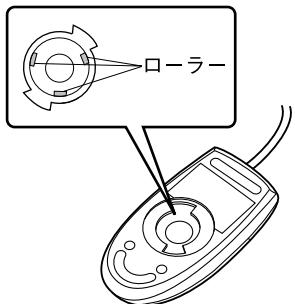


2 ボールを取り出して、水洗いします。

マウスをひっくり返し、ボールを取り出します。その後、ボールを水洗いします。

3 マウス内部をクリーニングします。

マウス内部、および裏ブタを、水に浸して固く絞った布で拭きます。
ローラーは、綿棒で拭きます。



4 ボール、裏ブタを取り付けます。

ボールとマウスの内部を充分乾燥させたら、ボールと裏ブタを取り付けます。

Memo

第8章

トラブルシューティング

おかしいなと思ったときや、わからないことが
あったときの対処方法について説明していま
す。

1	トラブル発生時の基本操作	182
2	よくあるトラブルと解決方法	186
3	それでも解決できないときは	211

1 トラブル発生時の基本操作

トラブルを解決するにはいくつかのポイントがあります。トラブル発生時に対応していただきたい順番に記載しています。

落ち着いて状況を確認する

トラブルが発生したときは、落ち着いて、直前に行った操作や現在のワークステーションの状況を確認しましょう。

■ メッセージなどが表示されたらメモしておく

画面上にメッセージなどが表示されたら、メモしておいてください。マニュアルで該当するトラブルを検索するときや、お問い合わせのときに役立ちます。

■ 本ワークステーションや周辺機器の電源を確認する

電源が入らない、画面に何も表示されない、ネットワークに接続できない、などのトラブルが発生したら、まず本ワークステーションや周辺機器の電源が入っているか確認してください。

- 電源ケーブルや周辺機器との接続ケーブルは正しいコネクタに接続されていますか？ またゆるんだりしていませんか？
- 電源コンセント自体に問題はありませんか？
他の電器製品を接続して動作するか確認してください。
- OA タップを使用している場合、OA タップ自体に問題はありませんか？
他の電器製品を接続して動作するか確認してください。
- 使用する装置の電源ボタンはすべて入っていますか？
ネットワーク接続ができなくなった場合は、ネットワークを構成する機器（サーバー本体やハブなど）の接続や電源も確認してください。
- キーボードの上に物を載せていませんか？
キーが押され、本ワークステーションが正常に動作しないことがあります。
この他、「起動・終了時のトラブル」(→ P.188) の「電源が入らない」、「画面に何も表示されない」もあわせてご覧ください。

■ 以前の状態に戻す

周辺機器の取り付けやソフトウェアのインストールの直後にトラブルが発生した場合は、いつたん以前の状態に戻してください。

- 周辺機器を取り付けた場合は、取り外します。
- ソフトウェアをインストールした場合は、アンインストールします。
その後、製品に添付されているマニュアル、「Readme.txt」などの補足説明書、インターネット上の情報を確認し、取り付けやインストールに関して何か問題がなかったか確認してください。

発生したトラブルに該当する記述があれば、指示に従ってください。

■ Windows を「前回正常起動時の構成」に戻す

問題が発生した周辺機器を取り外したり、ソフトウェアなどをアンインストールしたりしても Windows が起動しない場合は、次の手順で前回起動時の構成に戻してみてください。

- 1 本ワークステーションの電源を入れます。
- 2 「FUJITSU」ロゴが消えたら、【F8】キーを押します。
「詳細ブートオプション」または「Windows 拡張オプションメニュー」が表示されます。
【F8】キーは軽く押しただけでは認識されない場合があります。数回押してください。
- 3 「前回正常起動時の構成（詳細）」または「前回正常起動時の構成（正しく動作した最新の設定）」を選択し、【Enter】キーを押します。
画面の指示に従って操作します。

■ セーフモードで起動する

Windows を「前回正常起動時の構成」に戻しても起動しない場合、セーフモードで起動できるか確認してください。セーフモードは、Windows が正常に起動できないとき、必要最低限の機能で起動するモードです。そのためトラブルの原因を突き止めるのに適しています。
起動方法は次のとおりです。

- 1 本ワークステーションの電源を入れます。
- 2 「FUJITSU」ロゴが消えたら、【F8】キーを押します。
「詳細ブートオプション」または「Windows 拡張オプションメニュー」が表示されます。
【F8】キーは軽く押しただけでは認識されない場合があります。数回押してください。
- 3 次の操作を行います。
 - Windows Vista の場合
 1. 「セーフモード」を選択し、【Enter】キーを押します。
 2. 管理者権限をもったユーザーとしてログオンします。
パスワードを設定している場合は、パスワードを入力してログオンします。
「Windows ヘルプとサポート」ウィンドウが表示されます。
 - Windows XP の場合
 1. 「セーフモード」を選択し、【Enter】キーを押します。
「オペレーティングシステムの選択」が表示されます。
 2. お使いの Windows が選択されていることを確認し、【Enter】キーを押します。
 3. 管理者権限をもったユーザーとしてログオンします。
「Administrator パスワード」を設定している場合は、パスワードを入力してログオンします。
「Windows はセーフモードで実行されています。」と表示されます。
 4. 「はい」をクリックします。

トラブルシューティングで調べる

「よくあるトラブルと解決方法」(→ P.186) は、よくあるトラブルの解決方法が記載されています。発生したトラブルの解決方法がないかご覧ください。

インターネットで調べる

弊社の富士通製品情報ページ (http://www.fmworld.net/biz/fmv/index_support.html) では、本ワークステーションに関連したサポート情報やドライバを提供しております。また、注意事項や補足情報を公開しています。解決方法がないかご覧ください。

診断プログラムを使用する

Windows が起動しなくなったときは、BIOS の起動メニューから起動診断プログラムを使用することで、ワークステーションの障害箇所を診断できます。

診断後にエラーコードが表示された場合はメモしておき、「富士通ハードウェア修理相談センター」にお問い合わせのときにお知らせください。

診断時間は通常 5 ~ 10 分程度ですが、診断するワークステーションの環境によっては長時間かかる場合があります。

※ 重要

- ▶ BIOS の設定をご購入時の状態に戻してください。
診断プログラムを使用する前に、必ず、BIOS をご購入時の状態に戻してください。詳しくは、『取扱説明書』をご覧ください。
- ▶ 診断プログラムを使用する前に周辺機器を取り外してください。
USB メモリや外付けハードディスクなど、ハードディスクやリムーバブルディスクと認識される周辺機器は、診断を行う前に外してください。

- 1 本ワークステーションの電源を切り、再度電源を入れます。
- 2 「FUJITSU」ロゴの下に文字が表示されている間に【F12】キーを押します。
「起動メニュー」が表示されます。表示されない場合は、すぐに【Ctrl】 + 【Alt】 + 【Delete】キーを押して本ワークステーションを再起動してください。

POINT

- ▶ ディスプレイの種類によっては画面の表示が遅く、「FUJITSU」ロゴの表示が確認できない場合があります。
その場合は、本ワークステーションの再起動後に【F12】キーを数回押してください。
- ▶ 「起動メニュー」が表示されない場合は、本ワークステーションを再起動してもう一度操作してください。

- 3 【↑】キーまたは【↓】キーを押し、「診断プログラム」を選択し、【Enter】キーを押します。
「診断プログラムを実行しますか？」と表示されます。
- 4 【Y】キーを押します。
ハードウェア診断が始まります。
ハードウェア診断が終了すると、診断結果が表示されます。診断結果が表示される前に、自動的にワークステーションが再起動する場合があります。

5 次の操作を行います。

● **トラブルが検出されなかった場合**

【Enter】キーを押してください。「富士通ハードウェア診断ツール」 ウィンドウと「注意事項」 ウィンドウが表示されます。

手順 6 に進んでください。

● **トラブルが検出された場合**

画面に表示された内容をメモなどに控え、お問い合わせのときにお伝えください。

その後、キーボードの【Y】キーを押してワークステーションの電源を切ってください。

6 「注意事項」 ウィンドウの内容を確認し、「OK」 をクリックして閉じます。

7 診断したいアイコンにチェックが入っていることを確認し、「実行」 をクリックします。

ハードウェア診断が始まります。

 **POINT**

▶ 「[ハードウェア名] に [媒体] をセットしてください」などと表示された場合、本ワークステーションに添付の、メッセージに表示されたディスク（「ドライバーズディスク & ユーティリティディスク」など）をセットして、「診断開始」をクリックしてください。診断を取りやめる場合は、「スキップ」をクリックしてください。

8 「診断結果」 ウィンドウに表示された内容を確認します。

表示された内容に従って操作してください。エラーコードが表示された場合には、メモなどに控え、お問い合わせのときにお伝えください。

9 「診断結果」 ウィンドウで「閉じる」 をクリックします。

「富士通ハードウェア診断ツール」 ウィンドウに戻ります。

10 「終了」 をクリックします。

「終了」 ウィンドウが表示されます。

11 「はい」 をクリックします。

「システム回復オプション」 ウィンドウが表示されます。

12 「システム回復オプション」 ウィンドウで「キャンセル」 をクリックします。

ワークステーションを再起動するメッセージが表示されたら、「はい」 をクリックします。

ワークステーションが再起動して、診断プログラムが終了します。

サポートの窓口に相談する

本章をご覧になり、トラブル解決のための対処をした後も回復しない場合には、「それでも解決できないときは」（→ P.211）をご覧になりサポートの窓口に相談してください。

2 よくあるトラブルと解決方法

トラブル一覧

■ 起動・終了時のトラブル

- 「電源が入らない」(→ P.188)
- 「メッセージが表示された」(→ P.188)
- 「ビープ音が鳴った」(→ P.188)
- 「画面に何も表示されない」(→ P.189)
- 「Windows が起動しない」(→ P.190)
- 「マウスが使えないため、Windows を終了できない」(→ P.190)
- 「Windows が動かなくなってしまい、電源が切れない」(→ P.191)

■ Windows・ソフトウェア関連のトラブル

- 「Windows にログオンできない」(→ P.191)
- 「プログラムが動かなくなってしまった」(→ P.192)
- 「Windows やソフトウェアの動作が遅くなった」(→ P.192)
- 「省電力機能が実行されない」(→ P.192)
- 「周辺機器の動作が不安定になった」(→ P.192)
- 「システムのプロパティ」ウィンドウの「ハードウェア」タブの「デバイスマネージャ」で、「不明なデバイス」がある」(→ P.193)
- 「ソフトウェアのインストールが正常に行われない」(→ P.193)
- 「画面右下の通知領域にソフトウェアのアイコンが表示されない」(→ P.193)

■ ハードウェア関連のトラブル

□ BIOS

- 「管理者用パスワードを忘れてしまった」(→ P.194)
- 「ユーザー用パスワードを忘れてしまった」(→ P.194)
- 「エラーメッセージが表示された」(→ P.194)

□ メモリ

- 「仮想メモリが足りない」(→ P.195)

□ 内蔵 LAN

- 「ネットワークに接続できない」(→ P.196)
- 「ネットワーククリソースに接続できない」(→ P.197)
- 「ネットワークアダプタ名が同じ名前で表示される」(→ P.198)
- 「1000BASE-T を使用しているが、速度が遅い」(→ P.199)

□ ハードディスク

- 「ハードディスクが使えない」 (→ P.199)
- 「ハードディスクからカリカリ音がする」 (→ P.199)
- 「頻繁にフリーズするなど動作が不安定になる」 (→ P.200)

□ デバイス

- 次の「機器が使用できない」 (→ P.201)
 - ・ USB
 - ・ IEEE1394a
 - ・ CD/DVD
 - ・ フロッピーディスク
 - ・シリアル
 - ・パラレル

□ CD/DVD

- 「ディスクからデータの読み出しができない」 (→ P.201)
- 「ディスクが取り出せない」 (→ P.202)
- 「WinDVD が起動しない」 (→ P.202)
- 「DVD の再生が円滑に行われない」 (→ P.202)
- 「デジタルディスプレイに再生画面が表示されない」 (→ P.203)
- 「DVD の再生音が小さい」 (→ P.203)
- 「DVD-RAM ディスクにデータが書き込めない」 (→ P.203)
- 「ディスクへの書き込み速度が遅い」 (→ P.203)

□ フロッピーディスク

- 「フロッピーディスクが使えない」 (→ P.204)
- 「フロッピーディスクを 1.44MB 以外の容量にフォーマットできない」 (→ P.204)

□ ディスプレイ

- 「画面に何も表示されない」 (→ P.204)
- 「ディスプレイの表示が見にくい」 (→ P.204)
- 「表示が乱れる」 (→ P.205)
- 「画面の両サイドが欠ける」 (→ P.205)
- 「その他のトラブルが発生した」 (→ P.205)

□ サウンド

- 「スピーカーから音が出ない、音が小さい、または音が割れる」 (→ P.206)

□ キーボード

- 「キーボードから入力した文字が表示されない」 (→ P.206)
- 「押したキーと違う文字が入力される」 (→ P.206)

□ マウス

- 「マウスポインタが動かない」 (→ P.207)
- 「マウスポインタが正しく動作しない」 (→ P.207)
- 「マウスの中ボタンが動作しない」 (→ P.207)

- 「マウスが使えないため、Windows を終了できない」(→ P.207)

□ USB

- 「USB デバイスが使えない」(→ P.208)
- 「USB デバイスが使えず、「デバイスマネージャ」で確認すると「! (エクスクラメーションマーク)」が表示される」(→ P.208)

□ IEEE1394a

- 「IEEE1394a デバイスが使えない」(→ P.209)
- 「IEEE1394a デバイスが使えず、「デバイスマネージャ」で確認すると「! (エクスクラメーションマーク)」が表示される」(→ P.209)

□ プリンタ

- 「プリンタを使用できない」(→ P.210)

□ その他

- 「使用中の製品に関する最新情報を知りたい」(→ P.210)

起動・終了時のトラブル



電源が入らない

- 電源ケーブルは接続されていますか？
接続を確認してください。
- ワークステーション本体背面または左側面のメインスイッチはオンになっていますか？
- 電源スイッチのある OA タップをお使いの場合、OA タップの電源は入っていますか？



メッセージが表示された

- 電源を入れた後の自己診断 (POST) 時に、画面にメッセージが表示される場合があります。
メッセージ内容と意味については、『取扱説明書』の「必要に応じてお読みください」－「エラーについて」－「エラーメッセージ」をご覧ください。



ビープ音が鳴った

- 電源を入れた後の自己診断 (POST) 時に、ビープ音が鳴る場合があります。
ビープ音が鳴る原因と対処方法は、『取扱説明書』の「必要に応じてお読みください」－「エラーについて」－「エラーメッセージ」をご覧ください。



画面に何も表示されない

- ワークステーション本体の電源は入っていますか？
- ワークステーション本体背面または左側面のメインスイッチはオンになっていますか？
- ディスプレイに関して次の項目を確認してください。
 - ・電源スイッチは入っていますか？
 - ・ディスプレイケーブルは、正しく接続されていますか？
 - ・ディスプレイケーブルのコネクタのピンが破損していませんか？
 - ・ディスプレイの電源ケーブルは、アウトレットまたはコンセントに接続されていますか？
ディスプレイのライトネス／コントラストボリュームは、正しく調節されていますか？
- デジタルディスプレイを使用する場合、ワークステーション本体の電源を入れる前に、ディスプレイの電源を入れていますか？
- HDCP (High-bandwidth Digital Content Protection) に対応していないデジタルディスプレイを使用し、著作権保護のされた映像を再生していませんか？
HDCP に対応したデジタルディスプレイをお使いください。
また、DVD の再生には HDCP に対応した「WinDVD」をお使いください。DVD-ROM ドライブ、またはスーパーマルチドライブ搭載機種に添付される「WinDVD」は HDCP に対応しています。
なお、「WinDVD」での再生時は、2 台のディスプレイに同時に表示することはできません。
- グラフィックスカードへの補助電源ケーブルを正しく接続していますか？
Quadro FX 3800 および Quadro FX 4800 の場合、グラフィックスカードへの補助電源ケーブルが正しく接続されているか確認してください。
- 省電力モードが設定されていませんか？
マウスを動かすか、どれかキーを押してください。
ワークステーション本体の電源ランプがオレンジ色になっている場合は、スリープ状態（Windows Vista の場合）またはスタンバイ（Windows XP の場合）に移行している可能性があります。ワークステーション本体の電源ボタンを押してください。
電源ボタンを押してから 30 秒以上たっても画面に何も表示されない場合、電源ボタンを 4 秒以上押し続け、電源を一度切ってください。この後、すぐに電源を入れる場合は、30 秒以上時間をあけてください。
- 電源ボタンを押す以外の方法で本ワークステーションをスリープまたはスタンバイからリジュームさせた場合、画面は表示されません。
詳しくは、「取り扱い」－「スリープ／休止状態の使い方」（→ P.69）または「取り扱い」－「スタンバイ／休止状態の使い方」（→ P.77）をご覧ください。
マウスを動かすか、どれかキーを押してください。画面が表示されます。
- 複数台のディスプレイを接続している場合、次の項目を確認してください。
 - ・2 台目のディスプレイを使用する場合、ワークステーション本体の電源を入れる前に、ディスプレイの電源を入れていますか？
 - ・セットアップ前に、2 台目のディスプレイを接続していませんか？
必ずセットアップ後に接続してください。
 - ・「取り扱い」－「2 台目のディスプレイ」（→ P.47）をご覧になり、設定を確認してください。
- メモリなどの周辺機器は正しく取り付けられていますか？
 - ・「周辺機器の設置／設定／増設」－「メモリ」（→ P.88）をご覧ください。



Windows が起動しない

- 周辺機器を取り付けませんでしたか？

いったん周辺機器を取り外し、Windows が起動するか確認してください（→ P.182）。もし起動するようであれば、周辺機器の取り付け方法が正しいか、もう一度確認してください。

- セーフモードで起動できますか？

いったんセーフモードで起動し（→ P.183）、問題を解決（ドライバの再インストールなど）してください。

- Windows Vista 起動時に「スタートアップ修復」ウィンドウが表示された場合は、Windows が起動するまでそのままお待ちください。

Windows Vista を正常に終了できなかった場合、次回起動時に「スタートアップ修復」ウィンドウが表示され、Windows Vista の修復が行われることがあります。修復後は自動的に再起動されます。

- Windows 起動時にセーフモードになり「キーボードの選択」画面が表示された場合は、そのままセーフモードで起動してください。

Windowsを正常に終了できなかった場合、次回起動時に自動的にセーフモードになり、「キーボードの選択」画面が表示されることがあります。この場合、そのままセーフモードで起動し、起動が完了したら本ワークステーションを再起動してください。

- 診断プログラムでワークステーションの診断をしてください（→ P.184）。

診断結果をメモして、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。



マウスが使えないため、Windows を終了できない

- キーボードを使って Windows を終了させることができます。

- Windows Vista の場合

1. 【Windows】キーまたは【Ctrl】+【Esc】キーを押します。
「スタート」メニューが表示されます。

2. カーソルキーで | | の を選択し、「シャットダウン」を選び【Enter】キーで決定を行うことで Windows の終了操作を行います。

- Windows XP の場合

1. 【Windows】キーまたは【Ctrl】+【Esc】キーを押します。
「スタート」メニューが表示されます。

2. 【↑】キーまたは【↓】キーを押して終了メニューの選択、【Enter】キーを押して決定を行うことで Windows の終了操作を行います。

マウスが故障している場合は、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元に連絡してください。



Windows が動かなくなってしまい、電源が切れない

- 次の手順で Windows を終了させてください。

1. 【Ctrl】 + 【Alt】 + 【Delete】キーを押します。

2. Windows を終了します。

- Windows Vista の場合

表示された画面の右下にある「シャットダウン」をクリックします。

- Windows XP で「Windows タスクマネージャ」ウィンドウが表示された場合

「シャットダウン」メニュー→「コンピュータの電源を切る」の順にクリックします。

- Windows XP で「Windows のセキュリティ」ウィンドウが表示された場合

「シャットダウン」をクリックし、「Windows のシャットダウン」ウィンドウが表示されたら、「シャットダウン」を選択して「OK」をクリックします。

POINT

- ▶ 強制終了した場合には、プログラムでの作業内容を保存することはできません。
- ▶ 強制終了した場合は、ハードディスクのチェックをお勧めします（→ P.200）。

もしこの操作で強制終了できないときは、電源ボタンを 4 秒以上押して電源を切り、30 秒以上待ってから電源を入れてください。

Windows・ソフトウェア関連のトラブル

ここでは、Windows、ソフトウェアに関するトラブルを説明します。トラブルにあわせてご覧ください。



Windows にログオンできない

- セキュリティチップを使用して「SMARTACCESS/Basic」による機器監査機能を使用している場合、ハードウェアの構成を変更すると、Windows にログオンできなくなります。この場合、ハードウェアの構成を登録したときの設定に戻すか、機器構成を登録し直す必要があります。

機器監査機能については、『SMARTACCESS ファーストステップガイド（認証デバイスをお使いになる方へ）』をご覧ください。

- セキュリティチップを使用して Windows にログオンしている場合、BIOS セットアップの設定を次のようにすると、Windows にログオンできなくなります。この場合、BIOS セットアップの設定を「使用する」に設定し直してください。

・「セキュリティ」メニュー→「TPM（セキュリティチップ）設定」→「セキュリティチップ」を「使用しない」に設定する。

- 認証デバイスを忘れたり、紛失したり、破損したりして、Windows にログオンできないときは、『SMARTACCESS ファーストステップガイド（認証デバイスをお使いになる方へ）』をご覧ください。



プログラムが動かなくなってしまった

- 次の手順でプログラムを終了させてください。
 1. 【Ctrl】 + 【Shift】 + 【Esc】 キーを押します。
「Windows タスクマネージャ」 ウィンドウが表示されます。
 2. 「アプリケーション」 タブをクリックします。
 3. 動かなくなったプログラムを選択し、「タスクの終了」 をクリックします。
プログラムが強制終了されます。
「Windows タスクマネージャ」 ウィンドウの右上にある「閉じる」 をクリックして、
ウィンドウを閉じます。



- ▶ プログラムを強制終了した場合、プログラムでの作業内容を保存することはできません。
- ▶ プログラムを強制終了した場合は、ハードディスクのチェックをお勧めします（→ P.200）。



Windows やソフトウェアの動作が遅くなった

- カスタムメイドで SATA-RAID を選択した場合は、『SATA-RAID をお使いの方へ』をご覧ください。



省電力機能が実行されない

- 電源オプションの設定を確認してください。
省電力機能について、詳しくは、「取り扱い」 – 「スリープ／休止状態（Windows Vista の場合）」（→ P.65）、または「取り扱い」 – 「スタンバイ／休止状態とは」（→ P.74）をご覧ください。



周辺機器の動作が不安定になった

- なんらかの理由でドライバが削除されているか破損している場合があります。
「ソフトウェア」 – 「インストール」（→ P.131）をご覧になり、ドライバを再インストールしてください。



「システムのプロパティ」ウィンドウの「ハードウェア」タブの「デバイスマネージャ」で、「不明なデバイス」がある

- 「富士通拡張機能ユーティリティ」で使用される「FUJ02E3 デバイスドライバ」がインストールされていない可能性があります。「デバイスマネージャ」の「システムデバイス」に「Fujitsu FUJ02E3 DeviceDriver」が表示されているかどうかを確認してください。
表示されていない場合は、「FUJ02E3デバイスドライバ」をインストールしてください。
インストール方法は次のとおりです。
 - Windows Vista Business (32 ビット版)、Windows XP Professional の場合
「ドライバーズディスク & ユーティリティディスク」をセットし、「ドライバーズディスク検索ツール」(→ P.131) で表示される「一覧」で「富士通拡張機能ユーティリティ」を選択します。
Windows Vista Business (32 ビット版) の場合、表示されたフォルダ内の「Vista」フォルダ→「FUJ02E3.txt」をご覧ください。
 - Windows XP Professional の場合、表示されたフォルダ内の「XP」フォルダ→「FUJ02E3.txt」をご覧ください。
- Windows Vista Business (64 ビット版) (N465 のみ)、Windows XP Professional x64 Edition (N465 のみ) の場合
「ドライバーズディスク & ユーティリティディスク」をセットし、「ドライバーズディスク検索ツール」(→ P.131) で表示される「一覧」で「FUJ02E3 デバイスドライバ」を選択します。表示されたフォルダ内の「FUJ02E3.txt」をご覧ください。



ソフトウェアのインストールが正常に行われない

- ウイルス対策ソフトを起動している場合、その影響が考えられます。
ウイルス対策ソフトを終了させ、ソフトウェアのインストールができるか試してください。
ウイルス対策ソフトを終了させててもインストールが正常に行われないときは、各ソフトウェアのサポート窓口にお問い合わせください。



画面右下の通知領域にソフトウェアのアイコンが表示されない

- Windows を起動した後、通知領域に表示されるはずのソフトウェアのアイコンが表示されないことがあります。
通知領域にアイコンが表示されなかったソフトウェアをお使いになる場合は、次のいずれかの方法を実行してください。
 - ・「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」の順にクリックし、表示されるメニューからソフトウェアを選択する
 - ・Windows Vista の場合、「スタート」ボタン→ [] →「再起動」の順にクリックし、Windows を再起動する

- Windows XP の場合は、「スタート」ボタン→「終了オプション」→「再起動」の順にクリックし、Windows を再起動する

 POINT

- Windows を起動した後、通知領域にアイコンが表示されなかった場合、ソフトウェアによっては起動できなかったことを通知するメッセージが表示されることがあります。この場合、メッセージに従って、Windows を再起動してください。

ハードウェア関連のトラブル

■ BIOS



管理者用パスワードを忘れてしまった

- 管理者用パスワードを忘ると、BIOS セットアップを管理者権限で起動することができなくなり、項目の変更やパスワード解除ができなくなります。この場合は、修理が必要となりますので「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。なお、保証期間にかかるわらず修理は有償となります。



ユーザー用パスワードを忘れてしまった

- ユーザー用パスワードを忘れた場合は、修理の必要はありません。ワークステーションの管理者に管理者用パスワードをいったん削除してもらった後、管理者用パスワード、ユーザー用パスワードの順にパスワードを設定し直してください。
パスワードの設定方法については、「BIOS」－「BIOS のパスワード機能を使う」(→ P.157)をご覧ください。



エラーメッセージが表示された

- ワークステーション本体起動時に、画面にエラーメッセージが表示される場合があります。エラーメッセージの内容については、「BIOS」－「BIOS イベントログに記録されるエラーメッセージ一覧」(→ P.162)をご覧ください。

■ メモリ



仮想メモリが足りない

- 仮想メモリ（ページングファイル）を設定してください。

仮想メモリの設定を行うには、仮想メモリの「最大サイズ」分の空き容量がハードディスクに必要です。本体搭載メモリ容量が大きい場合などに、選択したドライブに充分な空き容量がないときは、別のドライブに設定してください。

ただし、ブートパーティション以外に設定する場合、あるいはページングファイルサイズが小さい場合などは、メモリダンプをファイルに出力できなくなります。ダンプファイルを取得する場合は、システムドライブに最低でも物理メモリ + 1MB（仮想メモリの容量は含まず）の空き容量が必要です。

POINT

- ▶ 搭載メモリサイズによっては、推奨サイズを設定できない場合があります。その場合は、パーティションタイプを変更するか、ブートパーティション以外のパーティションに設定してください。

ファイル形式	ファイルサイズ上限	備考
NTFS	パーティションサイズと同じ	ご購入時のブートパーティション

- ▶ 仮想メモリの推奨値は、次のとおりです。

初期サイズ：本体搭載メモリの 1.5 倍

最大サイズ：初期サイズの 2 倍

・ Windows Vista の場合

1. 管理者権限をもったユーザーとしてログオンします。
2. 「スタート」ボタン→「コントロールパネル」の順にクリックします。
「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます
3. 「システムとメンテナンス」→「システム」の順にクリックします。
「システム」ウィンドウが表示されます。
4. 「システム」ウィンドウの左画面の「システムの詳細設定」をクリックします。
「ユーザーアカウント制御」ウィンドウが表示されます。
5. 「続行」をクリックします。
「続行」が表示されず「管理者アカウント」が表示されている場合は、そのアカウントのパスワードを入力してから「OK」をクリックします。
「システムのプロパティ」ウィンドウが表示されます。
6. 「詳細設定」タブをクリックし、「パフォーマンス」の「設定」をクリックします。
「パフォーマンスオプション」ウィンドウが表示されます。
7. 「詳細設定」タブをクリックし、「仮想メモリ」の「変更」をクリックします。
「仮想メモリ」ウィンドウが表示されます。
8. 「すべてのドライブのページングファイルのサイズを自動的に管理する」のチェックを外します。
9. ページングファイルが保存されているドライブを変更する場合は、「ドライブ」の一覧で変更するドライブをクリックします。
システムドライブに充分な空き容量がある場合は、ドライブの変更は必要ありません。

10. 「カスタムサイズ」をクリックし、「初期サイズ」または「最大サイズ」を適切な値に変更し、「設定」をクリックします。
 11. 「OK」をクリックし、すべてのウィンドウを閉じます。
 12. 本ワークステーションを再起動します。
- Windows XP の場合
 1. 管理者権限をもったユーザーとしてログオンします。
 2. 「スタート」ボタンをクリックし、「マイコンピュータ」を右クリックして「プロパティ」をクリックします。
「システムのプロパティ」 ウィンドウが表示されます。
 3. 「詳細設定」タブをクリックし、「パフォーマンス」の「設定」をクリックします。
「パフォーマンスオプション」 ウィンドウが表示されます。
 4. 「詳細設定」タブをクリックします。
 5. 「仮想メモリ」の「変更」をクリックします。
「仮想メモリ」 ウィンドウが表示されます。
 6. ページングファイルが保存されているドライブを変更する場合は、「ドライブ」の一覧で変更するドライブをクリックします。
システムドライブに充分な空き容量がある場合は、ドライブの変更は必要ありません。
 7. 「選択したドライブのページングファイルサイズ」の「初期サイズ」または「最大サイズ」を適切な値に変更し、「設定」をクリックします。
 8. 「OK」をクリックし、すべてのウィンドウを閉じます。
 9. 本ワークステーションを再起動します。

■ 内蔵 LAN



ネットワークに接続できない

- ネットワークケーブルは正しく接続されていますか？
ワークステーション本体との接続、ハブとの接続を確認してください。
- ネットワークケーブルに関して次の項目を確認してください。
 - ・ケーブルのコネクタやケーブルは損傷していませんか？
 - ・使用するネットワーク環境に適合したケーブルをお使いください。
- 内蔵 LAN に関して次の項目を確認してください。
 - ・LAN ドライバは正しくインストールされていますか？
必要に応じて、「ソフトウェア」 - 「インストール」（→ P.131）をご覧になり、再インストールしてください。
 - TCP/IP プロトコルをお使いの場合は、コマンドプロンプトで次のように入力し、「Reply from ~」という応答が表示されるか確認してください。

```
ping nnn.nnn.nnn.nnn
```

(nnn には通信相手の IP アドレスを入力します)
 - ハブに関して次の項目を確認してください。
 - ・電源は入っていますか？
 - ・ACT/LNK ランプは点灯していますか？
 - ・Speed (1Gbps/100Mbps/10Mbps/Auto)、Duplex (Full/Half/Auto) の設定は、ワークステーション側の設定とありますか？

- スリープや休止状態（Windows Vista の場合）、またはスタンバイや休止状態（Windows XP の場合）にしませんでしたか？

LAN 機能を使ってネットワークに接続中は、スリープや休止状態（Windows Vista の場合）、またはスタンバイや休止状態（Windows XP の場合）にしないことをお勧めします。お使いの環境によっては、ネットワークへの接続が正常に行われない場合があります。

設定方法については、「取り扱い」—「スリープ／休止状態（Windows Vista の場合）」（→ P.65）、または「取り扱い」—「スタンバイ／休止状態（Windows XP の場合）」（→ P.74）をご覧ください。

- ネットワーク機器の電源をオンにしてから本ワークステーションの電源を入れてください。また、本ワークステーションをご使用中に LAN ケーブルを抜いたり、ネットワーク機器の電源をオフにしたりしないでください。

ネットワーク機器との接続ができなくなったり、通信速度がおかしくなったりする場合があります。

例：1Gbps で通信していたのに 10Mbps の速度になる

ネットワーク機器との接続ができない場合は、ネットワーク機器の電源が入っていること、および LAN ケーブルで本ワークステーションとネットワーク機器が接続されていることをご確認後、ワークステーション本体を再起動してください。

- Link 速度を 100/10Mbps に固定して接続できます。Link 速度を固定して接続する場合、AutoNegotiation のみサポートしているネットワーク機器では、「デュプレックス」の設定は「半二重／Half Duplex」に設定してください。

「全二重／Full Duplex」に設定すると、次のような問題が発生する場合があります。

- Link ランプが点灯しない
- 通信できない
- 通信速度が異常に遅い

重要

- ▶ Link 速度を 1Gbps に固定して接続することはできません。



ネットワークリソースに接続できない

- 各種サーバーに接続できない場合は、ネットワーク管理者に原因を確認してください。一般的に、次の点を確認します。

- お使いのネットワークに適したコンポーネント（クライアント / サービス / プロトコル）をインストールしていますか？
- 各コンポーネントの設定は、正しいですか？
- サーバーにアクセスするためのユーザー名やパスワードは正しいですか？
- サーバーにアクセスする権限を与えられていますか？
- サーバーがなんらかの理由で停止していませんか？



ネットワークアダプタ名が同じ名前で表示される

- 複数 LAN カードを使用している場合、デバイスマネージャで表示されるネットワークアダプタ名が同じ名前で表示され、ネットワークアダプタの判別が困難なため、設定環境の構築ができないことがあります。

この場合、次の手順によりネットワークアダプタを判別し、設定を行います。なお、設定内容については、ドライバに添付されている「Readme.txt」および「Install.txt」を参照してください。

- Windows Vista の場合

1. 「スタート」ボタン→「コントロールパネル」の順にクリックします。
「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。
2. 「ネットワークとインターネット」をクリックします。
「ネットワークとインターネット」ウィンドウが表示されます。
3. 「ネットワークと共有センター」をクリックします。
「ネットワークと共有センター」ウィンドウが表示されます。
4. ウィンドウ左の「ネットワーク接続の管理」をクリックします。
「ネットワーク接続」ウィンドウが表示されます。
5. 使用しているどちらか片方の LAN ケーブルを外します。
LAN ケーブルを外すと、「ローカルエリア接続」に赤い×が表示されます。
6. 赤い×が表示された「ローカルエリア接続」を右クリックし「プロパティ」をクリックします。
「ユーザー アカウント制御」ウィンドウが表示されます。
7. 「続行」をクリックします。
「続行」が表示されず「管理者アカウント」が表示されている場合は、そのアカウントのパスワードを入力してから「OK」をクリックします。
「ローカルエリア接続のプロパティ」ウィンドウが表示されます。
8. 「構成」をクリックします。
「[お使いの LAN デバイス] のプロパティ」ウィンドウが表示されます。

- Windows XP の場合

1. 「スタート」ボタン→「コントロールパネル」の順にクリックします。
「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。
2. 「ネットワークとインターネット接続」をクリックします。
「ネットワークとインターネット接続」ウィンドウが表示されます。
3. 「ネットワーク接続」をクリックします。
「ネットワーク接続」ウィンドウが表示されます。
4. 使用しているどちらか片方の LAN ケーブルを外します。
LAN ケーブルを外すと、「ローカルエリア接続」に赤い×が表示されます。
5. 赤い×が表示された「ローカルエリア接続」を右クリックし「プロパティ」をクリックします。
「ローカルエリア接続のプロパティ」ウィンドウが表示されます。

6. 「構成」をクリックします。
「[お使いの LAN デバイス] のプロパティ」ウィンドウが表示されます。

 **POINT**

- ▶ LAN デバイスの設定は、「詳細設定」タブで行います。
- ▶ ドライバの更新は、「ドライバ」タブで行います。



1000BASE-T を使用しているが、速度が遅い

- LAN デバイスで速度は正しく設定されていますか？
- お使いのネットワークケーブルやハブは 1000BASE-T に対応していますか？
- 通信相手の機器は 1000BASE-T に対応していますか？
- ネットワーク機器の電源をオンにしてから本ワークステーションの電源を入れてください。また、本ワークステーションをご使用中に LAN ケーブルを抜いたり、ネットワーク機器の電源をオフにしたりしないでください。

ネットワーク機器との接続ができなくなったり、通信速度がおかしくなったりする場合があります。

例：1Gbps で通信していたのに 10Mbps の速度になる

ネットワーク機器との接続ができない場合は、ネットワーク機器の電源が入っていること、および LAN ケーブルで本ワークステーションとネットワーク機器が接続されていることをご確認後、ワークステーション本体を再起動してください。

■ ハードディスク



ハードディスクが使えない

- エラーメッセージは出ていますか？
「BIOS」—「BIOS イベントログに記録されるエラーメッセージ一覧」(→ P.162) をご覧ください。



ハードディスクからカリカリ音がする

- 次のような場合に、ハードディスクからカリカリという音がすることがあります。
 - ・ Windows を終了した直後
 - ・ スリープ状態や休止状態（Windows Vista の場合）、またはスタンバイ状態や休止状態（Windows XP の場合）にした直後
 - ・ ワークステーションの操作を一時中断した場合（ハードディスクアクセスが数秒間なかった場合）
 - ・ 中断した状態から再度ワークステーションを操作させた場合

- ワークステーションを操作しない場合でも、常駐しているソフトウェアなどが動作した場合（ハードディスクアクセスされた場合）
これらはハードディスクの特性です。故障ではありませんので、そのままお使いください。



頻繁にフリーズするなど動作が不安定になる

- 次の手順でハードディスクをチェックしてください。
 - 実行中のプログラムをすべて終了します。
 - 「スタート」ボタン→「コンピュータ」または「マイコンピュータ」の順にクリックします。
 - プログラムをインストールしてあるディスクを右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
 - 「ツール」タブをクリックし、「エラーチェック」の「チェックする」をクリックします。
Windows Vista で、「ユーザー アカウント制御」ウィンドウが表示された場合は、「続行」をクリックします。
「続行」が表示されず「管理者アカウント」が表示されている場合は、そのアカウントのパスワードを入力してから「OK」をクリックします。
 - 「チェックディスクのオプション」内の項目をチェックし、「開始」をクリックします。
チェック後は、内容を確認し、「閉じる」または「OK」をクリックしてすべてのウィンドウを閉じます。
修復してもトラブルが頻繁に発生する場合は、リカバリを実行してください（『取扱説明書』）。

「チェックディスクのオプション」内の項目については、次をご覧ください。

 - 「ファイルシステムエラーを自動的に修復する」をチェックして C ドライブを検査する場合
「次回コンピュータ起動時にハードディスクのエラーを検査しますか？」または「次回のコンピュータの再起動後に、このディスクの検査を実行しますか？」と表示されます。
「ディスク検査のスケジュール」または「はい」をクリックすると、次回 Windows 起動時にエラーのチェックが行われます。
 - 上記以外の項目をチェックした場合
ディスクのチェックが開始されます。

終了すると、検査結果のメッセージが表示されます。
- C ドライブの空き容量が充分か確認してください。
Windows のシステムファイルが格納されている C ドライブの空き容量が少ないと、Windows の動作が不安定になることがあります。
C ドライブの空き容量が少ない場合は、空き容量を増やしてください。
空き容量を増やすには次のような方法があります。
 - ごみ箱を空にする
ファイルを削除しても「ごみ箱」に移動されるだけなので、ハードディスクの中にはデータが残っています。「ごみ箱」を空にしてください。

- ・不要なファイルを削除する

自分で作成したファイルのうち、不要になったファイルを削除します。

ファイルのサイズや最後に更新した日付などを確認しながら削除してください。

自分で作ったファイル以外は、削除しないことをお勧めします。内容がよくわからないファイルをむやみに削除してしまうと、他のソフトウェアが影響を受け、正しく動作しなくなる場合があります。

- ・不要なソフトウェアを削除する

普段使用していないソフトウェアがある場合は削除します。

- ・ディスククリーンアップをする

インターネットからダウンロードしたプログラムファイル、テンポラリインターネットファイル、削除して「ごみ箱」に移動したファイル、一時ファイル、カタログファイルなど、たまたま使用済みファイルの容量を確認し、不要なものを選択して削除できます。

■ デバイス



機器が使用できない

- Portshutter のポート設定は、有効になっていますか？

次の機器が使用できない場合は、システム管理者に Portshutter のポート設定が有効になっているか確認してください。

情報漏えいや不正プログラムの導入を防ぐために、Portshutter を使用して接続ポートを無効に設定している場合があります。

- ・USB
- ・IEEE1394a
- ・CD/DVD
- ・フロッピーディスク
- ・シリアル
- ・パラレル

■ CD/DVD



ディスクからデータの読み出しができない

- ディスクが正しくセットされていますか？

ディスクの表裏を間違えないよう、正しくセットしてください。詳しくは、「取り扱い」－「ディスクをセットする／取り出す」（→ P.38）をご覧ください。

- ディスクが汚れていますか？

汚れたり水滴が付いたりしたときは、少し湿らせた布で中央から外側へ向かって拭いた後、乾いた布で拭き取ってください。

- ディスクが傷付いていますか？

ディスクを交換してください。

- 規格外のディスクを使用していますか？

規格にあったディスクをお使いください。詳しくは、「取り扱い」－「使用できるディスク」（→ P.32）をご覧ください。

- ドライブはワークステーション本体にしっかりと装着されていますか？
しっかりと装着し直してください。



ディスクが取り出せない

- ワークステーション本体は動作状態になっていますか？
本ワークステーションの CD/DVD ドライブは電子ロックのため、ワークステーション本体が動作状態の場合のみディスクのセット／取り出しが可能です。
なお、なんらかの原因でトレーが出ない場合は、「マイコンピュータ」ウィンドウのディスクアイコンを右クリックし、「取り出し」をクリックしてください。それでも出ない場合は、CD/DVD ドライブユニット前面のディスク取り出しボタン横にある穴に、曲がりにくい針金(大きなクリップをのばしたものなど)を押し込んで、ディスクを強制排出してください。



WinDVD が起動しない

- 市販されているウイルス対策ソフトを起動していませんか？
市販されているウイルス対策ソフトと「WinDVD」を同時に起動することはできません。ウイルス対策ソフトを終了してから、「WinDVD」を起動してください。なお、本ワークステーションに添付の「Norton AntiVirus」は問題ありません。
- 自動検索機能付のウイルス対策ソフト（市販）をインストールしていませんか？
自動検索機能付のウイルス対策ソフトをインストールしていると、「WinDVD」を起動することはできません。
ウイルス対策ソフトをアンインストールしてから「WinDVD」を起動してください。なお、本ワークステーションに添付の「Norton AntiVirus」は問題ありません。



DVD の再生が円滑に行われない

- 管理者権限をもったユーザーとしてログオンしてから「WinDVD」をインストールしましたか？
いったんアンインストールしてから管理者権限をもったユーザーとしてログオンし直し、再インストールしてください。
インストール方法およびアンインストール方法については、「ソフトウェア」－「インストール」(→ P.131) をご覧ください。
- Wave 音源の再生または AVI ファイルなどの映像再生をしていませんか？
Wave 音源または AVI ファイルなどの映像と同時再生はできません。



デジタルディスプレイに再生画面が表示されない

- HDCP (High-bandwidth Digital Content Protection) に対応していないデジタルディスプレイを使用していませんか？

HDCP に対応していないディスプレイには、著作権保護のされた映像を再生できません。HDCP に対応したデジタルディスプレイをお使いください。またはアナログディスプレイをお使いください。

また、DVD の再生には HDCP に対応した「WinDVD」をお使いください。DVD-ROM ドライブ、またはスーパーマルチドライブ搭載機種に添付される「WinDVD」は HDCP に対応しています。

なお、「WinDVD」での再生時は、2 台のディスプレイに同時に表示することはできません。



DVD の再生音が小さい

- ワークステーション本体のボリュームの設定は正しいですか？

DVD ディスクによっては音のレベルが小さく録音されているものがあります。「取り扱い」 - 「音量（Windows Vista の場合）」（→ P.57）、または「取り扱い」 - 「音量（Windows XP の場合）」（→ P.60）をご覧になり、音量を調節してください。



DVD-RAM ディスクにデータが書き込めない

対 象 Windows XP の場合

- DVD-RAM ディスクに書き込む場合は、次の手順で設定してください。

1. 「スタート」ボタン → 「マイコンピュータ」の順にクリックします。
2. 「DVD-RAM ドライブ」を右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
3. 「書き込み」タブで「このドライブで CD 書き込みを有効にする」のチェックを外します。
4. 「OK」をクリックします。



ディスクへの書き込み速度が遅い

- ウイルス対策ソフトなどを常駐させていませんか？

ウイルス対策ソフトなどを常駐し、ファイルアクセスの監視を行った状態でディスクに書き込むと、書き込み速度が低下する場合があります。

■ フロッピーディスク



フロッピーディスクが使えない

- ディスクは正しくセットされていますか？
ディスクのシャッタのある側から、カシヤッと音がするまでしっかりと差し込みます。
- ディスクはフォーマットしてありますか？
ディスクをフォーマットしてください。
- ディスクが書き込み禁止になってしまいか？
ディスクの書き込み禁止タブを書き込み可能な位置にしてください。
- 別のディスクは使用できますか？
別のディスクが使用できる場合、使用できないディスクは壊れている可能性があります。
- フロッピーディスクドライブのヘッドが汚れていませんか？
クリーニングフロッピーディスクでヘッドの汚れを落としてください。
詳しくは、「お手入れ」 - 「フロッピーディスクドライブ」（→ P.176）をご覧ください。



フロッピーディスクを1.44MB以外の容量にフォーマットできない

- Windows VistaおよびWindows XPでは、フロッピーディスクを1.44MB以外の容量にフォーマットできません。

■ ディスプレイ



画面に何も表示されない

- 「起動・終了時のトラブル」（→ P.188）の「電源が入らない」、「画面に何も表示されない」をご覧ください。



ディスプレイの表示が見にくい

- ディスプレイは見やすい角度になっていますか？
ディスプレイの角度を調節してください。
- 明るさなどを調節しましたか？
明るさをブライトネスボリュームで調節してください。



表示が乱れる

- Windows の画面が正常に表示されない場合は、次のように操作してください。
『取扱説明書』をご覧になり、ディスプレイドライバを再インストールしてください。
Windows が起動しないときは、セーフモードで起動してからインストールしてください(→ P.183)。
- ソフトウェアを使用中に、アイコンやウィンドウの一部が画面に残ってしまった場合は、次の手順でウィンドウを再表示してください。
 1. ウィンドウの右上にある「最小化」ボタンをクリックし、ソフトウェアを最小化します。
 2. タスクバーに最小化されたソフトウェアをクリックして、再度表示させます。

POINT

▶ 次のような場合に表示が乱れることがあります、動作上は問題ありません。

- ・ Windows 起動時および画面の切り替え時
- ・ DirectX を使用した一部のソフトウェア使用時

- お使いになるディスプレイや、解像度の設定によっては、CAD 系ソフトウェアなどで縦線と横線の太さが異なって見えることがあります。この場合、解像度を下げる、またはリフレッシュレートを下げることで改善する場合があります。
- 動画を再生するときは、ディスプレイの省電力機能やスリープ状態や休止状態(Windows Vista の場合)、またはスタンバイ状態や休止状態(Windows XP の場合)にする設定は行わないください。
- お使いのビデオカードによっては、画面のプロパティにおいて、一部文字化けがありますが、動作には支障はありません。
- Windows XP で、OpenGL を使用したスクリーンセーバーが起動しているときには、スタンバイ状態や休止状態への移行はできません。
- 近くにテレビなどの強い磁界が発生するものがありますか？
強い磁界が発生するものは、ディスプレイやワークステーション本体から離して置いてください。
- Dual Link対応ディスプレイをお使いの場合は、必ずディスプレイ付属のケーブル(Dual Link 対応)をお使いください。
ディスプレイ添付のケーブル (Dual Link 対応) を使用しないと正しく表示されません。



画面の両サイドが欠ける

- 使用しているディスプレイの調整ボタンなどで、水平画面サイズを調整してください。



その他のトラブルが発生した

- グラフィックの表示性能は、環境設定および使用するソフトウェアによって異なります。環境設定やソフトウェアを確認してください。

■ サウンド



スピーカーから音が出ない、音が小さい、または音が割れる

- 外付けスピーカーに関して次の項目を確認してください。
 - ・ワープロステーション本体と正しく接続されていますか？
 - ・スピーカーの電源ケーブルは接続されていますか？
 - ・スピーカーの電源ボタンは入っていますか？
 - ・音量ボリュームは正しく調節されていますか？
 - ・ヘッドホン端子にヘッドホン（または他のデバイス）が接続されていませんか？
- 音量を設定するウィンドウで、ミュートや音量などを確認してください。
詳しくは、「取り扱い」 - 「音量（Windows Vista の場合）」（→ P.57）、または「取り扱い」 - 「音量（Windows XP の場合）」（→ P.60）をご覧ください。
- 音が割れる場合は音量を小さくしてください。
- サウンドドライバが正しくインストールされていますか？
必要に応じて、「ソフトウェア」 - 「インストール」（→ P.131）をご覧になり、再インストールしてください。
- J365 では、ラインイン端子やマイク端子から入力した音声は、ヘッドホン端子やラインアウト端子から直接出力できません。

■ キーボード



キーボードから入力した文字が表示されない

- キーボードは正しく接続されていますか？



押したキーと違う文字が入力される

- 【NumLock】キーと【CapsLock】キーが有効になっていますか？
キーボード上のインジケーターで、【NumLock】キーと【CapsLock】キーが有効になっていないか確認してください。
- 「コントロールパネル」の「キーボード」の設定は正しいですか？
次の手順で確認してください。
 1. 「スタート」ボタン → 「コントロールパネル」の順にクリックします。
「コントロールパネル」 ウィンドウが表示されます。
 2. 「ハードウェアとサウンド」または「プリンタとその他のハードウェア」をクリックします。
 3. 「キーボード」アイコンをクリックします。
「キーボードのプロパティ」 ウィンドウが表示されます。
 4. 「ハードウェア」タブの「デバイス」で、正しい日本語キーボードが設定されているか確認します。

■ マウス



マウスポインタが動かない

- マウスは正しく接続されていますか？
- ボールやローラーなどにゴミが付いていませんか？(USB マウス(光学式)および USB マウス(レーザー式)以外の場合)
マウス内部をクリーニングしてください。詳しくは、「お手入れ」 - 「マウス」(→ P.178)をご覧ください。
- オプティカルセンサー部分が汚れていませんか？(USB マウス(光学式)および USB マウス(レーザー式)の場合)
オプティカルセンサー部分をクリーニングしてください。



マウスポインタが正しく動作しない

対 象 USB マウス(光学式)、USB マウス(レーザー式)

- 次のような物の上で操作していませんか？
 - ・鏡やガラスなど反射しやすいもの
 - ・光沢のあるもの
 - ・濃淡のはっきりした縞模様や柄のもの(木目調など)
 - ・網点の印刷物など、同じパターンが連続しているもの



マウスの中ボタンが動作しない

対 象 USB3 ボタンマウス(光学式)

- USB3 ボタンマウス(光学式)の中ボタンは、3ボタン対応ソフトウェアを使用しているときにのみ動作します。通常は中ボタンは機能しません。



マウスが使えないため、Windows を終了できない

- キーボードを使用して Windows を終了してください(→ P.190)。

■ USB



USB デバイスが使えない

- ケーブルは正しく接続されていますか？

ケーブルが正しく接続されているか確認してください。

- USB デバイスが USB ハブを経由して接続されませんか？

USB ハブを経由すると問題が発生する場合があります。USB デバイスを本体の USB コネクタに直接接続してみてください。

- USB デバイスに不具合はありませんか？

USB デバイスに不具合がある場合、Windows が正常に動作しなくなることがあります。

ワークステーションを再起動して、USB デバイスを接続し直してみてください。それでも正常に動作しない場合は、USB デバイスのご購入元にご連絡ください。



USB デバイスが使えず、「デバイスマネージャ」で確認すると「! (エクスクラメーションマーク)」が表示される

- デバイスドライバに問題はありませんか？インストールされていますか？

必要なドライバをインストールしてください。

- 外部から電源を取らない USB デバイスの場合、消費電力に問題はありませんか？

次の手順で USB コネクタの電力使用状況を確認してください。

- Windows Vista の場合

1. 管理者権限をもったユーザーとしてログオンします。

2. 「スタート」ボタン→「コントロールパネル」の順にクリックします。

「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます

3. 「ハードウェアとサウンド」→「デバイスマネージャ」の順にクリックします。

「ユーザー アカウント制御」ウィンドウが表示されます。

4. 「続行」をクリックします。

「続行」が表示されず「管理者アカウント」が表示されている場合は、そのアカウントのパスワードを入力してから「OK」をクリックします。

「デバイスマネージャ」ウィンドウが表示されます。

5. 「ユニバーサルシリアルバスコントローラ」をダブルクリックし、「USB ルートハブ」をダブルクリックします。

「USB ルートハブのプロパティ」ウィンドウが表示されます。

6. 「電力」タブをクリックし、USB バスの電力使用状況がデバイスマネージャで使用可能な電力の合計を超えていないか確認します。

7. 「OK」をクリックして、すべてのウィンドウを閉じます。

- Windows XP の場合

1. 「スタート」ボタンをクリックし、「マイコンピュータ」を右クリックし、「プロパティ」をクリックします。

「システムのプロパティ」ウィンドウが表示されます。

2. 「ハードウェア」タブをクリックし、「デバイスマネージャ」をクリックします。

「デバイスマネージャ」ウィンドウが表示されます。

3. 「USB (Universal Serial Bus) コントローラ」をダブルクリックし、「USB ルートハブ」をダブルクリックします。
「USB ルートハブのプロパティ」ウィンドウが表示されます。
4. 「電力」タブをクリックし、USB バスの電力使用状況がデバイスマネージャで使用可能な電力の合計を超えていないか確認します。
5. 「OK」をクリックして、すべてのウィンドウを閉じます。

■ IEEE1394a



IEEE1394a デバイスが使えない

- 長すぎるケーブルを使用していませんか？

長さ 4.7m 以内のケーブルをお使いください。

- IEEE1394a デバイスが表示されていますか？

IEEE1394a デバイス接続後、IEEE1394a デバイスがデバイスマネージャに一度表示され、すぐに表示されなくなることがあります。

この場合、IEEE1394a デバイス側の電源の管理機能がコンピュータに誤って認識されている可能性があります。IEEE1394a デバイス側の電源設定を変更してください。

- IEEE1394a デバイスに不具合はありませんか？

IEEE1394a デバイスに不具合がある場合、Windows が動かなくなります。

ワークステーションを再起動して、IEEE1394a デバイスを接続し直してみてください。それでも正常に動作しない場合は、IEEE1394a デバイスのご購入元にご連絡ください。



IEEE1394a デバイスが使えず、「デバイスマネージャ」で確認すると「! (エクスクラメーションマーク)」が表示される

- デバイスのドライバが正しくインストールされていますか？

お使いになる IEEE1394a デバイスに添付されているマニュアルをご覧になり、正しい手順でドライバをインストールしてください。なお、すでにインストール済みの場合はドライバを一度削除し、再度インストールしてください。

■ プリンタ



プリンタを使用できない

- 次の点を確認してください。
 - ・ケーブルは正しく接続されていますか？
 - ・ケーブルのコネクタやケーブルは損傷していませんか？
 - ・プリンタの電源は入っていますか？
 - ・プリンタドライバは正しくインストールされていますか？
　プリンタのマニュアルをご覧になり、再インストールしてください。
 - ・ネットワークプリンタの場合、ネットワーク管理者の指示に従って設定を行いましたか？
 - ・ネットワークプリンタの場合、ネットワーク自体へのアクセスはできていますか？（→ P.196）

■ その他



使用中の製品に関する最新情報を知りたい

- 製品出荷後に判明した問題などの最新情報は、弊社の富士通製品情報ページ（http://www.fmworld.net/biz/fmv/index_support.html）で公開しています。必要に応じてご覧ください。

3 それでも解決できないときは

お問い合わせ先

■ 弊社へのお問い合わせ

故障かなと思われたときや、技術的なご質問・ご相談などについては、『取扱説明書』をご覧になり、弊社までお問い合わせください。

■ ソフトウェアに関するお問い合わせ

本ワークステーションに添付されている、次のソフトウェアの内容については、各連絡先にお問い合わせください。

なお、記載の情報は、2009年6月現在のものです。電話番号などが変更されている場合は、『取扱説明書』をご覧になり、「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」へお問い合わせください。

● Norton AntiVirus

株式会社シマンテック

シマンテック・テクニカル・サポートセンター

- ・本センターは技術的なお問い合わせ用の窓口です。
- ・ご利用期間は更新期間（90日間）となります。
(更新サービス延長のお申し込みをいただくと、引き続き本サポートをご利用いただけます。)

詳しくは、製品別サポートページ (<http://symss.jp>) を参照のうえ、お問い合わせください。
更新サービス延長のお申し込みは、サポートセンターとは異なるお問い合わせ先になります。

シマンテック・ストア

URL : <http://www.symantecstore.jp/users.asp>

● i-フィルター

デジタルアーツ株式会社

デジタルアーツ株式会社 サポートセンター

電話：月～金／03-3580-5678、土・日・祝祭日／0570-00-1334

受付時間：月～金／10:00～18:00、土・日・祝祭日／10:00～20:00

（年末年始、弊社指定休業日を除く）

URL : <http://www.daj.jp/faq/>

お問い合わせフォーム : <http://www.daj.jp/ask/>

90日間の試用期間中、サポートいたします。

● Adobe Reader

ソフトウェア提供会社より無償で提供されている製品のため、ユーザーサポートはございません。ご了承ください。

● ソフトウェア（カスタムメイド）

各ソフトウェアのマニュアルをご覧ください。

Memo

第9章

仕様一覧／技術情報

仕様やコネクタピン配置などを記載しています。

1 本体仕様	214
2 その他の仕様	217

1 本体仕様

製品名称		CELSIUS J365				
CPU ^{注1}	インテル® Core™2 Duo プロセッサー E7500	インテル® Core™2 Duo プロセッサー E8500	インテル® Core™2 Duo プロセッサー E8600			
	2.93 GHz	3.16 GHz	3.33 GHz			
2 次キャッシュメモリ	3MB (CPU 内蔵)	6MB (CPU 内蔵)				
チップセット	インテル® X38 Express チップセット					
システム・バス	1066MHz	1333MHz				
メインメモリ	標準 1GB (1GB × 1 DDR2 SDRAM/PC2-6400) ECC あり CL6 最大 4GB ^{注2}					
メモリスロット	× 2 (空きスロット × 1)					
フロッピーディスクドライブ ^{注3}	なし ^{注4}					
ハードディスクドライブ ^{注5}	80GB (Serial ATA/300、8MB cache、7200rpm) ^{注6}					
CD/DVD ドライブ ^{注3}	なし ^{注7}					
オーディオ機能	オーディオコントローラ	チップセット内蔵 High Definition Audio バスコントローラ + High Definition Audio コーデック				
	PCM 録音再生機能	サンプリング周波数 最大 192kHz、24 ビット (再生時) ^{注8} 、サンプリング周波数 最大 96kHz、16 ビット (録音時) ^{注8} 、同時録音再生機能				
	MIDI 再生機能	OS 標準機能にてサポート				
通信機能	LAN	1000BASE-T/100BASE-TX/10BASE-T 準拠、Wake up on LAN 対応 ^{注9}				
セキュリティ機能	スマートカード ^{注3}	あり				
	セキュリティチップ ^{注10}	TCG Ver1.2 準拠				
	盗難防止用ロック	あり				
	筐体施錠	あり				
インターフェース	シリアル	非同期 RS-232C 準拠 D-SUB9 ピン × 2 (16550A 互換)				
	キーボード／マウス	PS/2 準拠 Mini-DIN 6 ピン (キーボード用 × 1、マウス用 × 1)				
	USB ^{注11}	USB2.0 準拠 × 8 (前面 × 2、背面 × 4)				
	IEEE1394a ^{注12}	4 ピン × 1 (S400)				
	LAN	RJ-45 × 1				
	オーディオ	マイク : φ3.5mm モノラル・ミニジャック (入力 : 100mV 以下、入力インピーダンス (AC) 5kΩ 以上 (DC) 2kΩ 以上)、 ヘッドホン : φ3.5mm ステレオ・ミニジャック (出力 : 1mW 以上、負荷インピーダンス 32 Ω)、 ラインイン : φ3.5mm ステレオ・ミニジャック、 ラインアウト : φ3.5mm ステレオ・ミニジャック				
	障害監視機能 (POST 時)	ファン停止、電源電圧、バッテリ電圧				
拡張スロット数		× 2 PCI Express x16 Graphics (PCI Express 2.0 準拠) × 1 (専用) PCI Express x1 (PCI Express 1.1 準拠) × 1 (ハーフ : 168mm) ^{注13} PCI (Rev 2.3 準拠) × 1 (ハーフ : 168mm) ^{注14}				
ファイルベイ数		前面 : 5 インチファイルベイ × 1 (カスタムメイドで DVD-ROM ドライブまたはスーパーマルチドライブを選択した場合、CD/DVD ドライブ搭載済み) 内部 : 3.5 インチファイルベイ × 1 (ハードディスクドライブ搭載済み)				
電源／周波数		AC100V ± 10%、50/60Hz ± 2% - 4% (入力波形は正弦波のみサポート)				

製品名称		CELSIUS J365		
消費電力 ^{注15}	電源 OFF 時 ^{注16}	約 3W 以下		
	スタンバイ時 ^{注17}	約 2W 以下		
	通常消費電力 ^{注18}	Vista ^{注20}	約 56W	約 59W
		Vista & ダウングレード ^{注20}	約 56W	約 59W
	最大構成での消費電力 ^{注19}	Vista ^{注20}	約 165W	
		Vista & ダウングレード ^{注20}	約 165W	
	定格電流／最大消費電力	動作時	最大 7A (アウトレット最大 3A を含む) / 536W ^{注21} (本体のみ: 約 311W)	
	電波障害対策	VCCI クラス B		
	省エネ法に基づくエネルギー消費効率 ^{注22} (2007 年度基準)	Vista ^{注20}	j 区分 : 0.00067 (AAA)	j 区分 : 0.00065 (AAA)
		Vista & ダウングレード ^{注20}	j 区分 : 0.00066 (AAA)	j 区分 : 0.00064 (AAA)
外形寸法 (突起部含まず)		縦置きの場合 : W89 × D338 × H332mm W179 × D338 × H344mm (フット装着時) 横置きの場合 : W332 × D338 × H89mm W422 × D338 × H101mm (フット装着時)		
質量		約 7.4kg		
温湿度条件		温度 10 ~ 35 °C / 湿度 20 ~ 80%RH (動作時)、 温度 -10 ~ 60 °C / 湿度 20 ~ 80%RH (非動作時) (ただし、動作時、非動作時とも結露しないこと)		
プレインストール OS ^{注24}		Windows Vista Business 正規版 ^{注25} (DirectX 10 対応)、 Windows XP Professional 正規版 ^{注26} (DirectX 9.0c 対応)		
サポート OS ^{注27}		Windows Vista Enterprise 正規版 ^{注28} 、 Windows Vista Business 正規版 ^{注28} 、 Windows XP Professional 正規版 ^{注29}		

本ワークステーションの仕様は、改善のために予告なく変更することがあります。あらかじめご了承ください。

注について

- 注 1 : ・ソフトウェアによっては、CPU 名表記が異なる場合があります。
・本ワークステーションに搭載の CPU で使用できる機能については、「CPU」(→ P.224)をご覧ください。
- 注 2 : ・メモリ容量を 4GB にするには、メモリの搭載状況により、搭載済みのメモリをすべて取り外してから、メモリ (拡張 RAM モジュール 2GB) を 2 枚取り付ける必要があります。
例) 1GB メモリを 1 枚搭載している場合や 1GB メモリを 2 枚搭載している場合など
- ・4GB 搭載時でも、OS が使用可能な領域は約 3GB になります。ただし、装置構成によってご利用可能なメモリ容量は異なります。
ATI Radeon HD 2400 PRO および Quadro FX1800 を選択した場合 : 3.25GB
Quadro FX580 を選択した場合 : 3GB
・合計で 2GB を超えるメモリを搭載した場合は、完全メモリダンプを使用できません。
- 注 3 : カスタムメイドの選択によって搭載されています。
- 注 4 : ・カスタムメイドの選択によっては、3.5インチフロッピーディスクドライブが搭載されています。
・カスタムメイドで FDD を選択した場合、HDD 変更 (SATA-RAID) は選択できません。
・フロッピーディスクは、フォーマットした環境 (メーカー、機種、ソフトウェア) によっては、データを読み書きできない場合があります。対応メディアは、2HD (1.44MB, 1.2MB) と 2DD (720KB) です。
・Windows Vista および Windows XP では、1.44MB 以外のフォーマットはできません。
- 注 5 : 本書に記載のディスク容量は、1MB=1000²byte、1GB=1000³byte 換算によるものです。1MB=1024²byte、1GB=1024³byte 換算で Windows 上に表示される実際の容量は、本書に記載のディスク容量より少くなります。
- 注 6 : カスタムメイドの選択によっては、次のドライブが搭載されています。
・320GB (320GB × 1, Serial ATA/300, 8MB cache, 7200rpm)
・320GB × 2 (320GB × 2 RAID1, Serial ATA/300, 8MB cache, 7200rpm)
・カスタムメイドで Quadro FX 1800 を選択した場合、HDD 変更 (SATA-RAID) は選択できません。
- 注 7 : カスタムメイドで選択した CD/DVD ドライブの仕様については、「CD/DVD ドライブ仕様」(→ P.228)をご覧ください。
- 注 8 : 使用できるサンプリングレートは、OS およびソフトウェアによって異なります。

- 注 9 : 本ワークステーションには 1000BASE-T の LAN 機能が搭載されています。
・本ワークステーションの LAN 機能は 1000BASE-T に対応し、1Gbps(1000Mbps)の高速なデータ通信をサポートします。また、従来の 100BASE-TX、10BASE-T もサポートしているため、通信速度の自動認識を行い、既存のローカル・エリア・ネットワーク (LAN) にそのまま接続することができます。
・本ワークステーションでは、ACPI モード（ご購入時の設定）のときにスリープ状態（Windows Vista）またはスタンバイ状態（Windows XP）と休止状態からの Wakeup on LAN 機能がお使いになれます。
- 注 10 : ご購入時のセキュリティチップの状態は、無効になっています。
- 注 11 : ・すべての USB 対応周辺機器について動作保証するものではありません。
・USB1.1 準拠の周辺機器を接続している場合、USB1.1 の仕様でお使いになれます。
・外部から電源を取らない USB 機器を接続するときの消費電流の最大容量は、1 ポートにつき 500mA です。詳しくは、USB 機器のマニュアルをご覧ください。
- 注 12 : すべての IEEE1394 対応周辺機器について動作保証するものではありません。
- 注 13 : カスタムメイドで HDD 変更 (SATA-RAID) を選択した場合、SATA-RAID カードが PCI Express x1 スロットを使用します。PCI スロットとしてはご使用になれません。
- 注 14 : ・すべての PCI (Rev. 2.3 準拠) 規格のカードについて動作保証するものではありません。
・カスタムメイドで Quadro FX 1800 を選択した場合、PCI スロットはご使用になれません。
- 注 15 : ディスプレイの電源をアウトレットから供給しない場合の電力値です。
- 注 16 : 電源 OFF 時のエネルギー消費を回避するには、メインスイッチを「O」側に切り替えるか、AC ケーブルの電源プラグをコンセントから抜いてください。
- 注 17 : ご使用になる機器構成により値は変動します。
- 注 18 : 標準構成（カスタムメイドしていない構成）で、OS を起動させた状態のワークステーション本体のみの測定値です。
- 注 19 : 本ワークステーションで選択可能なカスタムメイドの最大構成で測定しています。
(USB ポートおよびカスタムメイドで使用しない PCI スロットは空き状態。測定プログラムは当社独自の高負荷試験テストプログラムを使用)
- 注 20 : ・Vista : Windows Vista Business
・Vista & ダウングレード : Windows Vista Business 正規版 & ダウングレードサービス
- 注 21 : アウトレット（モニタ）へ最大供給した場合です。
- 注 22 : ・エネルギー消費効率とは省エネ法で定める測定方法により測定した消費電力を省エネ法で定める複合理論性能で除したものです。
・カッコ内のアルファベットは、「A は 100% 以上 200% 未満、AA は 200% 以上 500% 未満、AAA は 500% 以上」の省エネルギー基準達成率であることを示しています。
- 注 23 : 本製品は省エネ法の規制対象外であり、エネルギー消費効率は参考値です。
- 注 24 : カスタムメイドの選択によって、いずれかの OS がプレインストールされています。
- 注 25 : ご購入時に、Windows Vista® Service Pack 1 が適用されています。
- 注 26 : ご購入時に、Microsoft® Windows® XP Service Pack 2 セキュリティ強化機能搭載が適用されています。
- 注 27 : 日本語 32 ビット版
- 注 28 : Windows Vista® Service Pack 1。
- 注 29 : Microsoft® Windows® XP Service Pack 2 セキュリティ強化機能搭載および Microsoft® Windows® XP Service Pack 3。

2 その他の仕様

LAN 機能

LAN コントローラ	Broadcom BCM5786
送受信バッファ用 RAM	送信 : 8Kbyte、受信 : 48Kbyte
外部インターフェース	ISO8802-3 1000BASE-T/100BASE-TX/10BASE-T
伝送媒体	ツイストペアケーブル ^{注1} (1Gbps: カテゴリ 5E 以上、100Mbps: カテゴリ 5 以上、10Mbps: カテゴリ 3 以上)
伝送方式	ベースバンド
アクセス方式	CSMA/CD
データ転送速度	1Gbps、100Mbps、10Mbps
配線形態	スター型
セグメント最大長	100m
最大ノード数／セグメント	ハブユニット ^{注2} による

注1：ケーブルは、必ずお使いのネットワーク・スピードに対応したデータグレードのケーブルをお使いください。
データグレードの低いケーブルを使うと、データ紛失が発生します。

注2：ハブユニットとは、1000BASE-T/100BASE-TX/10BASE-T のコンセントレータです。

POINT

- ▶ 本ワークステーション標準搭載の LAN はネットワークのスピードに自動で対応します。
ハブユニットの変更などでネットワークのスピードが変更される場合、必ずスピードに対応した適切なデータグレードのケーブルをお使いください。

表示機能

■ 標準モデル

グラフィックスアクセラレータ	ATI Radeon HD 2400 PRO
ビデオ RAM	256MB (ATI HyperMemory TM テクノロジ) ^{注1}
最大解像度／最大発色数	2048 × 1536 ドット、1677 万色 (アナログディスプレイ接続時) 1920 × 1200 ドット、1677 万色 (デジタルディスプレイ接続時)
インターフェース ^{注2}	アナログ RGB (ミニ D-SUB15 ピン×1)、 デジタルディスプレイ (DVI-I 準拠) 29 ピン×1 (HDCP 対応)
DirectX	DirectX10.0
OpenGL	OpenGL 2.0

注1：AMD 社の ATI HyperMemoryTM テクノロジにより、ローカルビデオメモリに加えメインメモリの一部を使用することにより多くのメモリをグラフィックに割り当てます。
その容量はメインメモリの容量により変動します。

注2：著作権保護のされた映像を再生する場合は、HDCP (High-bandwidth Digital Content Protection) 規格に対応したデジタルディスプレイで接続してください。HDCP 規格に対応していないディスプレイには、著作権保護のされた映像をデジタル出力できません。

■ カスタムメイドで Quadro FX シリーズを選択した場合

グラフィックスアクセラレータ	Quadro FX 580	Quadro FX 1800
ビデオ RAM	512MB 注1	768MB 注2
最大解像度／最大発色数	2048 × 1536 ドット、1677 万色 (アナログディスプレイ接続時) 1920 × 1200 ドット、1677 万色 (デジタルディスプレイ接続時) 2560 × 1600 ドット、1677 万色 (Dual Link対応デジタルディスプレイ接続時) 2560 × 1600 ドット、1677 万色 (DisplayPort 接続時)	
インターフェース注3注4	デジタルディスプレイ (DVI-I 準拠) 29 ピン HDCP 対応 × 1 DisplayPort 20 ピン × 2	
DirectX	DirectX10.0	
OpenGL	OpenGL 3.0	

注 1 : Windows Vista の場合、専用ビデオメモリ 512MB の他、メインメモリの一部をビデオメモリとして使用します。
その容量はメインメモリの容量により変動します。

注 2 : Windows Vista の場合、専用ビデオメモリ 768MB の他、メインメモリの一部をビデオメモリとして使用します。
その容量はメインメモリの容量により変動します。

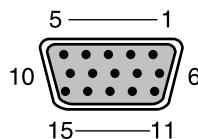
注 3 : 著作権保護のされた映像を再生する場合は、HDCP (High-bandwidth Digital Content Protection) 規格に対応した
デジタルディスプレイで接続してください。HDCP 規格に対応していないディスプレイには、著作権保護のされ
た映像をデジタル出力できません。

注 4 : 3 ポート中 2 ポートのみ使用可能です。

コネクタのピン配列と信号名

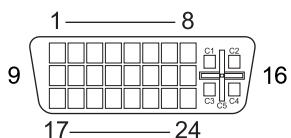
各コネクタのピンの配列および信号名は、次のとおりです。

■ アナログ RGB コネクタ



ピン番号	信号名	方向	説明
1	RED	出力	赤出力
2	GREEN	出力	緑出力
3	BLUE	出力	青出力
4	NC	—	未接続
5 ~ 8	GND	—	グラウンド
9	+5V	—	+5V
10	GND	—	グラウンド
11	NC	—	未接続
12	SDA	入出力	DDC データ
13	H SYNC	出力	水平同期信号
14	V SYNC	出力	垂直同期信号
15	SCL	入出力	DDC クロック

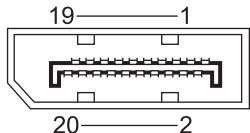
■ DVI-I コネクタ



ピン番号	信号名	方向	説明
1	TX2-	出力	データチャンネル 2-
2	TX2+	出力	データチャンネル 2+
3	TX2/4 Shield	—	グランド
4	Reserved/TX4-	—／出力	• ATI Radeon HD 2400 PRO 未接続のケーブルを使用してください • Quadro FX シリーズ データチャンネル 4-
5	Reserved/TX4+	—／出力	• ATI Radeon HD 2400 PRO 未接続のケーブルを使用してください • Quadro FX シリーズ データチャンネル 4+
6	DDC Clock	入出力	DDC クロック
7	DDC Data	入出力	DDC データ
8	Analog V Sync	出力	アナログ垂直同期信号
9	TX1-	出力	データチャンネル 1-
10	TX1+	出力	データチャンネル 1+
11	TX1/3 Shield	—	グランド
12	Reserved/TX3-	—／出力	• ATI Radeon HD 2400 PRO 未接続のケーブルを使用してください • Quadro FX シリーズ データチャンネル 3-
13	Reserved/TX3+	—／出力	• ATI Radeon HD 2400 PRO 未接続のケーブルを使用してください • Quadro FX シリーズ データチャンネル 3+
14	+5V	—	+5V
15	GND	—	グランド
16	Hot Plug Detect	入力	ホットプラグ
17	TX0-	出力	データチャンネル 0-
18	TX0+	出力	データチャンネル 0+
19	TX0/5 Shield	—	グランド
20	Reserved/TX5-	—／出力	• ATI Radeon HD 2400 PRO 未接続のケーブルを使用してください • Quadro FX シリーズ データチャンネル 5-
21	Reserved/TX5+	—／出力	• ATI Radeon HD 2400 PRO 未接続のケーブルを使用してください • Quadro FX シリーズ データチャンネル 5+
22	TXC Shield	—	グランド
23	TXC+	出力	データクロック +
24	TXC-	出力	データクロック -

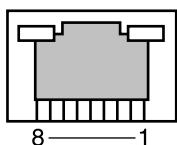
ピン番号	信号名	方向	説明
C1	Analog Red	出力	アナログレッド出力
C2	Analog Green	出力	アナロググリーン出力
C3	Analog Blue	出力	アナログブルー出力
C4	Analog Horizontal Sync	出力	アナログ水平同期信号
C5	Analog Ground	—	アナロググランド

■ DisplayPort



ピン番号	信号名	方向	説明
1	ML_Lane 0 (p)	出力	データ信号 0 +
2	GND	—	グランド
3	ML_Lane 0 (n)	出力	データ信号 0 -
4	ML_Lane 1 (p)	出力	データ信号 1 +
5	GND	—	グランド
6	ML_Lane 1 (n)	出力	データ信号 1 -
7	ML_Lane 2 (p)	出力	データ信号 2 +
8	GND	—	グランド
9	ML_Lane 2 (n)	出力	データ信号 2 -
10	ML_Lane 3 (p)	出力	データ信号 3 +
11	GND	—	グランド
12	ML_Lane 3 (n)	出力	データ信号 3 -
13	CONFIG1	出力	コンフィグ信号 1
14	CONFIG2	出力	コンフィグ信号 2
15	AUX CH (p)	入出力	AUX 信号 +
16	GND	—	グランド
17	AUX CH (n)	入出力	AUX 信号 -
18	Hot Plug Detect	入力	ホットプラグ
19	Return	—	DisplayPort グランド
20	DP_PWR Power	出力	DisplayPort 電源

■ LAN コネクタ (1000BASE-T/100BASE-TX/10BASE-T)



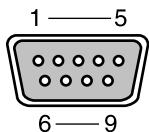
□ 1000BASE-T

ピン番号	信号名	方向	説明
1	TRD0+	入出力	送受信データ 0+
2	TRD0-	入出力	送受信データ 0-
3	TRD1+	入出力	送受信データ 1+
4	TRD2+	入出力	送受信データ 2+
5	TRD2-	入出力	送受信データ 2-
6	TRD1-	入出力	送受信データ 1-
7	TRD3+	入出力	送受信データ 3+
8	TRD3-	入出力	送受信データ 3-

□ 100BASE-TX/10BASE-T

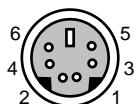
ピン番号	信号名	方向	説明
1	TD+	出力	送信データ +
2	TD-	出力	送信データ -
3	RD+	入力	受信データ +
4	NC	—	未接続
5	NC	—	未接続
6	RD-	入力	受信データ -
7	NC	—	未接続
8	NC	—	未接続

■シリアルコネクタ



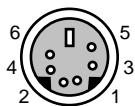
ピン番号	信号名	方向	内容
1	CD	入力	キャリア検出
2	RD	入力	受信データ
3	TD	出力	送信データ
4	DTR	出力	データ端末レディ
5	GND	—	グランド
6	DSR	入力	データセットレディ
7	RTS	出力	送信要求
8	CTS	入力	送信可
9	RI	入力	リングインジケート

■マウスコネクタ



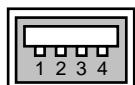
ピン番号	信号名	方向	内容
1	DATA	入出力	データ
2	NC	—	未接続
3	GND	—	グランド
4	VCC	—	電源
5	CLK	入出力	クロック
6	NC	—	未接続

■ キーボードコネクタ



ピン番号	信号名	方向	内容
1	DATA	入出力	データ
2	NC	—	未接続
3	GND	—	グランド
4	VCC	—	電源
5	CLK	入出力	クロック
6	NC	—	未接続

■ USB コネクタ



ピン番号	信号名	方向	内容
1	VCC	—	ケーブル・電源
2	-DATA	入出力	-データ信号
3	+DATA	入出力	+データ信号
4	GND	—	ケーブル・グランド

■ IEEE1394a コネクタ

1—4



ピン番号	信号名	方向	内容
1	TPB-	入出力	-データ信号
2	TPB+	入出力	+データ信号
3	TPA-	入出力	-データ信号
4	TPA+	入出力	+データ信号

CPU

本ワークステーションに搭載されている CPU で使用できる機能は、次のとおりです。

◀ 重要

- ▶ ここで説明する CPU の各機能は、Windows Vista の場合、および Windows XP で、Microsoft® Windows® XP Service Pack 2 セキュリティ強化機能搭載（以降、Windows XP (SP2)）をインストールした場合のみお使いになれます。その他の OS をお使いになる場合の動作保証はいたしません。
なお、ダウングレードサービスモデルには、あらかじめ Windows XP (SP2) がインストールされています。

■ エグゼキュート・ディスエーブル・ビット機能

エグゼキュート・ディスエーブル・ビット機能は、Windows Vista および Windows XP (SP2) のデータ実行防止 (DEP) 機能と連動し、悪意のあるプログラムが不正なメモリ領域を使用することを防ぎます。

この機能を有効にするか無効にするかは、BIOS セットアップで設定します。ご購入時は、有効に設定されています。

この機能を有効にした場合は、次のようにになります。

● Windows Vista の場合

- ・「パフォーマンスオプション」ウィンドウの「データ実行防止」タブに、「お使いのコンピュータのプロセッサーは、ハードウェアベースの DEP をサポートしています。」と表示されます。

POINT

- ▶ 「パフォーマンスオプション」ウィンドウを表示する方法は、次のとおりです。
 1. 「スタート」ボタンをクリックします。
 2. 「コンピュータ」を右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
 3. 「システムの詳細設定」をクリックします。
 4. 「ユーザー アカウント制御」ウィンドウで「続行」をクリックします。
「続行」が表示されず管理者アカウントが表示されている場合は、そのアカウントのパスワードを入力してから「OK」をクリックします。
 5. 「システムのプロパティ」ウィンドウの「詳細設定」タブで、「パフォーマンス」の「設定」をクリックします。

「パフォーマンスオプション」ウィンドウが表示されます。

- ・データ実行防止 (DEP) 機能がウイルスやその他の脅威を検出した場合、「[ソフトウェア名称] は動作を停止しました」という画面が表示されます。この場合は、「プログラムの終了」をクリックして、表示される対処方法に従ってください。

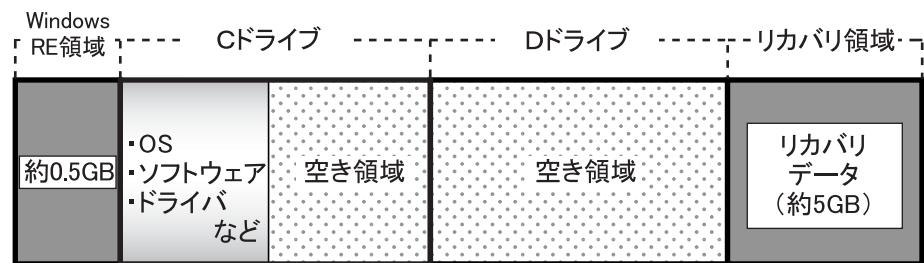
● Windows XP の場合

- ・「システムのプロパティ」ウィンドウの「全般」タブに、「物理アドレス拡張」というメッセージが表示されます。
- ・データ実行防止 (DEP) 機能がウイルスやその他の脅威を検出した場合、「データ実行防止」ウィンドウに「コンピュータ保護のため、このプログラムは Windows により終了されました。」というメッセージが表示されます。

この場合は、「データ実行防止」ウィンドウの「その他の詳細情報を表示します。」をクリックして表示される対処方法に従ってください。

ドライブ構成

ハードディスクは、Windows RE 領域に約 0.5GB、Windows Vista のリカバリデータが格納されているリカバリ領域に約 5GB が割り当てられており、残りの領域が半分ずつ C ドライブと D ドライブに割り当てられています。



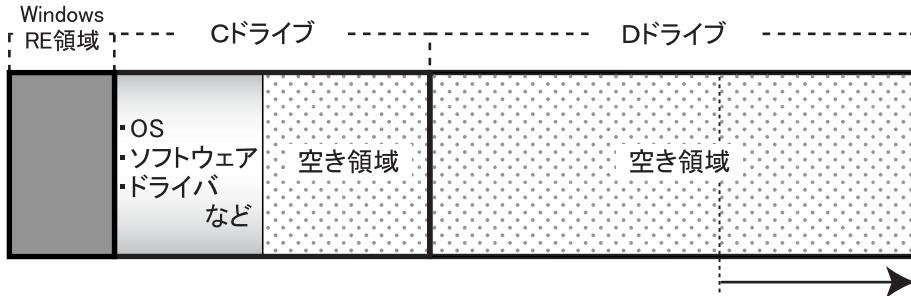
POINT

- ▶ ファイルシステムを NTFS から FAT32 に変更することはできません。
- ▶ Windows RE 領域に約 0.5GB、リカバリ領域に約 5GB 使用しているため、「マイコンピュータ」または「コンピュータ」に表示されるハードディスクの容量は、「本体仕様」の記載よりも約 5.5GB 少なく表示されます。
- ▶ Windows RE 領域とリカバリ領域は、Windows からは見えない領域です。

- Windows RE 領域には、Windows が正常に起動できない場合にシステムを診断する「診断プログラム」や、リカバリを実行するための「トラブル解決ナビ」が格納されています。「診断プログラム」については、「トラブルシューティング」—「診断プログラムを使用する」(→ P.184) をご覧ください。リカバリについては、『取扱説明書』をご覧ください。
- リカバリ領域には、Windows Vista のリカバリデータが格納されています。ワークステーションにトラブルが起こったときは、このリカバリデータを使って、ハードディスクをリカバリすることができます。リカバリについては、『取扱説明書』をご覧ください。

■ リカバリ領域の削除方法

リカバリ領域を削除することで、D ドライブの容量を約 5GB 増やすことができます。リカバリ領域の削除はリカバリ領域のデータのみ削除するため、C ドライブ、D ドライブのデータは残ります。



リカバリ領域を削除すると、
Dドライブの容量が約5GB増えます。

重要

- お手元に「リカバリディスク」がない場合は、リカバリ領域を削除する前に必ず「リカバリディスク」を作成してください。
リカバリ領域を削除すると、リカバリ領域にあるデータがすべて消えてしまい、ワークステーションに不具合があったときにワークステーションをご購入時の状態に戻すことができなくなります。
- リカバリ領域を削除する前に、必ずリカバリ領域にある Windows Vista のリカバリデータを、CD-R や DVD-R にコピーして、「リカバリディスク」を作成してください。
「リカバリディスク」の作成方法については、『取扱説明書』をご覧ください。

□ CD/DVD ドライブが搭載されていないモデルをお使いの場合

ポータブル CD/DVD ドライブを接続してください。

ポータブル CD/DVD ドライブは、「スーパーマルチドライブユニット (FMV-NSM52)」または「DVD-ROM&CD-R/RW ドライブユニット (FMV-NCB53)」をお使いください。

□ リカバリ領域を削除する

- 1 本ワークステーションを起動し、「FUJITSU」ロゴの下に文字が表示されている間に、【F12】キーを押します。
【F12】キーは軽く押しただけでは認識されない場合があります。数回押してください。「起動メニュー」が表示されます。

POINT

- ディスプレイの種類によっては画面の表示が遅く、「FUJITSU」ロゴや Windows の起動時に表示されるロゴが確認できない場合があります。
その場合は、キーボードのインジケータが一瞬点灯した後、【F12】キーを数回押してください。
- 「起動メニュー」が表示されない場合は、本ワークステーションを再起動してもう一度操作してください。

2 「ドライバーズディスク＆ユーティリティディスク」を、CD/DVD ドライブにセットします。

CD/DVD ドライブからデータの読み出しが終了し、CD/DVD ドライブが停止するまでお待ちください。

3 【↑】キーまたは【↓】キーを押して「CD/DVD」または「USB-CDROM」を選択し、【Enter】キーを押します。

「USB-CDROM」は、CD/DVD ドライブが搭載されていないモデルをお使いの場合に選択してください。

そのまましばらくお待ちください。「トラブル解決ナビ」が表示されます。

 **POINT**

- ▶ 「トラブル解決ナビ」が表示されるまでの間、一時的に画面が真っ暗な状態になったり、画面に変化がなかったりすることがあります。故障ではありません。電源を切らずにそのままお待ちください。

4 「ユーティリティ」タブの「リカバリ領域の削除」をクリックして選択します。

5 「実行」をクリックします。

「ご使用上の注意」が表示されます。

6 内容を確認したら「同意する」を選択し、「次へ」をクリックします。

「削除の確認」が表示されます。

7 「OK」をクリックします。

リカバリ領域の削除が始まります。

「削除の完了」が表示されるまで、しばらくお待ちください。

8 「削除の完了」が表示されたら、「完了」をクリックします。

以上の手順で、リカバリ領域が削除されました。

9 「終了」をクリックします。

10 ディスクを取り出し「再起動」をクリックします。

11 パスワードを入力し、Windows にログオンします。

12 「スタート」ボタン→「コンピュータ」または「マイコンピュータ」の順にクリックします。

13 D ドライブの容量が増えていることを確認します。

D ドライブが表示されない場合は、ワークステーションを再起動し、もう一度「コンピュータ」ウィンドウまたは「マイコンピュータ」ウィンドウで確認してください。

CD/DVD ドライブ仕様

カスタムメイドで CD/DVD ドライブを選択した場合は、次のいずれかのドライブが搭載されています。なお、各数値は仕様上の最大値であり、使用メディアや動作環境によって異なる場合があります。

POINT

- ▶ ディスクによってはご利用になれない場合もあります。
- ▶ 書き込み／書き換え速度は、ドライブの性能値です。
- ▶ 書き込み／書き換え速度に対応したディスクが必要になりますが、対応ディスクは販売されていない場合があります。
- ▶ 読み出し、書き込み速度はディスクや動作環境によって異なる場合があります。

DVD-ROM ドライブ

CD/DVD	読出速度（最大）	書込速度（最大）	書換速度（最大）
CD-ROM	24 倍速	—	—
CD-R	24 倍速	—	—
CD-RW	24 倍速	—	—
DVD-ROM	8 倍速	—	—
DVD-R	6 倍速	—	—
DVD-R DL	4 倍速	—	—
DVD-RW	4 倍速	—	—
DVD+R	6 倍速	—	—
DVD+R DL	4 倍速	—	—
DVD+RW	4 倍速	—	—
DVD-RAM	5 倍速	—	—

スーパーマルチドライブ

(バッファアンダーランエラー防止機能付)

CD/DVD	読出速度（最大）	書込速度（最大）	書換速度（最大）
CD-ROM	24 倍速	—	—
CD-R	24 倍速	24 倍速	—
CD-RW	24 倍速	10 倍速	10 倍速
DVD-ROM	8 倍速	—	—
DVD-R	8 倍速	8 倍速	—
DVD-R DL	6 倍速	4 倍速	—
DVD-RW	8 倍速	6 倍速	6 倍速
DVD+R	8 倍速	8 倍速	—
DVD+R DL	6 倍速	4 倍速	—
DVD+RW	8 倍速	8 倍速	8 倍速
DVD-RAM	5 倍速	5 倍速	5 倍速

索引

記号

- 3.5 インチファイルベイ 18
- 5 インチファイルベイ 18

A

- Adobe Reader 128

B

- BIOS セットアップ 136
 - 一起動 137
 - 一終了 140
 - 一パスワード 157

C

- CD/DVD 29
- CD/DVD アクセスランプ 14
- CD/DVD ドライブ 14
- CD/DVD ドライブ仕様 228
- CD/DVD 取り出しボタン 14
- CPU 19, 224
- CPU FAN コネクタ 19

D

- DIMM スロット 19
- DisplayPort 220
- DVD-RAM ドライバーソフト 128
- DVI-I コネクタ 16, 219

E

- Easy Backup 127

F

- FM-Menu 127
- FM キーガード 127

I

- IEEE1394a コネクタ 223
- IEEE1394a 端子 13
- i- フィルター 125, 133

L

- LAN 63
 - 一機能 217
- LAN コネクタ 16, 221

N

- Norton AntiVirus 104, 125

O

- Office Personal 2007 with
 - PowerPoint 2007 (SP1) 130, 133
- Office Personal 2007 (SP1) 130, 133

P

- PC Health メニュー 154
- PC 乗換ガイド 126
- Portshutter 114, 125

R

- R2 Manager 126
- Roxio Creator 129

S

- SMARTACCESS/Basic 125, 133

U

- UpdateAdvisor (本体装置) 109, 126
- USB コネクタ 13, 17, 223

W

- Windows Update 107
- WinDVD 129

あ行

- アウトレット 15
- アナログ RGB コネクタ 16, 218
- アンインストール 134
- インストール
 - i- フィルター 133
 - Office 製品 133

－ SMARTACCESS/Basic	133
－ ドライバーズディスク検索ツール	131
インレット	15
エグゼキュート・ディスエーブル	
・ ビット機能	115, 224
お手入れ	
－ キーボード	178
－ ヒートシンク	169
－ フロッピーディスクドライブ	176
－ マウス	178
－ ワークステーション本体	166
温度センサー (REAR)	19
温度センサー (SYSTEM)	19
音量設定	
－ Windows Vista の場合	57
－ Windows XP の場合	60
か行	
解像度	44
拡張カード	
－ 取り付け	96
－ 取り付け場所	95
拡張カードスロット	16, 18
仮想メモリ	195
管理者用パスワード	157
キーボード	26
－ お手入れ	178
キーボードコネクタ	16, 223
休止状態	
－ Windows Vista の場合	65
－ Windows XP の場合	74
コネクタのピン配列と信号名	218
コンピュータウイルス	103
さ行	
システムメニュー	143
周辺機器	84
終了メニュー	156
詳細メニュー	145
情報メニュー	141
シリアル ATA コネクタ	19
シリアルコネクタ	16, 222
診断プログラム	184
スタンバイ	74
スマートカードベイ	13
スマートカードリーダ／ライタ	114
スリープ	65
セーフモード	183
セキュリティ施錠金具	15
セキュリティセンター	108
セキュリティチップ	114
セキュリティメニュー	151
た行	
通風孔	12, 15
ディスクアクセスランプ	13
ディスク取り出し穴	14
ディスプレイ	44
電源コネクタ	19
電源ボタン	13
電源ユニット	18
電源ランプ	13
盗難防止用ロック取り付け穴	16
ドライバーズディスク検索ツール	131
ドライブ構成	225
取り付け	
－ 拡張カード	96
－ メモリ	90
な行	
内蔵バッテリ	19
は行	
ハードディスクデータ消去	119, 125
ハードディスクデータ消去サービス	121
パスワード (BIOS)	
－ 削除	160
－ 種類	157
－ 設定	158
－ 使う	159
－ 変更	160
－ 忘れた場合	157
バックアップ	122
発色数	44
ヒートシンク	19
－ お手入れ	169
表示機能	217
ファイアウォール	110
フィッシング詐欺	111
富士通拡張機能ユーティリティ	127
富士通モニタユーティリティ	127
不正アクセス	110
フット	14
フロッピーコネクタ	19
フロッピーディスク	41
フロッピーディスクアクセスランプ	13

フロッピーディスクドライブ	13
－お手入れ	176
フロッピーディスク取り出しボタン ..	13
ページングファイル	195
ヘッドホンアウト端子	13
本体カバー	86
本体仕様	214

ま行

マイク端子	13
マウス	
－お手入れ	178
－使い方	22
マウスコネクタ	16, 222
マルチディスプレイ機能	47
－設定	
(ATI Radeon HD 2400 PRO)	52
－設定 (Quadro FX シリーズ)	54
メインスイッチ	16
メインボード	19
メッセージ (BIOS イベントログ)	162
メモリ	
－取り付け	90
－取り付け場所	88

や行

ユーザー用パスワード	157
ゆったり設定 2	127

ら行

ラインアウト端子	17
ラインイン端子	17
らくらくズーム	127
レジューム	
－ Windows Vista の場合	70
－ Windows XP の場合	78

わ行

ワークステーション本体	
－お手入れ	166

Memo

CELSIUS J365

**製品ガイド
B6FJ-2021-01-01**

**発行日 2009年7月
発行責任 富士通株式会社**

Printed in Japan

- このマニュアルの内容は、改善のため事前連絡なしに変更することがあります。
- このマニュアルに記載されたデータの使用に起因する第三者の特許権およびその他の権利の侵害については、当社はその責を負いません。
- 無断転載を禁じます。
- 落丁、乱丁本は、お取り替えいたします。